

川柳塔

今和二年九月一日発行（毎月一日発行）
創刊大正十三年 通卷一二〇号



日川協加盟

No.1120

九月号

本社句会 11 月 12 月ともに誌上句会です

本社句会につきましては年内に再開したいと願っていましたが、新型コロナウイルス感染状況が悪化してきましたので、11月 12月ともに引き続き誌上句会と致します。

それぞれの応募用紙は前月の塔誌に同封致しますので奮ってご応募くださいますようお願い申し上げます。

川 柳 塔 社

心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団 湯川胃腸病院



消化器科 放射線科 脳神経外科
緩和ケア（ホスピス）
デイサービスセンター併設



大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2 TEL 06-6771-4861

<http://www.yukawa.or.jp>

朝日ひろしま柳壇

小島 蘭 幸

朝日ひろしま柳壇の選を引き受けて、もうすぐ八年目を迎えます。その間、多くの人との出会い別れがありました。紙上で作品が発表されるのは月に二回ほどですが、ひろしま柳壇の一番の特長は、年に二回、朝日新聞広島総局の会議室で表彰式と出句者のつどいが開催されることです。

孫よ曾孫よふるさとに木を植えました 日谷 寛

私が選者として初めて、出句者のつどいに出席した13年度下半期賞の準特選句です。寛さんは、麻生路郎のふるさと尾道の川柳家で、毎年七月に開催する麻生路郎句碑まつりを発案、尾道川柳会の皆様とお世話をして下さっていました。が、昨年ご逝去されました。

三回忌伯母が明かした父の秘話 中川 信男

14年度上半期賞の特選句です。体調のすぐれない中、奥様と一緒に出席された信男さんは、表彰式の

後、「大きな賞をもらうのは初めてでびっくりしています」と心から喜んで下さいました。あの時の笑顔、とても美しかったです。

帰rido忘れた母の悲しい目 常國 喜好

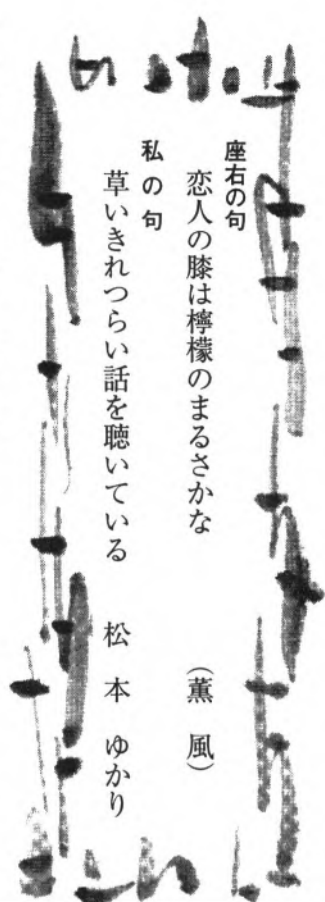
14年度下半期賞の特選句です。喜好さんは、ひろしま柳壇で常に上位に入選されている好作家です。現在各地の大会へ出席される等活躍の場を広げておられます。

婚活の男はつらいよ虫よ鳴け 小畑 宣之

16年度上半期賞の特選句です。尾道在住の宣之さんは、日谷寛さん亡き後も、尾道川柳会を支え続けておられます。

残照がやさしく包む一軒家 岸田 武

19年度上半期賞の準特選句です。川柳塔の最新号に武さんをはじめ、朝日ひろしま柳壇でご縁をいただいた多くの皆様の作品が掲載されています。今年の六月に開催する予定だった、19年度下半期賞の表彰式と出句者のつどいは、コロナの影響で中止になりましたが、朝日ひろしま柳壇から、川柳を好きになる人が一人でも増えたらいいなと心から願っています。



座右の句

恋人の膝は檸檬のまるさかな

(薫風)

私の句

草いきれつらい話を聴いている

松本 ゆかり

川柳塔 九月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「大和・忍坂」

■巻頭言 朝日ひろしま柳壇	小島 蘭 幸	(1)
川柳家の戸籍調	栗原 道 夫	(2)
川柳塔 (同人吟)	小島 蘭 幸 選	(4)
自選集		
句集の森	月 原 宵 明	(43)
温故知新		(43)
川柳塔の川柳讃歌	木 津 川 計	(44)
橘高薫風句抄		(45)
水煙抄	西 出 楓 楽 選	(46)
英語 de Senryu	吉 村 侑 久 代	(64)
せんりゅう飛行船	新 家 完 司	(65)
誹風柳多留 一二篇研究		(66)

「川柳家の戸籍調」

栗 原 道 夫

「川柳雑誌」に、大正14年4月から昭和11年12月にわたり(中断の期間あり)、「川柳家の戸籍調」という欄があった。柳人の姓名、雅号及び別号、生年月日、出生地、現住所、職業又は勤務先、趣味、好きな句、自信の句、川柳に手を染めた月などのアンケート調査をまとめたもので、500名の柳人が掲載されている。

その中で、生年月日が新たに判明した二人を紹介しておく。

まずは、宮島龍二。新興川柳誌の「水原」[「影像」等で活躍した人で、(立像のその石に帰る闇)へ壁に耳寄すればこゝに水の音(孔雀ふとおのが戀ころをも捨て)などの作品がある。

「川柳総合大事典」(以下「大事典」)では、明治32年(1899)生まれ。昭和2年(1927)5月7日、28歳で没となっている。正しくは明治33年(1900)10月26日生まれ。「大事典」は、享年28を満

愛染帖	……	新家完司選	……	(68)
檸檬抄「さらさら」	……	石橋芳山・古今堂蕉子共選	……	(72)
一路集「まろやか」	……	山口光久選	……	(76)
「サイン」	……	原田すみ子選	……	(77)
初歩教室「洗　う」	……	居谷真理子	……	(78)
川柳塔鑑賞	……	久保田千代	……	(80)
水煙抄鑑賞	……	片山かずお	……	(82)
路郎忌句会	……	……	……	(83)
インスピレーション・ナビ　印象吟	……	大西泰世	……	(92)
各地柳壇（佳句地十選／川端一步・籠島恵子）	……	……	……	(94)
七月各地句会案内	……	……	……	(104)
柳界展望	……	……	……	(106)
■編集後記（ひとこと／上田和宏）	……	朱夏・真澄	……	(108)

座右の句

八百万神様だつて得て不得手

（哲　男）

私の句

紙めくるように今日から明日になる　山　端　なつみ

年齢として単純に計算したのだろう。満年齢だと26歳で死去。まだ誕生日が来ていないので、数え年だと2歳足して享年28になる。

もう一人は、島田雅楽王^{うたわらう}。井上剣花坊の「大正川柳」出身、新興川柳誌でも活躍した人で、（馬よりも牛の淋しい尾じやないか）（お月さまこんなに草が枯れました）（水の輪のひろがって行く音も無し）などの作品がある。

『新興川柳選集』では、1887（？）年生まれ、「大事典」では、明治19年（1886）生まれ。両書とも昭和17年（1942）没、享年55となっている。『新興川柳選集』は、享年55を満年齢として1887年としたが、数え年かもしれないと考えて、？を付けたのだろうか。『大事典』は、単なる計算ミスだろう。正しくは、明治22年（1889）10月1日生まれ。昭和17年死去だと、享年54になる。享年55が誤りだとは考えにくいので、亡くなったのは昭和18年だと思われる。

「川柳家の戸籍調」は、今となつては貴重な資料であるが、読み物としても充分楽しめるものである。



小島蘭幸選

香芝市 山下純子

子育ても家庭の味も母譲り
健脚を育ててくれた通学路

集うという言葉飲み込むコロナ菌

オリンピック消えてパブリカ実をつける

マスク映える髪型に変えてみる

ステイホーム夫婦の距離は密になる

大阪市 平井美智子

生き様を問うて一羽の海つばめ

幸せ色でしたね母の玉子焼

母のぐち今なら聞いてあげたのに

空を見る心が上を向くように

まだ少し頑張れそうな夏の風

てのひらに雨わたくしは生きている

河内長野市 山岡富美子

列島が形を変える扱られる

豪雨禍にコロナ命が揺れている

マスクにも個性が街は美女ごっこ

揺れている残り時間もわたくしも
怠け癖自粛モードがカバーする
形状記憶背中が亡母のようになる

橿原市 居谷真理子

寂しさに気付いた君に会ってから

パソコンの光を浴びている独り

個包装されてマスクの群れの中

君の眼にまた海原を探してる

手を放しました静かになりたくて

会いたアい会いたいたいと読むお経

松山市 柳田かおる

振り子時計の音色あの頃思いだす

弾む日もあった軋んだ日もあった

ふり返る時間になつていた自粛

平穏なようで物足りないように

カラスより先に見つけるミニトマト

燃え尽きるそんなことは遠く聞く

塩竈市 木田 比呂朗

日本酒で演歌やりたくなる九月
息災も一緒に届くダンボール
コロナ禍に竜頭蛇尾のフルムーン
朝ドラも足踏みさせているコロナ
卓囲み四密醸す誘い来る
ウイルスも待つていそうな夜の宴

大阪市 藤田 武人

タブキーを押して仮面を被ります
携帯のロックが解除されている
朝ごはん定年の日に黄身ふたつ
胃カメラが心の闇を写し出す
ゴーストになつて身軽に自己主張
三日後に捨てた子猫が帰宅する

大阪市 栃尾 奏子

何故毒を持ってしまったのか花よ
絵手紙で母から届く処方箋
無駄なことだから夢中になるのです
還暦へ向かう背中のおたくましさ
川沿いに学生服の二人乗り
愛したいいつか一人になる日まで

松江市 石橋 芳山

薔薇という狡さでファゴットが響く
屈辱にまみれて貧弱な胡瓜
まだ甘さ残してニンニクのガッツ

球体のままに転がる日曜日
むちゃくちゃを小籠包に包み込む
空っぽの俺に反発のくすぶり

鳥取市 岸 本宏章

選抜の球児に晴れの舞台来る
筋トレの三日坊主が情けない
家族葬が普通になった計報欄
新型コロナのルーツ曖昧にはできぬ
揺れているのは私か世の中か
モリカケも桜も消した新コロナ

鳥取県 斉尾 くにこ

おみやげに詫びとバラとを持っていく
無農薬そんな二人の夕御飯
新しい陽射し透明フィルム抜け
万歩計忘れて足した一万歩
あなたの中の私は笑っていますか
楽しみの種が余白で咲きました

南あわじ市 萩原 狸月

歳だから許せと都合よく甘え
ご近所の厚意に甘え住むひとり
酒の友将棋の友と広い顔
兄弟も親の記憶にずれがあり
制服が融通効かぬ人にする
自粛してコロナの鬱と梅雨のうつ

札幌市 小沢 淳

なるまでは時の担い手だった筈
日本の明日の景色がよく描けぬ
皆笑う安倍のマスクを使用中
公園が呼ぶ原石のカケラ達
開拓の三代目とて素手素足
挑戦者藤井聡太という子供

豊中市 藤井 則彦

名台詞を真似した孫の口答え
いつの間に妻の字に似てきたと知る
おめでとうにほんのり透ける嫉妬心
がむしやらに生きて来たなと今悔いる
職人と言われる人は威張らない
ノーと言う勇氣に人は畏まる

奈良市 米田 恭昌

折り鶴一羽お見舞品のトッピング
下町徘徊昭和手繰っている孤老
観客の死角で泣いていたピエロ
ファッションマスクも目力には勝てず
外出自粛子がぐずるのも無理はない
コロナ禍に人智結集して生きる

松江市 藤井 寿代

宇宙まで運んでくれる深夜便
忘れるのあきらめるのよ笑うのよ
トンネルを抜けたら鳥になっていた

青空は真つ白なTシャツが好き
茶漬さらさら哲学齧っている
人間の驕りを論すコロナウィルス

桜井市 安土 理恵

すっぱんと洗いざらしのいる自粛
ミニ菜園土を愛しむ夫の手
猫じゃらし年中枯れずいてほしい
世渡りの下手は妥協も許さない
多数決あとで文句の出ぬように
こんなはずじゃなかったけれどわるくない

犬山市 金子 美千代

十三回忌亡夫がほめてくれました
私のメンテ電話代には目を瞑る
横文字の好きなトップの目眩まし
二階への往復雨の万歩計
雨しとど一人芝居の笑いヨガ
災害日本コロナだろうと容赦なく

尼崎市 藤井 宏造

お出掛けにマスク忘れて引き返す
往復五分マスクしないでポストまで
イベント中止花屋の花も寂しそう
俄雨さつと飛び込む縄のれん
妻の愚痴相槌だけを入れておく
九十一のダンディーが弾く駅ピアノ

大阪市 高 杉 力

いつの日か大阪弁で値切りたい
車にはあるクーラーが家にな
日本の誇りだ無人販売所

練り上げていくと企画の角がとれ
標準語でしゃべってしまいうし振り
意味のない笑みは誰から教わった

鳥取市 前 田 楓 花

ステイホーム焦げた夫の卵焼き
楽しみを見つけたよフォト五七五
日帰りのツアーで出来たい仲間
テンションの上がる完熟さくらんぼ
古里は甘い匂いの風が吹く
ねむの花フワツと咲いて風和む

箕面市 中 山 春 代

マスクしてノッペラボウの街に出る
げんこつが習慣になる押しボタン
マスクせぬ夫は我が家のトランプ派
CMの誰もマスクをしていない
女子会の弾んだ毬が止まらない
濁流のテレビにめまい今日も雨

神戸市 富 永 恭 子

ほーとしてる間にだあれも居なくなる
守りたい人を守ってできた傷
私には真実告げたピノッキオ

さらさらと生きてなんにもとどまらず
きどらない地方紙郷土愛滾る
腹立てるほどでも無いと昼寝する

鳥取市 田 賀 八千代

笑いという薬味を振って場を繋ぐ
子守唄やさしい風に変えていく
見取り図が無いまま飛んでいる綿毛
シナリオを時々変える妻の乱
けんけんば遊んだ友と今ライン
自粛してキューリもナスもよく太り

八尾市 山 根 妙 子

人救う水が時には夜叉になる
七夕の短冊空し泥まみれ
天の川地上の河川見えますか
あいまいな自粛の尺度出る不安
言いたいのが深呼吸して耐えておく
歳ですと診察前に言っておく

加西市 山 端 なつみ

母の死は自宅で家族見守って
賑やか好きの母に満杯葬儀花
母さんに抱かれたかったのに遺骨
コロナ報道連夜の客の数読めぬ
三密を避ける法事の案は無し
コロナ収束一回忌には全員で

弘前市 稲見 則彦

五輪音頭三波春夫とソノシート
上弦の月とわたしは夫婦です
ハイポーズ僕の後ろに岩木山
夏祭り絵日記ひとつ描けぬまま
出刃庖丁少し小振りに替えました

弘前市 今 愁女

地方に居て飛び火のコロナ警戒す
梅雨は明けても三密は続きます
男にはステテコがある暑い夏
おんなとて短パンはいて水やりす
締め切り日急かされている余生なり

男鹿市 伊藤 のぶよし

輪から抜けコロナの風を聞いている
引き籠りちようどよかった恙なし
揉めたってステイホームじゃ逃げられぬ
粛粛とただ粛粛と蟻の列
新生活の別の物差し用意する

東京都 川本 真理子

鉛一つくれる二歳児の真剣
思い出に浸るばかりの大掃除
花びらを一枚のせて亀の午後
いい風が吹いても少しこの世でと
手を洗う祈ってはまた手を洗う

東京都 まえで とよこ

梅雨晴れ間「よっこらせ」っと立つベンチ
園児たちあいだをあけて輪になった
保育室おてふきタオルなまえ入り
外出制限インドの空気澄みわたり
ニュースに登場ヒマラヤ山脈ガンジス川

八王子市 川名 洋子

自分史の一ページ塗るコロナ色
通学路三密避けて寂しそう
春の服自粛したまま夏になる
しとしとと雨の音聞き源氏読む
散歩楽しむ人の背について行く

横浜市 川島 良子

シトシトが死語になりそう梅雨豪雨
告白ドミノ辞任ドミノが止まらない
アベノマスク記念に飾ってある我が家
トランプ打倒へ期待も込める暴露本
人参が嫌いどこまで坊やなの

横浜市 菊地 政勝

保険には入れぬ年で不調気味
佛壇へ毎日同じ願いごと
マスクから挨拶されて立ち尽くす
知恵もない対策もないコロナ菌
反芻の言葉が消えてゆく加齢

さいたま市 星野育子

自然界警告コロナ禍と豪雨

災害避難自分で守る命

人生のピンチはいつでもどこにでも

マスクにも戦と予防の役割

都知事さんキャッチフレーズ次々と

上尾市 中村伸子

アマビエにすがりたくなるコロナの世

もう限度美容院への予約する

一年後オリンピックが見えて来ぬ

マスクせぬ訪問者見てきよつとする

区費集金久方ぶりの会話です

朝霞市 前田洋子

ワッフルの香に衝動買いをさせられる

少食で好きな物から食べていく

診察を待つイクメンはママのごと

二時間をあつという間に友とテレ

論される夫は居ない自制する

越谷市 久保田千代

追伸にある真心がありがたい

気真面目な男ネオンにまた負ける

目立たないところに楔打っておく

本心がバックミラーをふとよぎり

懐の深さを神に試される

富山市 ひかる

免疫力アップでコロナには負けぬ

住職の手作りマスク宝物

黒ユリへ思い叶った一行詩

今の幸恩を決して忘れない

潮騒の映画に若き日を想う

可児市 板山まみ子

会えぬからまた長電話コロナ鬱

難聴の友に電話のできぬ老い

トイレ風呂自分でできるうちは華

痛む膝卒寿の道は険しそう

買のおきが底をつきそう雨続き

愛知県 早川遯行

寂しいと思ったことはない独酒

今日も飲む自分を見失わぬよう

寝た切りでないのが救い妻の部屋

日に三度部屋の空気を入れ替える

若者が散蒔いていくコロナ菌

大山市 関本かつ子

紫の服が似合った頃が華

終活は同じ方向見る二人

不可能を可能に出来た若い頃

次々と令和二年にある試練

もう一度だけ会えたらと思う人

鈴鹿市 小河柳女

難病になる神仏はいなかった
茨の道に夕焼けが映えわたる
歩いても歩いても道ができない
ひそやかに日をすごしてる病身です
運も不運も神の御心のままです

神戸市 上田和宏

一寸ばやくとちよつと元氣が出る不思議
日帰り旅出来て楽しい自粛明け
暮れゆけば羅漢に変わる枯れ木立
わが人生おんな一人を持て余す
コロナめと同行二人そろりそろり

神戸市 奥澤洋次郎

洗濯機まわしはじまる妻の朝
うかうかとコロナ肥りと自粛ボケ
風俗を叩き目線を外させる
コロナパニックそれはないでしょ 感染数
道頓堀秋田實をさがしてる

神戸市 敏森廣光

義母が逝くまた大正の灯が消える
もうすぐ手術麻酔の覚めぬ時思ふ
コロナ禍も野球と酒があればいい
川柳が好きな私は落語好き
僕の影足腰ゆらり揺れている

神戸市 能勢利子

ステイホームアルバム整理して暮れる
アルバムに私に戻るのはごめん
私には大事な写真だけ少し
卒業アルバム資源ゴミにもなりません
孫の写真はスマホの中で整理する

神戸市 松倉正美

テレワーク写る処に花を挿す
テレワーク猫に踏まれたキーボード
ステイホーム積ん読の本斜め読み
テークアウトプラゴミ共に付いてくる
ブランドのマスクを付けてお洒落する

神戸市 山口光久

瞬きをする間にチャンス逃げました
この歳まで蹴飛ばされて立ち泳ぎ
踏まれても蹴飛ばされても笑つとこ
青筋を立てるほどではあるまいに
よぼよぼの仕草に孫は気をつかう

神戸市 山口美穂

長電話コロナのうつを解き放つ
八十年自粛うつなど知らなんだ
手作りマスク今日は何色どんな柄
五七五に自粛はないと言いきかす
服よりもマスクが決め手出かけます

明石市 糀谷和郎

これからの生き方コロナから学ぶ
沈む陽を抱いて英氣に変えている
みな中流言つてた頃が旬でした
まだ若い今もこだわる絵空事
嫌なこと刻がじんわり消してゆく

芦屋市 竹山千賀子

田園に交響楽の雨蛙

蛙にも美声と音痴がいるらしい
記念樹にようやく咲いた花一輪
いつだつて道半ばだと夢を追う
雑巾を絞る力は残つてゐる

尼崎市 近兼敦子

知らぬフリしていてくれてありがとう
べらべらと話さなくても仲は良い
巻き戻すことができてまた一緒に
褒められて一品増える母の味
表では優しい母と言われます

尼崎市 永田紀恵

値上げせず竹輪の穴を太くする
まさかです息子の嫁に胸がキュン
根回しが過ぎて五輪は五里霧中
八十歳はっと気付いて萎えた恋
役割はハイここまでと砂時計

尼崎市 藤岡りこ

改札を出てほっと寛ぐ顔になる
久し振り子らの声聞く自粛明け
駅構内旅行者らしき人見ない
久し振り友の笑顔に会う句会
底ぬけに明るい孫が気にかかる

尼崎市 藤田雪菜

低気圧私の気力奪い取る
ぐらぐらの足が支える自尊心
手遅れの皺へ補う美容液
公園をカラスが闊歩朝日さす
どこまでが効くのでしょうかサブリ飲む

尼崎市 山田耕治

宮の木に孫見せに行く宮参り
樹木葬もいけど蟬が鳴きわめく
エンディングノートの隅に辞世の句
ときどきは小声でファイトファイトファイト
逆転で勝った筋書あるように

川西市 山口不動

八十路坂二度目の母の喪主となる
祖父一人スペイン風邪で死んでいた
闘病の幼馴染に何話そ
自粛なら余命足してよロスタイム
夏至なれば二の腕まぶし女高生

三田市 足立 つな子

しがらみの線を離せば楽に生き
スタスタと往き交う人のスニーカー
子が巢立ちはしゃぐ声なくひっそりと
お土産の重いつづらは遠慮する
父さんの一言ぼつり噛み締める

三田市 上田 ひとみ

本当にこんなに弱い私です
短気だと再認識の家ごもり
朝昼晩考えているフライパン
長生きをしている貴方立派です
知らんぷりしていたらまた笑えるよ

三田市 大西 重男

待っていた行事中止で力抜け
八十路でもおっちゃんと言う頑固者
雄叫びをあげて野球を見てみたい
背伸びしてやっと届いた孫の肩
お荷物と子らに言わせぬ隠し金

三田市 尾崎 一子

安寧を祈る和尚の背も丸く
紫陽花の涙のしづく七変化
何よりも仲よく暮らす子に安堵
ひとつずつ補助具も増えて万の杖
手料理でもてなす友を待つ日和

三田市 九村 義徳

入り婿にやつと合格長かった
通知までホツとするにはまだ早い
弁解に疲れて貝になりました
おしどりの夫婦を演じ疲れ切る
踏まれてもじつと我慢の濡れ落ち葉

三田市 多田 雅尚

解除され自己責任という重み
自己責任と言われマスクは手放さず
長い友と書いて覚えた髪疎ら
電車でもポツンと座る孤独感
居酒屋も守るソーシャルディスタンス

三田市 谷口 修平

固結びするから切れる赤い糸
身の丈に合った歩幅になる余生
道標残してくれた祖母の知恵
舶来の病気地球も狭くなる
待ちぼうけなどとは知らぬ花時計

三田市 福田 好文

なぜだろう思わぬ人が夢に出る
言わないがニート言い分たんとある
勝手気儘に生きて味わう孤独感
遠縁から招待状が来る感い
故郷がまた遠くなる長兄が逝く

三田市 堀 正和

自転車が湧き出してくる休校日
ポストへは中止の手紙ばかり着く
雨の夜は妻を相手に白ワイン
蛍さんサヨナラ 蟬さんコンニチワ
梅雨明けの太陽浴びてウリスイカ

三田市 松本 ゆかり

マスクしてちよつとヘップバーンの眼
夏祭り今年も神も御出まさず
給付金知ったかスマホ故障する
ちよつと気の抜けたサイダーうまくなり
思考力つぎに嚙下に老いがくる

三田市 村田 博

背比べ今年も負けた立葵
神様の涙が涸れて明ける梅雨
母ちゃんに叱られ逃避する畑
菜園に行けば必要ないマスク
煮て焼いてコロナ退治をするレシピ

高砂市 松尾 柳右子

生きる幸アイスコーヒのほろ苦さ
8月の旅程に活気づく準備
3密を避けるゆるみを突くマスク
熱中症水分補給する自衛
公開はできぬ八十路の時間割

宝塚市 丸山 孔一

ナツメロに抗し新曲だけ唄う
農業も狩猟も人は群れてきた
暑いねえそれだけで済むご挨拶
洗濯機マスクの愚痴もかきまぜる
鳥の声遠くに踏切鉦の音

丹波篠山市 北澤 稠民

来年も元気なつもり決めておく
とざされた心を風が誘い出す
待つ人がもう居ないから急がない
浄土へもロマン両手にさげてゆく
老いという中で学んでゆく我慢

丹波篠山市 酒井 健二

マスクして花粉症には効きました
解せぬ世と浮き世の人がみんな言う
恥ずかしやカルテが私さけけ出す
体調は一食抜いて整える
酒飲む日朝から元気夜元氣

丹波篠山市 長谷川 善輔

猫寝てる冷房切れずつき合おう
科学の進歩ウイルス進化に追いつけず
やれクラスターやれ三密や日本語柔軟
亡妻と行くスイス旅行が昼寝の夢に
鉄橋も流されるTV背筋も凍る

西宮市 緒方 美津子

第二波に脅える街に夾竹桃
ルンバより雑巾が好き木の廊下
三世代同居してます楕円形
夫と行くと決断が鈍るバーゲン
野球サッカー活気がもどってるこわい

西宮市 亀岡 哲子

シアワセや言うてあの世へ行った祖父
まとまらぬ思案の渦のまま眠る
お地藏さまを撫でた両手も消毒し
巣ごもりの家に窓あり空無限
口喧嘩毎日ですと羨まし

西宮市 福島 弘子

鳥だろか風の土産か百合伸びる
リメークの亡母の絞りが温かい
新しい故里の駅落ち着かぬ
三杯酢自粛の昼の心太
人待ち顔富良野の丘のラベンダー

西宮市 福田 正彦

夫婦船仕上げる旅に梶を切る
熱弁に遊び心は生まれない
振り上げた拳いやだとばあにする
我が儘に心が晴れた例はなし
富岳にて見下ろす乱世治めたい

奈良県 安福 和夫

半世紀かけて染いた巣に籠もる
常識を別バージョンにするコロナ
マスク嫌い感染例を見せる気か
何のためヒトいじめるのコロナ君
見たくない札付き男また画面

奈良県 谷川 憲

コロナ禍の風評被害情けない
人権とコロナに揺れる民主国
ひと粒を粗末にできぬ棚田米
散歩道明るく咲いた合歓の花
古都の祭り中止になって味気ない

奈良県 中原 比呂志

疫病に攻められ雨量にいじめられ
ミリマクロ暴れて国が病んでいる
ままならぬ逢う瀬天の川氾濫
世話役の手抜きコロナのせいにして
感染の予防カマキリの構え

奈良県 中堀 優

見ておれよ握り拳に俺の夢
何だって褒められ旨くなってゆく
腹一杯食べられたこの幸せ度
頑張ろう夢が背を押す時がくる
俺磨く敵は自分と解りだす

奈良県 長谷川 崇 明

ゼロ続く岩手応援したくなる
朝顔はコロナ知らぬの顔で咲き
人の波明日は我が身と思わねば
肩軽くガイド卒業昼の月
蟬で起きスマホで暮れる夏休み

奈良県 渡 辺 富 子

まだともう身辺整理して思う
よそ行きの服のあくびを見てしまう
メルヘンへそつと誘う蝶の羽化
コロナ肥り笑い合ってる午後のお茶
眼を病んで人のところがよく見える

奈良市 宇 賀 史 郎

子が育つ親の財布の域を越え
湧水に浄さ豊かさ神をみる
うっかりのない日が欲しい昨日今日
忘却と闘ぎ合ってる新知識
不器用に生きて時間はすぐに経ち

奈良市 大久保 眞 澄

古稀の血をまだ吸いにくる蚊も哀れ
顔のある会話コロナに奪われる
心の距離が怖いソーシャルダンス
誰のための経済効果なんだろう
日本さえよければできますか五輪

奈良市 加 藤 江 里 子

自粛解除変わらない朝でも違う
第二波にアベノマスクを取っておく
朝四時の目覚めラヂオに癒される
久し振りにたわいなきこと語り合う
どんな時もぶれることない配偶者

奈良市 高 橋 敬 子

たっぷりの時間に整理捗らず
おしゃべりの代わりのライン物足りぬ
再開日他と揃えて不安消す
怪訝な目にあわててマスク着けている
感染情報天気予報のように聞く

奈良市 辻 内 げん せい

日常が戻ったと知る通学路
スマホあれば辞書は机の飾り物
褒められず叱られもせず生きて今
軽い方ボクが持つよと泣かす孫
モヤモヤも孫の笑顔が吹き飛ばす

奈良市 山 本 昌 代

待っていた句会開催する知らせ
ため息が一つ二つと出る無策
お声がけひとりぼっちにならぬよう
手を貸せる今を大事にして生きる
雨雨雨の怖さを知るテレビ

生駒市 飛 永 ぶりこ

二人してよくぞ紡いだ五十年
しゃかりきの金毘羅参り若かった

朝顔の渾身の笑み出会う幸

旅立ったけれど樹木に君が居る

甘え下手この一言がぼつり浮く

香芝市 大 内 朝 子

久々の句会笑顔の華が咲く

採りたてのキュウリ届けてくれる友

生き下手なわたしを諭す団子虫

ひよっとしてひよっとするかも虹が立つ

コロナ禍がわたしの笑顔まで奪う

和歌山市 上 田 紀 子

梅雨晴れ間減り張りつけて家事こなす

窓辺で雨のダンスを聴く癒し

程ほどに忘れ上手で生き上手

頑張っても褒めてもらえぬ家事続く

未消化の私を映しだす川柳

和歌山市 柏 原 夕 胡

肅肅と真摯に今を生きている

嘘つきはキライ黙して語らない

君という爆弾恐れていた過去

横道へ一緒に逸れてくれた父

幸せを忘れ覚えている不幸

和歌山市 喜 田 准 一

逆算をすれば答はすぐに出る

兆と言う赤字庶民に背負わせる

きつと来る明日を信じて立ち向かう

解散をすれば政治は変わるのか

喜びは2人で越えた八十路坂

和歌山市 坂 部 紀久子

俄か雨相合傘となつてから

ソファーに守りされてうとうとしています

外出禁止テレビに今日も守りされて

欠点の一つが長所になってます

十人十色勝ち負けなどはありません

和歌山市 土 屋 起世子

感染者ゼロで平穏過疎の町

間隔を空けて愛情増す夫婦

鈴の音のようにひと言心地よい

美肌より歩ける足がいとおしい

心技体みな順調に老いてゆく

和歌山市 古久保 和 子

沸点の低いわたしのひとり言

料金不足挑戦状が舞い戻る

ひとり言の相手はいつも缶ビール

風鈴を吊せば風が寄ってくる

大時計手持ち無沙汰の昼の駅

和歌山市 堀

富美子

紀の川市 山東 日出男

実る日も挫折もエール惜しまない
永らえて下りねばならぬ分を知る

うとうとと桃源郷の日が長し

ちよつぴりは届いてほしい胸の鈴

フアッションに似合うマスクが届けられ

和歌山市 松原 寿子

花が好き花コンクール初参加

用済みになった訳ではないレンジ

カラオケの海で充電して女

飛び回る出不精だったのにわたし

誇るものないけど指定席がある

岩出市 藤原 ほか

マスクして目元しっかり描いている

紫陽花がびつたりはまる梅雨もない

雑草の生命力にはおてあげだ

雑草は岩を砕いて生きている

わたくしも雑草のように生きている

海南市 小谷 小雪

強風も味方につけて友に逢う

詮索はおよしなさいと言うカラス

無事帰館したとあなたから電話

食べる時さすがスマホを止めている

梅ジュースできた遊びに来ておくれ

軒下のツバメと共に雨宿り

利用客減って豪華な駅が建つ

梅雨晴れ間イタチごっここの草を抜く

怒るより偶にはうんと褒めようよ

シベリアの凍土もかいた玉の汗

橋本市 石田 隆彦

これ以上歩いて行けぬ襟裳の地

五感にくる地球の息吹疏黄山

画家泣かす自然パレット五色沼

高揚感ぐつと湧き立つ窓の富士

写真より臉に残る上高地

京都市 清水 英旺

あれもこれもコロナの後のお楽しみ

こらえ性のない人狙うコロナ菌

呪われた令和二年の厄続き

九条が全く頭にならない政治

幸せの門を叩くも応えなし

京都市 藤井 文代

薄味で素材引き立つ京料理

白髪でも白髪の方に席譲る

良き事嫌な事補聴器なら聞き分けて

着地点ちよつとずらせば解る風

控えめと違う知らないだけのこと

長岡京市 山田 葉子

大切なものの順番が変わってる
音もなく壊れた昨日の日常
棚の本あと二センチが届かない
たつぷりと贅肉つけて診察日
まだ生きててもいいんだよには弱い

八幡市 今井 万紗子

自肅中か亡母がさっぱり出てこない
お隣さんもラジオ体操始めてる
ステイホーム妻が微妙に塩きかす
信じよう何時か笑顔で逢える日を
窓越しでタツチ義母さんまた来るね

大阪府 米澤 俣子

ジャンプ傘ほどの瞬発力あれば
自肅して内蔵脂肪だけ溜まる
コッペパン食品ロスを悲しがる
白苺赤い苺の味が無い
ありがとう互いに多くなる夫婦

大阪市 磯島 福貴子

心通わすハグもタツチも今自重
これ以上付け入らせるなコロナ菌
方向音痴夢の中でも迷い子に
夫婦ゲンカ三日が限度だんまりも
コーヒー入れ鉛筆削りさあ一句

大阪市 井丸 昌紀

オンラインで酒酌み交わす気が知れぬ
自肅させたし補償はできず
インバウンドいなくなったはいいいけれど
史上初の豪雨今年も言うてはる
七月の雨が一番粘ってる

大阪市 岩崎 公誠

収支など合わなくてよい生きてゆく
のんびりと過してきたら八十五
生きるため不急不要を選び別ける
人の名を覚えることも脳トレだ
万歩計おまえのためにもう八歩

大阪市 岩崎 玲子

コロナからどんどん肥えてゆく私
お酒だけステイホームで強くなり
ほんまかいな今年も半分過ぎました
ステイホーム脳まで鈍くなる始末
趣味の会休み続くと萎えてくる

大阪市 内田 志津子

土石流何の試練か肥沃の地
出来合いを買ってしまった年老いた
長文の便りに返事いまだ来ず
わらび餅孫と傘寿の午後三時
娘が嫁ぐ優しい笑みを携えて

大阪市 宇都 満知子

七夕の暦律義に雨が降る

水たまり子ども短パンにサンダル

本を読む耳は雨音風の音

欠けた樋雨がスキップして唄う

ちよっと嬉しい消しゴムの消し心地

大阪市 江島谷 勝弘

父の日を期待していた愚かしさ

五十年つかず離れず友が逝く

コロナ禍で三キロ太っちゃいました

もう今は我慢せずにプツンする

オレに似てあんまり喋らぬ父だった

大阪市 榎本 舞夢

夏帽子マスク美人が闊歩する

自粛明け日射し眩しい街となる

公園も華やか集う午後三時

三密を守って徐徐に賑わいぬ

コロナ水害唯唯祈り申し上げ

大阪市 大川 桃花

虚弱児が傘寿の景色見れるとは

神様の決めた所で生きてます

災害の怖さ年々増すむごさ

頑張りますと被災老夫の頼もしさ

紅引けぬマスクへ気合いアイメイク

大阪市 大 治 重 信

医師だけがレントゲン見て我を見る

干柿が残り二つで夕日受け

残る世を天に数えて鯛雲

手をひいて父を見上げる七五三

隣から我が家訪ねる油虫

大阪市 奥村 五月

経済とコロナ天秤かける知事

外出もできず論吉はまだ寝てる

小粒でも世界征服したコロナ

電話だけ夜の付き合いお断り

手を取って教えられない鬼コーチ

大阪市 小 野 雅 美

ラッキーマンにしておくたくしの努力

仏壇へ弱音は吐かぬ父の意地

好き嫌い決着できぬ脳回路

飲み込んだ言葉が胸で踊りだす

薄着からはみ出るタトゥー見てしまう

大阪市 笠 嶋 恵 美

スーパーム気分転換あちこちへ

おはようとしてらっしゃいお隣さん

長生きは修行のような気がするの

出来なかった事も思い出せない

「まだ青い」句集は宝友つなぐ

大阪市 金川宣子

大阪市 坂裕之

補聴器も内緒話を楽しんで
公園のスズメ三羽を手懐ける

大雨とコロナで自粛また延期
動くのはしない男が口は出す

肺炎を患う夫の従順さ

今月も検査しますとお医者さん

介護食そっくりまねてダイエツト

迷うから余計決められなくなるの

病得てやつと叶えた酒を絶つ

今日からはマスク外してさあ遣るぞ

大阪市 川端一步

大阪市 高杉千歩

逢つて来た余韻そのままベンを執る

あきらめるのは早いナンテ九十四

ネギ刻む音は和解のサインだな

人間に生まれ有難いこと五七五

いずれ世話娘の断捨離に逆らわず

スマホ片手内緒ごとありません

錆びて来た脳のスベアはおまへんか

走つてる夢ばかり見て九十四

コロナ禍に大国の役あるだろう

リハビリでファイトファイト九十四

大阪市 古今堂蕉子

大阪市 田中廣子

命ある野菜命のまま食す

自粛して疲れがたまる足と腰

未来より今の立つ位置踏み固め

トランプ氏選挙のためにマスクつけ

不満ない日々を退屈という不遜

コロナ禍で被災地行けぬボランティア

人間を引退する気今はない

土砂くずれあつという間の別れです

今更に自粛のメリットデメリット

降り続く雨の被災地どうなるの

大阪市 近藤正

大阪市 田中ゆみ子

激動の時代に未来切り拓く

マスク縫うミシンの音が嬉しそう

モリカケにサクラクロカワカワイアベ

本の香を吸いに時々寄る本屋

伝統のまつりをコロナ総ナメに

いじわるな人だ嘘つけぬ人だ

都構想都にはなれない蜃気楼

蛇口よりほとばしる水原爆忌

香港の心を法で縛れるか

この人と歩いて行こう朝の虹

大阪市 谷口 義

八十五年を袖畳みにしておきました
なかなか良い人生だったと水を飲む
階段の下にスリッパ脱いだる
生きるのも死ぬのもむづかしい歳になり
そんなこと言うてられへんから起きる

大阪市 津村 志華子

腹立てばそつと寝かせておけばよい
趣味ひとつ続いて友の輪が温い
雑念がよぎってお経間違えた
むづかしい話は止そう羊雲
のほんと独り暮しのマイペース

大阪市 寺本 実

ウィルスが蝕みこわす仲間の輪
店名は後ろめたくて言えませんが
ぬいぐるみ俺のボヤキを笑みで聞く
いい人と言われ梓から外される
自らが描いた梓から出られない

大阪市 中井 萌

被災地の姉よ従姉妹よ友人よ
人の世に雨ありがたし雨憎し
生きにくいゴキブリさえもわたくしも
夜の街賑わう頃にもう寝てる
丁度良い今の自分で丁度いい

大阪市 原田 すみ子

穏やかな一日言葉数じゃない
謝って居心地悪くなったらし
梅雨晴れ間湿った元氣干しておく
二度三度周平の味噌みしめる
ニキロほど増えたらすぐに微調整

大阪市 平賀 和

自粛して句会もできず夏となる
五輪延期静かな夏となりけり
想定外夏にも強い新コロナ
コロナ禍も戦よりまし耐えられる
十万円義捐金にも使います

大阪市 宮崎 シマ子

一夫一婦の鳩が帰って行くホーム
県道の広さに蛇は悠悠と
夏落葉輪廻だろうか一人生き
軽やかとは言えぬ石段と趣味の道
よく世話はしてくるけど他人様

大阪市 山本 加お里

子育てと介護五人でいまひとり
寝ときやとタッチしてから子が帰る
生れつき骨が丈夫とおすみつぎ
もぎたてのキュリーオクラにせかされる
同じ千支姉の年まで生きたいな

大阪市 横山里子

苔寺のしじま待ち望んだ月日
声よりもあなたの笑顔見たくって
ただならぬ世それでも明日も日は昇る
底力明日はこの倍束ねよう
ああしんどマスクどうしの立ち話

大阪市 若本安代

諦めればそこから老いていきそうで
久しぶり心もお洒落美容院
落ち込む日プラス思考の人と会う
力にはなれぬが聞いてあげられる
夏まつり消えて淋しい笛太鼓

堺市 奥時雄

殺人は違法で死刑は合法
大国の民主主義とはその程度
恣意的に憲法つくるとは凄
ウイルスをばらまいといてほらマスク
自由を知ってしまった香港の悲劇

堺市 柿花和夫

ウイルスがまつり太鼓に穴あけた
古里は断りもなく無人駅
ウイルスが核を捨てよと野火のごと
あの方と互角であった頃もある
性善説を信じなおしている平和

堺市 源田八千代

心ばかりカンパに当てる給付金
返信に悲喜交々のドラマ見る
六甲おろしに沸きたった日のくだおれ
信念を貫き通し恩師逝く
米寿すぎ終のすみかへお引越

堺市 齋藤さくら

コロナには掛からぬ自粛した甲斐か
友達に見せた涙はほんまもん
人生のお手本があるあっちこち
ひと言にこだわる方が笑われる
病院の送迎バスに手は振らぬ

堺市 坂上淳司

コロナ禍がふぐ提灯の灯を消した
風光明媚な球磨の流れが大暴れ
三年も続く豪雨禍氣候危機
今一度少女グレタの声を聞け
コロナ禍に豪雨禍知るや神佛

堺市 澤井敏治

玉の汗かいてもらった滝の涼
マリンプルーの風抱いている夏の恋
亡父の檄囃みしめて読む十七回忌
手酌酒ステイホームにすすむ猪口
気がつけば秋が梢で遊んでる

堺市 遠山唯教

成功も失敗もいい肥やし

ゴールデンどの瞬間もうつくしい

過ぎた夢を追いかけるほど野暮じゃない

汗光るひとりじゃできぬこの道だ

御世辞いうほど人間がまだできぬ

堺市 内藤憲彦

コロナ禍へ日傘広げてデイスタンス

夏バテに注意と子から焼うなぎ

戦争の無いこのマンネリが誇らしい

雨降れば傘さす教え幸之助

尖んがった自分笑える七十二

堺市 矢倉五月

夫逝った後の追い風向い風

無防備で話せる友で丸顔で

山程の愚痴を主治医に話し回復

その話麻酔を打って聞きする

狭いテントで夜明かし親子水入らず

池田市 太田省三

テレワーク女優ライトで偽装する

気休めのサブリは効かず膝痛む

軽トラの父の出迎え夏休み

娘に持たす画質の粗い幼少期

律義さを七三分けで演じ切る

貝塚市 石田ひろ子

梅雨晴れ間無沙汰の墓の草むしり

ウォーキング武装のようにするマスク

コロナ禍に耐える力の五七五

くしゃみして周りの視線突き刺さる

コロナ禍も逃げるおばちゃん達のお茶

河内長野市 大島ともこ

冗談だよと笑う瞳にある本気

だんじりの気配体が踊り出す

うつとりかと思えばぐつすりコンサート

ああ見えて人生ゲーム強い亀

謎だらけとかくこの世はおもしろい

河内長野市 梶原弘光

マスク得て息つく花粉症の孫

9歳に託した鈴虫の卵

熟年が触発される駅ピアノ

下手は下手なりに磨いて行く自分

文字通り怪我の功名休肝日

河内長野市 木見谷孝代

テレビからエール届かず麒麟来ず

人間は丸くエンピツ尖らせる

お互いの弱さが見えて友でいる

そうだねと頷くだけでそれでいい

逝かれても朝のコーヒー二つ淹れ

河内長野市 黒岩 靖博

巢ごもりで溜まった塵が山となる

無理しすぎ身体が元に戻らない

三密で腰痛になり医者通い

コロナ禍に豪雨災害悲劇生む

嫁いだ娘また煽てては脛かじる

河内長野市 辻村 ヒロ

頑張れと十七音に背を押され

仏壇に朝の挨拶父母の笑み

感性も脳も自粛で鈍くなり

色あせた私の花も捨てがたい

人恋し電話ついつい長くなる

河内長野市 中島 一彌

色や柄いまやマスクはファッション化

休憩を挟むか腰に聞き散歩

まっすぐな人間が吐く下手な嘘

二人連れの仲推し量る距離しぐさ

十七歳二冠を目指し対峙する

河内長野市 藤塚 克三

非常時こそ親子の絆向かい合う

蝶や鳥は自粛してない自然界

まっすぐに生きると人は遠ざかる

出てこない女優の名前ア行から

人情にすがりほんわか暮してる

河内長野市 村上 直樹

アフターコロナ変わる暮らしの大大鼓

さらさら茶漬けゆうべの酒を抜く

つい触れた手と手が産んだダイヤ婚

さらさら冥土目指して砂時計

二波三波コロナが挟る世と生きる

河内長野市 森田 旅人

めぐみさん撮ってた人の強さ優しさ

初蟬にあわせ朝顔の初花

思ひ出となるか朝顔百日紅

蹴飛ばして行けと頑固な石となる

どなたにも溶けぬ私は石だから

岸和田市 岩佐 ダン吉

若いなあそれ褒め言葉なんですか

電子音に囲まれ病院の朝よ

名前と年ここはどこかと日に三度

善人だ少し大雑把がすぎる

生きのよい魚屋さんが消えました

岸和田市 宮野 みつ江

急な雨駅の善意の傘借りる

ラビスラズリからもう心の蒼空

ロール紙に描いた未来図あとわずか

折りたたんだ過去時には広げすぐに閉ず

幸せな人の愚痴聞くあほらしさ

岸和田市 雪 本 珠 子

耳傾け体の声を聞いている
今になり苦い経験役に立つ
子の仕草どこか心を和ませる
寂しいが自粛生活板に付く
夜型のこのスタイルで良いと医者

四條畷市 吉 岡 修

目測をする度夢は遠くなる
志はまだ生煮えのままである
口笛を吹いてもボチは動かない
左遷地で長いようだと柿植える
細々と続いています夢拾い

吹田市 太 田 昭

白地図を辿るわが子が案じられ
必死に生きた昭和の影も薄くなり
脇役はいつも我慢と限るまい
監視カメラについ挨拶をしてしまう
自己主張せず中立で席を立ち

高槻市 片 山 かずお

ステイホームの達人だよと爺と婆
夫婦でも外ではソーシャルディスタンス
マスクでも笑顔と分かる目の形
3密を気にせぬ巣の中のツバメ
十五分の昼寝で蘇る頭

高槻市 島 田 千鶴子

令和二年普通の定義変わります
夏草よコーラスはまだ自粛です
不揃いでもシニアコーラスああ楽し
ふる里の祭ばやしが届かない
ポストまでは歩いて行ける大丈夫

高槻市 初 代 正 彦

健やかなお喋り妻の長電話
やれ夫婦おんなじ頃に空く小腹
書き込みが戻りにぎわう予定表
夏マスクしててもじゃれてくる孫よ
大切に使お二枚の布マスク

高槻市 杉 本 義 昭

ゆつくりと眼鏡を拭いて切り抜ける
優先座席譲られ素直にありがとう
鬱の窓開き笑顔の風入れる
コロナが怖く今年の蟬はおとなしい
引き際を決心させた通り雨

高槻市 富 田 美 義

驚の大きな声にベット逃げ
もうアカン言われて粘る医者の前
又かいな年々増える計のハガキ
どなたにもキツと立ち寄る運不運
善人の装いなのかマスク達

高槻市 富田 保子

テレビ欄コロナコロナでうめつくす
生き下手の最期の願い大往生
スッピンで御免なさいと回覧板
久し振りにカラオケ行つて感謝の日
派手な服選んで老いを包みこむ

高槻市 原 洋志

受話器拭く咳込む友の声聞いて
在宅勤務その後会社は言つて来ず
大臣もアナウンサーもマスク越し
追伸にコンチキチンの消えたこと
束縛もなくアジサイの七変化

高槻市 松岡 篤

世は走るマスク不足はもう歴史
つかの間の明かりを見たが2波前夜
計画の未達コロナの所為ですか
CMを換気タイムに当ててある
2波3波自粛警察増えそうで

高槻市 安田 忠子

あつち痛いこつち痛いよく遊ぶ
よく食べてよく寝て遊ぶ有難さ
スイッチの切替をする喫茶店
面白い人生でした悔いばかり
たつぷりと時間あるのに忙しい

豊中市 上出 修

僕の苕竹輪のように抜けている
賭け麻雀トップへの道露と消え
千兆円誰が払うの子は嘆く
相続に人間ドラマ垣間見る
手をつなぐ昔はデート今介護

豊中市 きとう こみつ

不要不急がほとんどであるマイライフ
ファッションの一部にマスク進化する
豆腐屋のラップまだベイベイは使えない
再会を待つて句箋に五七五
川柳の友よ続けよ句会ある日まで

豊中市 松尾 美智代

七月から句会始まる友と会う
マスクのお蔭化粧さぼっている素顔
二枚のマスク国の出費の如何許り
朝歩き野性の鹿が日向ぼこ
恵みの雨今日はお休み万歩計

豊中市 水野 黒兎

ウィルス禍聞きとれません英会話
おろおろとマスクが歩くこの世相
なまけ菌が脳に棲みつく梅雨の日々
お茶漬にワサビ効かせて夏に勝つ
サイダーのグラスの底に夏揺れる

富田林市 片岡 智恵子

自宅待期男性料理うまくなり
それ以上の欲を掬うてどうするの
一期一会軽い別れの茶会なり
晶子も詠んだ球磨川氾濫悲し
無関心を決めて無口な椅子となる

富田林市 中村 恵

封を切るそろそろ自分許そうか
整えた靴は旅立ちへの仕度
うろろと過去と未来の真ん中で
ため息が一つ行方知れずのまま
笑おうが泣こうがやはり白い飯

富田林市 山野 寿之

ええやんと褒めて称えて伸ばす才
夜の街自粛解除の功と罰
休日も働き自粛分稼ぐ
強面のマスクをしたら優しい目
表現の自由自在にある倫理

寝屋川市 伊達 郁夫

そろそろといやまだまだと旅支度
落日に夢を点滅して生きる
ゆるやかに父に似てくる老いてくる
異次元の空間らしい仏の座
紫陽花は自分の色は教えない

寝屋川市 富山 ルイ子

必要だろう葬儀の費用貸金庫
生きるとは時に空しくなるしじま
百貨店地下はお客があふれてる
熊本に大雨で友気にかかる
年を重ねる毎に丸くならねば

寝屋川市 平松 かすみ

父母遙か雲のアートを見てひとり
心配が少少減った孫移転
脳トレよマスク手作りして上げる
マイナンバー一度も使うことがない
給付金アベノマスクも手に届き

寝屋川市 森 茜

低く飛ぶ燕息災問うように
らっきょう梅漬けきれいな風が通る土間
妹の鳴咽絵手紙しめらせて
セーラー服山桃いろに染めた初夏
定位位置に鎮座していた置き忘れ

羽曳野市 磯本 洋一

間違いは政府もすると妻優し
回覧板何故か逆さの印があり
鰯大根大吟醸が寄り添って
妻の酌酒と肴と密になり
輝ける人が居るので生きている

羽曳野市 宇都宮 ちづる

英に住む娘等とできない出入国

巢ごもりの犬もゴロリとだらしな

眉だけはきりりと書いてマスク美女

弱音吐く身に娘が発破かけてくる

デリケートな桃が持つてゐる強い芯

羽曳野市 徳山 みつこ

脊椎損じゴールまで遠いこと

ウォーターベッドにひとときの安堵

リハビリの帰途祈ること一歩ずつ

雨を乞い雨を恨んでいる我ら

やつとやつと遺愛のピアノ旅に出す

羽曳野市 藤原 大子

デイスタンス目を見て会話したいのに

コロナ禍がじわじわ暮らし替えてくる

ウイズコロナ老いにはきつくはないですか

10年後のことは厳しいかも知れぬ

気は持ちようコロナはちよつと端におく

羽曳野市 三好 専平

うっかりと転んだままで夏となり

恐竜のような葉の名がこわい

早朝の採血すんで尿する

陶酔の潔さなし梅雨深む

放下してみどりの樹海のぞむなり

羽曳野市 吉村 久仁雄

喜寿近し日々ご破算で今を生く

まだ夫婦つくづく妻に感謝する

祭り太鼓聞こえて老父が杖にぎる

安もの自慢妻のドヤ顔したり顔

貧相な政治をコロナ暴き出す

東大阪市 北村 賢子

話し相手居るだけいいか家ごもり

コロナ自粛へ八十の手習いも必至

この時世枕を高くして寝れぬ

無味乾燥なんともやるせない暮らし

外出へせめておしやれなマスクする

東大阪市 佐々木 満作

天変地異人はその都度立ち直る

何ごとか緊急テロップを凝視

モニタリング俺は絶対だまされぬ

朝ドラのナツメロ妻と口遊む

決めたこと続けることの難しさ

東大阪市 西村 哲夫

還暦を過ぎても僕は回遊魚

寅さんと並んで曼殊沙華が泣く

くだおれづばらや次は何処かいな

悪友に隠す悪行何もない

牽強付会強情貫く父であれ

牧方市 丹後屋 肇

絶滅危惧スポットライト浴びている

陽性に目くじら立てず手を洗う

恋人のマスク二メートルを措く

線香の薫りに沁みる部屋住まい

仏壇の若き遺影に独り酌む

牧方市 藤村 亜成

靴すべりボキリと折れてから不調

もう堪忍堪忍やコロナも大雨も

つまらん愚痴をしつかりと聴いてやる

大人になったと誉められて萎む夢

継続は力か只のマンネリか

牧方市 山口 弘委智

石一つずらして百の田潤う

梅雨晴れに本は読むもの閉じるもの

旅立ちも旅の終わりも人は来ず

隠しごとなき明るさの孫集う

命詠む句でありたいと連れ添うて

藤井寺市 太田 扶美代

人と人逢うも別れもみな宝

愛犬との別れ虹の橋のたもと

青春に戻る呪文考え中

ハミングで作ってみましたオムライス

駆け抜けた青春あればファンタジー

藤井寺市 鴨谷 瑠美子

影だけがいやにはつきりしています

昭和二桁妻は白線出ずじまい

忍び逢うテンポで鳳仙花が開く

翔びそうで心に紐をかけておく

政治家に知人いなくて嘘がない

藤井寺市 鈴木 いさお

十七歳聡太は進化し続ける

懐具合でころころ変わる志

妻という駆け込み寺を持っている

終活をし始めてから二十年

居酒屋の隅に私の指定席

藤井寺市 高田 美代子

実りの秋までは無事にと柿りんご

米寿過ぎ美人薄命とは言えず

盆おどり今年は無いか河内弁

百均のビニール傘がとばされる

天の川会いたい人が多すぎる

藤井寺市 吉田 喜代子

自家取りは曲がつたきゅうりいとおしい

梅雨の蛙なんだか声が愛おしい

「お元氣ですね」ただ歩けるだけです

若いのに和服が似合う聡太君

気の緩みコロナを拾う夜の街

松原市 森松 まつお
遠まわりしようスーパームーンだぜ

つき合えば案外アホなところもあり
聞き流す事にも慣れて喜寿の顔
しっかりと背筋伸ばせと影が言う
蟬しぐれ妻のタコ酢に星三つ

箕面市 大浦 初音

今年の春あったらどうか臍なり
主婦長く手抜きもおぼえ恙なく
平成より昭和の長い女です
今日できる事は今日する教えなり
自肅中日がな一日草むしり

箕面市 酒井 紀華

しあわせが降って来そうな月仰ぐ
大丈夫蟬も暑さに耐えている
ゆっくりと探す四ツ葉のクローバー
マイナンバー見せて私を主張する
何億の中で探した君は去ぬ

箕面市 出口 セツ子

解除後に寺の行事も動き出す
期待などせぬから絶望とは無縁
神からのおまけの命で生きている
血圧が怒りと比例して上がる
不安抱きながら外食美味くない

箕面市 広島 巴子

対局日一喜一憂聡太ファン
電車バス二の足を踏み長電話
レパートリー増えた夫の家御飯
蓮を愛で極楽浄土夢現
久し振り熟睡できた一万歩

八尾市 寺川 はじむ

壊れそうな地球がもかく温暖化
お粗末ですと言うてジョニ黒提げてくる
道草をして季節外れの花に会う
お互いにちよつと譲って丸くなる
どっしりの親父の威厳今いずこ

八尾市 村上 ミツ子

九州豪雨一週間も降り続く
泣きつ面に蜂どころではない豪雨
大雨よちよつぱり遠慮できないか
やっと勝ち始めたトラにほつとする
クイズ解く東大王と勝負する

岡山県 高岡 茂子

裁縫箱コロナ自肅で開けてみる
わだかまりもう流さねば時進む
免許更新罪悪感がついてくる
大雨のニュース朝までテレビ番
コロナなど存じませんと咲くアジサイ

岡山県 田中 恵

ふるさとの浸水テレビにしがみつく

神妙な話に蜂がまぎれ込む

珍らしく夫が褒めるから迷う

やさしさが二、三日立つてからしみる

行き帰り同じ道だと気付かない

岡山県 藤澤 照代

母の日に嘘一つ混ぜ安堵させ

生温いコーヒー残し物別れ

歳月が父を小さく丸くする

泣いた事笑い話になった今

盛り上がるビールの泡に雲の峰

岡山県 山縣 のぶ子

終日を黙っていても腹は減る

除草剤使えと庭があざ笑う

スクワットまだ迷惑は掛けられぬ

忘れ物気付いた事をまた忘れ

ついに来たあなたどちら様ですか

岡山市 大石 洋子

やばとまじだけで話をすます息子

直線に物言う女になりました

いじられて笑えなくなるアジサイ

B鉛筆B型陽気梅雨遣らい

佇立する鷺が時折足あげる

岡山市 工藤 千代子

二列目が好きで社会と会話する

難聴のふりする棘を折ってから

雷が気弱になつてほろほろカルテ

ホロホロと酔うてほろほろ泣いている

芽を出すと信じポストに種を蒔く

岡山市 丹下 凱夫

気概など持たぬが今日も八千歩

ウォーキング後ろ歩きもおてのもの

茄子胡瓜貰つて帰るウォーキング

上を向いて歩こうなんだかと言うて

晩酌はラインしながら一時間

岡山市 永見 心咲

彦星も逢えぬ年あり塔まつり

逢瀬にはアクシデントというおまけ

ああ淫雨トマトは裂けて抗議する

ディスタンス疎遠にならぬよう図る

寝押しした今日のプライド持ち歩く

岡山市 前田 恵美子

梅雨晴れ間借し農園は社交場に

糠床にそつと埋め込む宝物

不思議かも隣のイビキ睡魔剤

アジサイの似合うぐらいの雨が良い

筋トレでいい汗かいていい笑顔

笠岡市 藤井智史

愛の誓い無く空気で結ばれる
プロポーズなかったよねと笑いあう
待っている愛に新快速で行く
営業に向かない呉服屋の子孫
いつの日か妻と川柳したいなあ

広島市 岸本清

不快感すぐにMAX夏マस्क
孫論す上には上がいるからな
官邸のウソが零れるアベノマスク
スーパ―がデパートよりも肌が合う
距離を置くコロナ時代のエチケツト

竹原市 岩本笑子

子とライン正しい漢字使いましょ
雨雨雨夫の居所たしかめる
特別警報妻はパジャマで早々と
夫の軒特別警報よりすごい
日本の川の多さよ雨が降る

三原市 鴨田昭紀

わだかまり消えてスキップするハート
ふる里に帰って思い切り泣こう
勝ち組の方へ合わせていく歩幅
愛おしい寝顔でストレスを癒やす
ここだけの話に揺れるシルエツト

岩国市 上村夢香

凜として佇む姿憧れる
師匠の影ただ追いかける追いかける
先生の美文字の真似を繰り返す
受け入れてようやく空の青を知る
本気度を試されている朝練に

宇部市 平田実男

まな板の音が私の聴診器
薄くなる髪の手入れへひまがいる
米寿です顧問の役がまた一つ
欲しがりませんもったいないで来た米寿
冷や飯を食った期間が糧となる

防府市 坂本加代

苦いコーヒー私に活を入れる
寝る前に逢いたい人の写真見る
思いきり生きて清々しく死ぬる
縁側で笑うわたしのセピア色
終末か老猫隅へ蹲る

鳥取県 門村幸子

良薬は眠りフツフツ力湧く
気を変えて今朝は朝鮮人参茶
雨の日も風の日もまだ耐えられる
日々新たなメモが助っ人まだ元気
クリップに留めた雑用かたづける

鳥取県 竹 信 照 彦

鳥取市 奥 田 由 美

ケータイも持たず電話もせぬ無精
無精者自肅中とは好都合

免許センターうろうろ免許更新す

新免許より慎重にゆつくりと

再会の句会へマスク忘れずに

鳥取県 細 田 裕 花

水張って田んぼの意気地よみがえる

引力を感じながらの一つ屋根

新築のカーテン嬉し気に揺れる

断るも引き受けるのも頭痛する

身の丈を越えた話はお断り

鳥取県 山 下 節 子

カタカナ語ニユースの度に辞書ひろげ

遊園地孫に重ねてみる昔

自肅され大人の遊ぶ場所がない

久しぶり親子で遊ぶ自肅中

マスクしてキョロキョロ探す待ち合わせ

鳥取市 池 澤 大 鯨

句中中止柳友の顔忘れそう

柱時計退職したらとまったまま

白兎海岸鮫は岩礁のことだった

水木ロード妖怪観たく人集う

板さんは家族のための料理せず

「おいお茶」夫が茶くみの愛婆会

救急車が静かに来ない過疎の郷

傘帽子の完全武装する散歩

「またね」って通話の夜友が逝く

医療費に押されカットの化粧代

鳥取市 加 藤 茶 人

お古だが身の丈に合いこれが楽

押して見る引いて見る我が処世術

昔にはもう帰れない赤い糸

動揺の後はやたらと良く喋り

正直に言うて貧乏くじを引き

鳥取市 岸 本 孝 子

六十年支え歩んだ屋台骨

世話かけぬことだけ祈り手を合わす

後手後手の対応すべて水の泡

母さんのチチンブイブイすぐに効く

エンジンがゆつくりかかるタイガース

鳥取市 倉 益 一 瑤

父の日は亡父を訪ねる花手桶

満天の星にあしたを賭けてみる

トマトがぶり明日は負けたりなどしない

水ポトリあなたはいつも正論だ

趣味ひとつ老いの抜け道だと思ふ

鳥取市 田 中 天 翔

窓越しの隣の庭に癒される
思い立つ伸びた庭木の剪定を
3密避けて木蓮こぶしい感じ
庭木すつきり庭草よく目立つ
隠れんぼ暫く無理か雀達

鳥取市 棚 田 大

なぜか俺飲み会だけは招かれぬ
参観日招く孫を見元氣湧く
あちこちのゆったりムードどこ行つた
コロナまたたるむ俺らに活入れる
孫もまた我が家のルーツ不思議がり

鳥取市 谷 口 回 春 子

嫌気さす愚痴と小言の二重奏
涙する時はいつでも鬼が傍
ゆつたりと羽目を外して地獄見る
懷に飛び込む愛に諭吉来る
キッチン焦げる匂いが夫を呼ぶ

鳥取市 永 原 昌 鼓

イケメンに心が騒ぐまだ若い
若者の運命握る甲子園
コロナ禍で再起不能の店あまた
正直に列車は止まる無人駅
声援の聞こえぬ土俵弾まない

鳥取市 中 村 金 祥

なす術も無い豪雨へも来るコロナ
命日へ父母に縋つた日が浮かぶ
梅ラッキョウ漬ける老妻大はしやぎ
レンタルで済んで良かった車椅子
ありのままで生きる力をくれた母

鳥取市 夏 目 一 粹

誰もが死ぬという公平なこの世
老いらくの恋は片思いに過ぎぬ
まだ夢に好きなあなたは出てこない
列を離れるアリがいるいい度胸
亡父の表札が吊つてある外した

鳥取市 副 井 ゆ た か

金婚へ数多の峠乗り越えた
ばんやりと未来が見える丘の上
スマホの世自筆手紙は効果的
洒落た句に柔い鉛筆よく馴染む
新型のコロナが覆う世界地図

鳥取市 山 下 凱 柳

コロナに水害日本列島どこへ行く
毎日が日曜日さて何しよう
退職後脳と筋トレ励む日々
無理せず休ませ使う老いた脳
老いていく脳刺激する五七五

鳥取市 吉田 孔美子

派手目着る会の最高齢かいな
無理しない健康だけは装えぬ
跡継ぎもない漁師町寂しすぎ
婆よりも漁り耕す猪よ
一人になりたいのキーはついてます

鳥取市 吉田 弘子

断捨離へ夫の作務衣また仕舞う
ボール紙のデビュー被災の救世主
三密とマスク令和のエチケツト
底なしの告白ドミノもとは金
ドンダリの群れで楽しく遊んでる

倉吉市 猪川 由美子

対コロナと経済二兎は難しい
熱中症コロナ禍の中やってくる
カネまみれの選挙戦にや呆れるわ
両陛下の動向とんと聞こえ来ぬ
袋有料用事が増えて忙しい

倉吉市 岡崎 美知江

終章の鐘は静かに鳴らしたい
世の中を泳ぎつかれた父の靴
急ブレーキこわさ知ってる靴の底
スタートに並ぶ義足の靴ひかる
三人と対話が出来たいいねむり

倉吉市 田中 紀美恵

家中に自分の居場所指紋つけ
レジの前財布がないと焦る指
うかうかとしてはおれないマスクなく
便秘症すんなり出た日天国だ
あと何年生きておれるか知りたいな

倉吉市 牧野 芳光

女々しいと思うがページ遡る
縄跳びが下手で協調性がゼロ
万札の端にコロナと書いてある
夕暮れの汽笛悲しみふり撒いて
やる気になると熱中症がしのび寄る

倉吉市 山中 康子

今日の無事神仏に手を合わします
外出で堂々歩き話したい
新聞にのったとほめ合う電話
何回もぶつかり悩む高齢者
人間のおごりをいましめたコロナ

米子市 池田 美穂

着ぐるみで五輪出来ないものかしら
和ダンスに資格眠って半世紀
コロナ禍が通帳のゼロ二つ消す
それぞれのアイスで埋まる冷凍庫
やる事は一杯あるが昼寝から

米子市 伊 塚 美枝子

眠れぬ夜お花畑の蝶になる

キラキラの笑顔が語る今日の出来

大泣きは止めて下さい天の神

梅雨晴れ間心も少し軽くなる

小雨でもグラランドで待つ友がいる

米子市 後 藤 宏 之

顔のこと言わずカメラのせいにする

クルーズが駄目ならせめて隠岐めぐり

船酔いがこわい私は陸が好き

嫌ってもじきに追う人いなくなる

薄いのがばれるうつむくのはやめる

米子市 後 藤 美恵子

新緑に濾過され晴れるコロナ鬱

久しぶりの外出定期受診です

連作の記憶確かな野菜苗

墓洗う夫の戒名なぞりつつ

老後描く彩がだんだん薄くなる

米子市 竹 村 紀の治

よく喋る遺してくれたイアリング

大暴れしたと思えぬ今日の川

何日もマスクの下は無精髭

会釈して名前が出ないマスク越し

図書館でおひとり様のレシピ本

米子市 中 原 章 子

老いの庭初採り胡瓜食進む

ぐちゃぐちゃを受け止めてくれる部屋が好き

決意するだけで生活張りがでる

自然界世も末思ふことが増え

限りある命この世がいとおしい

米子市 成 田 雨 奇

女房が寝静まつたらウイスキー

懐古趣味でなくて俳句詠んでいる

ひんやりとなったマスクをしてなくて

給付金岩手のウニは美味かった

川柳をやったわんだ事はない

米子市 野 川 宣 子

穏やかな暮らし戻る日待つ手帳

我慢がまん戦後生まれが試される

買物はマスクと袋忘れない

魚より財布にやさし肉続く

がむしやらに昭和生まれは働いた

米子市 吉 田 陽 子

友人と別れるように薔薇が散る

躓いてばかり悩みを抱いた靴

ノウゼンカズラ知らぬや姉に痛告知

燕かぞえる涙がこぼれないように

数え切れない覚悟迷いはもう捨てる

島根県 伊藤 寿美

リモート面会コロナ蟄居が会う絆

パンデミックコロナが変えた死生感

コロナウツ精神被災の高齢者

東京の子に帰郷するなと特措法

自粛など平つちやら昭和戦中派

松江市 松本 知恵子

テンションはハイにカーブの生中継

ほどほどでよしあじさいに止まぬ雨

続く雨地球変わったかもしれぬ

梅雨寒は辛いと母は九十五

人だけの地球でもなし鳥の声

出雲市 伊藤 玲峰

笹の葉にくるむ粽の出雲流

笹の香と黄粉で食べる粽巻く

神仏に供えさあさ召し上がれ

野球もなし少し予定が狂い出す

記念写真もう最後かもハイチーズ

出雲市 岸 桂子

生き甲斐がずらり暦の行事メモ

飛ぶように流れるように逝く月日

泣き切って一人の朝を取り戻す

読み違いないように「ルビ」打っておく

主義一つ抱いて余生の石を積む

雲南市 菅田 かつ子

はいポーズ杖も仲間にして貰い

神さまに笑われそうな願い事

マイホーム背負いゆっくり蝸牛

何となくお洒落してゆく趣味の会

参道を鳥とおしゃべりして上る

東かがわ市 川崎 ひかり

寝たきりへ風鈴吊す無骨な手

良心を麻痺させてゆく銭の音

蛇口から生きてく音がほとばしる

歌好きを辿れば母の子守唄

牛だってモーツアルトでリラックス

松山市 栗田 忠士

擬態したはずの尻尾が残っていた

深刻は嫌い極楽とんぼだっていい

身を委ね生きる宿り木のしたたか

雨雨雨今日も涙が乾かない

創ることやめると徴が生えてくる

松山市 古手川 光

花火大会見れずストレス溜ります

水下さいヒマワリお辞儀して頼む

言う方は軽い聞く方は重い一言

事件事故の後でしゃべる専門家

ウルマンの「青春」僕の支い棒

松山市 宮尾 みのり

コロナとやカフェでマスクは似合わない

子や孫に肩身も狭くいる長寿

許さねばこのしがらみを抜け出せぬ

想い出のあなたは私だけのもの

終章はただの私に戻ります

西予市 黒田 茂代

南天の花の咲く頃いつも雨

花の水替える日課は変わらない

庭の花みんなわたしのお友達

スーパ―へしばらく避暑に行ってくる

コロナ居ない田舎暮らしもいいもんだ

西予市 西田 美恵子

どうぞ母の闇夜を覗かない様に

タイ焼きを頬張る君の顔が好き

綺麗すぎる方が偽物かも知れぬ

老いて尚紅引く五感まだ燃える

時には刃小さな町に飛ぶ噂

高知県 小澤 幸泉

生き抜いてコロナ悪政止めさせる

幾歳月土佐の山々遠いひと

もう言いな何も言うなと眼で叱る

子ら三人孫も一緒の祝い膳

夢うつつ今朝も生かされ生きている

土佐清水市 辻内 次根

朝どりの胡瓜するどい棘がある

波の音聞いて静かな釣の糸

亡くなった兄に似てきて静かな日

ランターをずらり七月の庭に

寂しいと伝える人もない月夜

熊本県 岩切 康子

雨の日も朝市に行く会いに行く

わが気持解ってくれぬ脚痛む

アベノマスク抽出にまだ眠ってる

草取りや剪定励む夫不思議

自分の字ルーベ使って読んでいる

熊本市 杉野 羅天

緑海や梅雨の大阿蘇親しからん

愛でる幸黄バラ紅ばらピンク薔薇

花元気僕も元気になりました

末法の世の無農薬野菜食う

俊子忌へ新型コロナ報告す

北九州市 小松 紀子

まだ八十だいいじょうぶまだ だいじょうぶ

ぜいたくはしないがトイレ花一輪

紫陽花が今年もきれいに咲きました

おとなりにも初採りキューリあげました

あれなんだっけ たまにはありますよ

唐津市 坂本 蜂朗

妻の愛車年年痛くなってくる
使用期限過ぎた我が家の護衛艦

三角になれば四角になる家内

戦時下を生きて老後に恵まれる

逆縁にならぬようにと願う日日

唐津市 山口 高明

モンスター現れました将棋界

心臓に悪い真夜中電話ベル

列島もハーフばかりの十年後

議員天国猫も杓子も立候補

常識の無い娘がテレビ賑わせる

(前月分) 高知県 小澤 幸泉

初夏の土佐の山脈君遠い

眼に見えぬコロナ皆んなを結びつけ

愛妻とやっと二人になれました

まだ夢を見てる誰れもう居ない

遠過ぎた傘寿にやっと慣れました

ひとこと募集

一行15字 25行まで 採否は編集部に一任の事

水煙草

(つづき)

豊橋市 小松 くみ子

真似事の家庭菜園高くつく

何曜日とつさに出ない自粛脳

大雨に行方知れずになるメダカ

夏休みする仏花に代わるブリザーブ

八幡市 武田 悦寛

失敗とまぐれの間で生きてる

ふる里の匂い噛みしめ食う目刺し

コーヒーは濃いめカップは備前焼

傘立てに主役顔して杖2本

京都府 北野 クニオ

新型コロナ裏口からもやって来る

職場では密を避けてのテレワーク

コロナ禍に大雨被害に泣く市民

WHO米国抜けてガタガタに

(前月分) 鳥取県 西谷 悦子

機械化になり早乙女の出番なし

いつまでも傘が離せぬ親も子も

世の中に星ほど男女少子化よ

文明の利器飛びつかぬアナログ派

自選集

小島 蘭 幸

木本 朱 夏

美美子 路郎の涙文学室消える

文学室閉鎖見届けたる風よ

路郎蔑乃と語る文学碑よ永遠に

酒はなみなみひとりの句碑まつりとするか
句碑に手を合やすところが晴れてくる

板 尾 岳 人

八月のキャベツ胡をかいている

AIに問えば下五を教えられ

南無母さんお元気ですかいつまでも

老衰の人と同年じ歳となる

悲しくて心濡れたら干したまえ

北 野 哲 男

十五年前から後期高齢者

三猿に逆行をしてまだ達者

仏像が儼に似て来たなと思う

雨五日氣勢上らぬ酒になり

古ムーンどこへ行こうかダイヤ婚

早起きの蟬には蟬のルーティーン

自肅中かしら姿を見ない蟻

ゴキブリに情けをかけたことがある

雨の日のカラスよちゃんと食べてるか
変顔の金魚に負けた睨めっこ

新 家 完 司

物干しのシートに黄砂絡みつく

マスクしてみても高齢者と分かる

お中元ですと車に鳩の糞

バクチ株ちよつといじってボケ防止

雨の夜夢でも雨に濡れていた

高 瀬 霜 石

川柳人たるものイライラはしない

それでいいしあわせならばガラバゴス

例えばの話例えが長過ぎる

ふたりとも無口だ そつか 夫婦だな

眠れない夜は憲法読んでいる

竹 治 ちかし

戦かも知れぬ狼煙を確かめる
予想だにしない悲劇の幕が開く
歩幅まで乱すコロナの風の中
無念さを期待に代えて明日を待つ
運命と思う九十五の期待

津 守 柳 伸

水分の補給マスクを使い分け
減塩の梅手作りが偲ばれる
三猿を通す自粛のサクランボ
仕事用眼鏡新調する米寿
ストレッチ歯の健康に芋ケンピ

都 倉 求 芽

牽牛も織女も哀れ土砂の中
考える事は三度の食事だけ
頭使うのは投句の時にだけ
時移る移らないのはコロナだけ
九十二歳ひときわ白い彼岸花

西 出 楓 楽

九条のオーラは増してゆくばかり
もうとまだ使い分けると出るゆとり
ときどきは罹患小説依存症
物干竿がだんだん高くなってゆく
息子まだ居る気するのにな一周忌

仁 部 四 郎

秋が来た建売増築半世紀
秋が来た県産米の出来具合
秋が来た見に行きたいな肥ゆる馬
秋が来た忘れてならぬ赤い羽根
秋が来た写経ノートを買おうかな

福 士 慕 情

新コロナ妻と面会でできません
逢えなくて妻の様子が気にかかる
手作りのマスクファッション意識する
ノーマスク他人の視線突き刺さる
あれもこれも中止中止で夏が来る

松 本 文 子

葉桜の下で心を温める
妥協して裏の世界も知っておく
古い手紙の束に囲まれ夜が明ける
音のした方へ走って行っただけ
雑談をふるいにかけて聞いている

三 浦 強 一

濃厚接触孫とも出来ぬコロナの日
善人も指名手配もみなマスク
アルコール消毒は手と胃袋と
ぼちぼちと語ろう若き日の慙愧
巢ごもりにポストコロナの夢を盛る

三宅保州

忘れてはくれぬカルテがぶり返す
何よりの褒美私を休ませる
忙しい振りしています暇だから
血迷ってオウンゴールをしてしま
ステテコに下駄の親父が居た昭和

村上玄也

待ち侘びた開幕トラが水を差す
気が付けば先月のままカレンダー
自粛自粛心身共に萎縮する
思いつきり外気吸いたい家ごもり
感染か熱中症か問われてる

森山盛桜

氷山のように派手には崩れない
鯖缶と水が心強い味方
残量が寿命に見えるボールペン
空間を掴んだだけの虎挟み
黒塗りの下には唯の誤字脱字

至近距離

八木千代

カットに通う月に一度の理髪店
裏道に折れると見える四軒目
硝子扉を押すといつもの顔見知り
もぎたての話題を提げて来たらしい
我が巣から徒歩数分の行楽地

山本希久子

気持ちばかりは離れぬように人と距離
時代の足音を聞く雨激し
コロナ戦争知恵比べ根比べ
手作りのマスクまごころ届けられ
波ひとつ越えたら次の波がくる

川上大輪

半分こ少し弱気になっている
阿と畔で足りる夫婦のテレパシー
大海も砂漠も母の懐に
手の鳴る方が鬼さんの指定席
泣く笑うまだ人間でいたいから

麻生路郎語録

巧い句を作ろうーと、アタマをひねつ
て、ひねりあげた句が、よりによって拙い
句になっている場合がある。その句には作
為が巾をきかしているからだ。

*

借り着は何となく身にそわないように、
よその畑の詩論を鵜のみに、川柳論へ持ち
込んで来る人がいる。消化不良の川柳論に
はそんな人が多い。

（「川柳雑誌」NO・428より）

句集の森



『しまなみ』

月つき原はら宵しやう明めい

風鈴が去年の位置で秋を告げ
人間にボケットベルという鎖
千羽折る飛べない鶴と知りながら
迷わずに子はシナリオを書き替える
日向ぼこ仏の席は空けてある
反骨の拳はいつも腹が減り
日銭追う暮しどすんと陽が落ちる
しまなみの橋から二十一世紀
自分史に落丁がある兵のころ
初老とは仕事をせずに肩が凝り
木綿針男に用があるボタン
先頭の孤独は足音ばかり聞く
風となら話が出来るねこじやらし
割り箸がバチリと割れてから旅愁
九十九折れところどころが消えて過去

(平成11年3月28日 発行)

温故知新

小出智子川柳集『露の臺』から

この世のなさけ銀杏が散っていることも
今にして子が膝に居た頃はよし
墓の前 甘えころろが少しある
四面楚歌湯呑みに冷えた茶がすこし
ほっとした処に置いてあるみかん
展示会 娘が一人欲しくなる
男と女の違いでいつも負けている
唯一の味方炬燵が温かい
身の上ばなし程よく電車空いている
世の中は運動会のまっさかり
忘れて来た傘を三年程思う
小春日の電話にしては手厳しい
弟のような電話を掛けてくる
ピストルで片付く映画見て帰り
お隣りの猫もこの頃医者通い
渡り鳥みたいな訣れ方をして

川柳塔の

川柳讃歌

187

上方芸能評論家 木津川 計

待つていたという人がいた定年後

坂本 蜂 朗

定年になったその日から妻がパートに出始めた知人がいる。今迄「苦勞様、これからはわたしが働いて補う、ではない。鬱陶しいから外に出るのだ。そうかと思うと定年の日、子供夫婦に孫まで集まり、労りと感謝の席を開いてもらった人もいた。本来祝われるべき定年に悲哀が交じるのは収入が減り、老いを自覚し、働き甲斐と生き甲斐を見失うからだ。蜂朗さん、待つてくれる人がいて幸せですよ。

くだおれいづもやそしてすばらやも

奥 時 雄

大阪のミナミや新世界を訪ねた人ならいずれも一度は入った店だ。だれにも親しまれた店が次々閉店していく。客足不振がこたえた。コロナが馴染みの店を消してゆく。道頓堀も変わった。「大阪にすむうれしさの絵看板」は遠く、「千日前肩を叩くと連れになり」の

人情も昔話になった。なにもなにも「大阪はよいところなり橋の雨」(三句とも岸本水府)の川は道路になり、八百八橋は寝物語で大阪のいまはオーサカだ。時雄さん、寂しいなあ。

いきなりの出会い 名前のおめ会話

宇 賀 史 郎

先代の中村鴈治郎は如才ない役者で、蟲眞のファンが楽屋へ挨拶に来ると、「お変わりなく何よりです。いつもありがとうございませ」と愛想よく振舞った。ファンが去ると鴈治郎は付き人に聞いた。「いまのは誰や?」。私も、誰かがわからず名前も出てこない人に駅や往来で挨拶されることがある。当り障りのない話をして別れるが隔靴搔痒の感を否めず、認知症の始まりか、いや健忘症だと慰めたり。史郎さん、同病相憐むになりました。

挫折して人間らしい温か味

上 田 紀 子

俗に言う「苦勞人」を国語辞典は「苦勞を積んで世間のことや人情によく通じている人」と。世の中には不運な人がいて、「七転び八起きしてからまた転び」と詠まれた人もいる。不屈の精神は無論鍛えられようが「人間らしい温か味」も備わる。苦勞は辛いことばかりではない人情の温か味に涙した人は人情家になるのだ。「可愛い子には旅をさせ」「苦勞は

買うてでもせよ」と昔の人は教えてくれた。紀子さん、挫折も買うてでもせよですね。

解かない方が良かった連れ糸

工 藤 千代子

連れ糸は解かねばならぬが、人間関係の連れは難しい。解いたばかりになにもなにも赤裸になった。今度はこの修復が解く以上に厄介なのだ。連れたままが良かったのだ、というて放っておけるか。連れれるには訳があった。その訳をなくすため「人の世の寂しきものにみちしるべ」(石井三窓)が必要だった。人生案内はどの新聞でもよく読まれる。読み手はわが身におきかえ、安心したり不安になったり。千代子さん、平穩になれるように。

100歳の私へ残す今日あした

藤 原 大 子

人間の歳のとり方は年代によって異なる。70代は一年毎に老化するが80代は一月毎、90代は日一日ずつ老化する。100の大台に乗ったら時間刻みだ。その時間が「今日あした」の命の重みを訴えているのだ、とるか、100歳になったときの私に「今日あした」の思いや日常を書きとめておくのか、川柳の解釈はときに難しい。今日の「今日あした」の記録はことに難しい。その記録は後世への証言になるのだ。大子さん、えらいことです。

橘高薫風句抄

〔橘高薫風川柳句集〕平成十三年発刊

顔見世の勘亭流へ黄なコート

陽炎へチーズの如し黄なコート

達人は喋り名人物言わず

天と地を君と往く大観覧車

握手して生き延びる地を貰いけり

長男へ

心臓の手術魂抜かれるなり

ヒトゲノム金の盲者に酒の猛者

嗚呼 高杉鬼遊さん

生真面目な戒名貰うて君逝くか

流鏑馬の矢ほど見事なものはない

のらくろを読み返しおり建国忌

光太郎 智恵子が来たら砂丘晴

一時間月の出飽かず見る波と

来た道に戻る思いに年を取り

母と児が母と娘になる写真帖

風薫る伽羅も麝香もしずかなり

息子から歳を聞かれた日を覚え

八月はまだ簡単な月でない

盛んなり秋鷺峰に雲もなし

友一人二人声出せ雲の果て

温泉にいて腕組みをしています

肩車したらはっきり他人の子

爐の音は遥かはるかを目指す音

たてがみの白髪は父の反骨だ

呼ぶときと呼ばれるときの父の顔

人の世というは石にも表裏

鯖雲の裏を想像しています

北方四島夕餉の鉢をこう並べ

弟橘媛を恋せし日を覚え

飛ぶことを覚えた雛の黙りがち

鶯の飛ぶ爪の先まで隙が無し

老いらくに二月のシヨコラ甘すぎる



西 出 楓 楽 選

各務原市 喜多村 正儀

そそくさと浅瀬渡った日の悔悟

いさぎよく命あずけて風媒花

むずかしいことは背中に語らせる

半熟の恋が住んでる番外地

ターザンが居たころ森は生きていた

利き足の一步がつかむ時の運

伊丹市 延寿庵 野 鶴

朱を燃やしカンナ一途に天を衝く

見取り図へコロナウィルス抜ける窓

頑なところにボン酢ふりかける

未だ燃える火だねあるから詩を書く

○△□いろんな顔が行く都会

つまずいて人は優しい風になる

黒石市 北 山 まみどり

物憂げに剥がされていくカレンダー

棒線で片付けられた予定表

アイディアも浮かんだままで宙ぶらりん

買い換えた靴もバッグも箱の中

賑わいの一步手前で迂回する

使い分け楽しむ手作りのマスク

盆栽の松は苦痛に耐えている

酒を飲む 訳はあとから考える

数独もオセロも妻に敵わない

Google にしっかり監視されている

過半数が言うから多分そうだろう

会社では鬼と呼ばれた好好爺

今治市 永井 松 栢

神さまが呉れた長めのロスタイム

無観客ボクの人生そんなもの

自粛してボクは図太くなりました

この人も鰥夫だろうとかレジ袋

酒吞まぬ婿とは少し距離がある

もう何も望むものなし冷奴

阿南市 小畑 定 弘

— 46 —

松江市 中 筋 弘 充

年金という踊り場で舞う二人

ふる里の山が元氣と嘘をつく

熊の胃で万病治す戦中派

父の日のチラシをもっと刷りなさい

オジさんと呼ばれうれしいオジさん

虎ファン負けが込んでも騒がない

丹波篠山市 藤 井 美智子

熱中症コロナも強い老いの敵

うっとうしい梅雨もアジサイには癒やし

梅雨末期こらえきれない重い空

美しい梅雨の呼び名が泣いている

水の精命を救い命取る

朝鏡今日の笑顔をまずつくる

三木市 山 口 ヨシエ

自粛して電話料金はねあがる

予期しない疫病列島ざわめいて

新しい暮らしに変わる令和の世

コロナ禍にこころ引き締め立ち向かう

ときどきは萎えて軋んで蹲る

しみじみと普通の暮らし感謝する

大洲市 花 岡 順 子

指切りをしたので会の口になる

リセットはまだまだしない脳を研ぐ

三角の声と四角が渡り合う

完璧な守り無口を武器にする

うっかりと掴んだババを捨てられぬ

普段着になってスイッチオフにする

出雲市 黒 目 ひでお

世直しのチャンスコロナを足がかり

苦労したすべて肥やしに喜寿の坂

ここから世直し求め貪欲に

中国のマスク外交恐るべし

球音がリアルに聞こえプロ野球

米中に横綱相撲求めたい

三原市 笹 重 耕 三

雑踏を抜けて田舎の風に乗る

マネキンの胸に目がゆく男です

責任を取らぬ自由が多すぎる

言い訳はツバメ巣立つてからにする

ふる里を終着駅にする系図

爆音が掻き消す沖繩の民意

三田市 森 玲 子

草も伸び一雨ごとに仕事増え

気も減入る自粛続きの雨続き

コロナ禍でマスクも今じゃファッションに

父の日に羊かん二人ティータイム

冷蔵庫開けては閉めて何作ろう

10万円使い道なら決めてある

大阪市 石田 孝純

雨音は二拍子待ち人來たらず
雨の歌長い吐息のリフライン
破裂音の空耳冷めたミルクティー
四コマ目の隅に小さな文字つづく
笑つてゐる紫陽花前世きつと虹

大阪市 岡田 恵子

冗談に包んだ本音氣付いてよ
喧嘩するあなたがいての老後です
「猫踏んじやった」弾いてみようか駅ピアノ
お天氣と体温だけの日記帳
しじみ蝶身の程知つて野の花へ

大阪市 阪本 秀子

コロナ禍で備蓄だいじと思ひしる
公園の川のせせらぎ憂さながす
良いものは時代がながれても不滅
ハイテクがますます不便よぶのです
飾らない私になつてから元氣

大阪市 柴本 ばつは

どなたにも文句言わさぬ氣ままもん
ひとりでも美味しく食べてねています
限られた命の粹だ神まかせ
メロンより西瓜がええとおばあちゃん
空襲よりマシやと祖母が言うコロナ

大阪市 中村 民子

コロナ禍が老母の面会引き離す
弱音など今は吐けない事情ある
加齢かな歩くと痛い左足
青空に手に持つ傘が邪魔臭い
決められた立つ位置守りレジを待つ

大阪市 樋口 眞

ウィルスを怖れぬ虚勢繁華街
人多い植物園に居て孤独
かるがもの雛の見えない日の不安
納豆を毎日食べて妻元氣
脚力の衰え自覚する憂い

大阪市 松田 總

昼下がりが癒してくれる珈琲の香
夫婦老い共に元氣をもらう幸
若者はただ黙々とメール打つ
考えとく言葉の綾でうまく逃げ
あたりまえがそうでないこと知るコロナ

大阪市 森 廣子

口出して後味悪く引き下がる
揉め事は遠巻きに見てノータッチ
欲しかった羽がしっかり生えて來た
螺旋階段ためらい一つ降りて來る
松茸は絶滅危惧種秋淋し

池田市 上山堅坊

ひとまずは百均に行く小物買い
信じ切る質でサブリの効き目大
べったりと薬に頼るわが命
立腹へ笑う余裕を忘れまい
人生を畳み込んで五七五

池田市 倉本一弥

真夏日は冷えた茶漬で腹六分
マスク取るなんだお前か母笑う
飛べたらな電車乗らずに県越える
止めますか言われりゃむきに止めません
地獄の沙汰松竹梅とあるのかな

河内長野市 穂口正子

そうなんだ二度漬け禁止申かつ屋
味気ない酢蛸みたいな方やった
鮮やかに嘘は吐くもの騙すもの
乗り越えて違う景色の中を生き
さらにと許して反転砂時計

堺市 楠井輝子

嘘が下手目玉ゆらゆら泳いでる
無学だが生きる術だけしかと持つ
関白が妻の子分になる余生
遺言には書けずへそくり彷徨って
ゴミ出しへマスクどうしのご挨拶

堺市 羽田野洋介

飲むほどに軽口たたく内緒事
未熟さをスランプなんて言い逃れ
同じ夢見たくて二度寝してみたが
ヤバイなと気付いた時はもうおそい
いい結果出すには高い授業料

豊中市 貝塚正子

カミサンが握る胃袋生命線
宝くじ少額当たり友と酒
忘れたり思い出したりして老いる
消毒液今日は百円安くなり
嘘泣きでママのハグ待つ知恵がつき

寝屋川市 岡本勲

別れても微熱のようにある未練
訳ありの野菜笑っておすそ分け
年金の点滴だけで生きている
老人会花見の前にまずクスリ
自転車に老いをおしえる坂がある

寝屋川市 川本信子

変異してウイルス必死生き延びる
擦れ違う人に心でハイタッチ
眉毛だけされど眉毛が物申す
牙を剥く川にしたのは温暖化
亡夫の年貰い天国で再会

八尾市 山川 寧

ビフテキあん蜜ヨガをしながら考える
体重計ジムの後だけ使います
亡き友を呼ぶ山の静寂明け易し
ヒトクチを我慢すれば瘦せられる
雨続きテニスコートの静かすぎ

大阪府 奥野 健一郎

山ガールふもとで会えば無愛想
塩加減いつも自分にあまくなり
喧々譁々やったところで多数決
こやしになったのは遊んだ無駄金
逃げ隠れしない自分の蒔いたタネ

神戸市 石川 克美

誇らしいファクトX国民性
マスクする警戒してると言うサイン
聡明ねその名が示す聡太くん
また買った前に何度か読んだ本
大惨事如何にお在すや神仏

神戸市 米田 利恵子

未知の菌青い地球を赤くする
無農薬虫も安心して食べる
印籠が出るし呑気に見ています
儉約も母の思い出自然流
ステイホーム前から変わらないニート

尼崎市 清水 久美子

五分五分でコロナに負けているヒト科
ああしんど言うて終った上半期
再会へデカイ声出すハグもする
十万もマスクも中途半端やで
てらいの無い古閑裕而の自伝読む

尼崎市 山田 厚江

生きてれば時々福がおりて来る
線状降水帯いつまでそこにいてんねん
四カ月夫婦で自粛あしんど
断捨離は夫の服をまず捨てて
マスク顔美人はやはり美人です

三田市 稲角 優子

帆をあげて明日のよい風見つけよう
寡黙なる父の偶感身に浸みる
三回忌あの母らしいあれやこれ
海鳥よ迷子の母を知らないか
六月の雨は紫よって降り

三田市 住吉 美和子

被災地は風光明媚なとこでした
神仏に祈ることしかできません
夏休み蝉やカブトが命がい
暑くなり鼻出しマスクよく見かけ
夫留守さあ堕らけるぞ三日間

宝塚市 太田 としお

欠かさない杖をついても墓参り

後何年後何年が合言葉

生きて来たいや生かされて生きてきた

優しくなつたやはり天国近くなる

曾孫が見れる彼氏を連れて孫娘

宝塚市 岸田 万彩

激辛でコロナ抑えるつもりだが

暴れたくないが暴れる暴れ川

揉めごとが嫌いな質で貧しくて

手洗いをしすぎて指がしわしわに

四つ目の持病に深いため息を

丹波篠山市 横溝 安子

雑草を引く手を止めるねじり花

期待して育てた息子ただの人

品切れと聞けばよけいにほしくなる

戦中派こわいものなどありません

八十路それでも女紅をさす

西宮市 高橋 千賀子

なめくじをビールで誘う夏の夜

ホカホカの肉饅下げて友がくる

大足も小足も困る靴選び

支援金猫もマグロのお裾分け

酸いも甘いも噛み分けて老いて行く

和歌山市 北原 昭枝

天気図が雨音ばかり連れてくる

ベゴニアは負けず咲いてる梅雨のあめ

静けさの中で私をとりもどす

心までしめっぽくなる雨の中

まだ未練なのかじつくり雨が降る

和歌山市 倉橋 悦子

再放送むかし昔をつれて来た

風の子と組もうわたしのエトセトラ

カレンダーもう半年も過ぎていた

堂どうとヘソクリをしてプチ家出

言い切った言葉の角が攻めてくる

和歌山市 佐藤 まき

コロナとの戦中です穏やかに

希望の芽摘んだコロナの何時果てる

自粛解除たちまちコロナ蘇生する

折角の永い自粛を無駄にせず

コロナとの戦ワクチン出来るまで

和歌山市 福島 一雄

お腹にも線状帯のあせもでき

趣味の良さスルメと同じ味が出る

忘れても思い出せばVサイン

恋の歌地球何処でも共通語

島国の御蔭で育つ良い仲間

岩出市 村中悦男

境港市 藤原久直

マスクにも色々あると知るコロナ
本音はまだかじつと我慢の聞き上手

賞味期限近いと騒ぐ冷蔵庫

マスクした目は一層にものを言う

たとと呑む薬も楽しなる後期

和歌山市 三枝眞智子

夢ばかり追つてた頃が愚痴になる

視聴者を馬鹿にするなど父怒る

足腰を鍛えて一人暮らします

おういお茶の音が聞こえる夢の中

夢なかばコロナで頓挫見えぬ明日

和歌山県 森下よりこ

ネムの花咲いてるコロナ禍の日々に

生きているかぎり畑へ行く平和

八十路だが畑へ行きますその日まで

コーヒーを切らして我慢二三日

お茶の間で世界旅行も出来ている

鳥取市 山野すみれ

手の温み覚えてるからまた繋ぐ

すれ違う路地江戸しぐさ真似てみる

ケチャップが元気をくれるオムライス

眠れない夜を残して進む針

日常化自粛の色に染まる日々

内風呂で温泉巡り今日別府

七色の汗も流せる家の風呂

柿芽生え八年先を待ち望む

生活の景色を変えたコロナ菌

四季がある日本風景ワンダフル

米子市 川本美津子

太陽にプロポーズされ花は咲く

夏野菜100円ですと無人市

睡蓮の優しい色にいやされる

退職で交代してる主婦仕事

カーテンを変えて夏風誘い出す

雲南市 永見安子

同級生三人みんなエレキバン

ネジレ花幼き日々が懐かしく

なるようになってるのに迷い道

めり張りをつけて自由を満喫す

この先は世話にならぬを心して

益田市 篠原紋次郎

あの時に言えばよかったさようなら

コロナでもやっぱり好きな繁華街

蟻を視てまた歎を持つ事とした

眼の前に特攻隊の蠅二匹

王様のような顔した猫がいる

笠岡市 小野 美那子

わき水を飲んで充電するところ
プライドがわからんままに生きて今
掌を合わすあなたがまめでいますよう
人の目も背おうてどん底這い上がる
この道はプライド不要風の声

瀬戸内市 宮 宅 比佐恵

世の流れ変わる常識非常識
生き抜いた昭和令和に伝えねば
写経する独り静かに無にかえる
グイと飲み一緒に泣いた紙コップ
長らえて退屈しても感謝です

津山市 高 橋 由紀女

温めた余熱をどこで萌やそうか
垣根から梔子香る小糠雨
まだ生きる積りで挿し木種を蒔く
泳いでも泳ぎ切れない父の海
突然にスキンヘッドで子が帰る

美作市 岡 本 余 光

無惨なりコロナが潰す人の夢
人の夢根刮ぎ剥がす雨の量
殖生の宿俗塵洗う露天風呂
鈍才も天に授かる才のうち
感情の質と量とは正常値

広島市 松 尾 信 彦

自伝編む妻の笑顔がエピソード
虫喰の野菜母とにあるドラマ
更地から日の目を見たり草の種
顔ぶれで早めに梯子降りておく
この杖が主役となつて安近短

尾道市 小 川 道 子

軽々と即答できぬ齢なり
何もかも年相応でアリガタイ
ああ人生あすは地獄か極楽か
おのおのが主役演じて黄昏れる
伸び代に期待のかかる芸の虫

府中市 岸 田 武

梅雨惨禍なしには夏の来ない国
新型コロナ居すわるうちにまた災禍
食べ飽きたころ初生りのナスを採る
カーナビはいらない妻の指示がある
今日の僕と乾杯をして飲んでいる

山口市 中 前 幸 子

雑木林に来て揺り籠の歌うたう
小指と小指の固い約束だった筈
ドラ焼きがほかほか胸を熱くする
B面で静かに出番待っている
アドリブの街変身を試みる

今治市 渡邊 伊津志

年とって良くはならない物わかり

につこりと笑える顔の深い皺

解説を聴いて同感する絵画

ばつちりと顔に映ったいい羨

愛しさに触れて美しさが育つ

唐津市 岩崎 實

皇国民洗脳されて生い立ちし

奉安殿最敬礼の登下校

東を向いて拝めと手を合わせ

薬人形竹槍突いて突きまくれ

まだ生きて九十歳の反省記

佐賀県 真島 久美子

その度に知ったかぶりをしてしまふ

足跡がいつぱい期待などしない

夜を塗る絵の具が不足しています

虹までの方舟ならば無人です

最果てへ私の名前書きに行く

弘前市 高森 一 吞

五百ミリ自然の猛威異常です

生かされて順番でない計の知らせ

思い切り使い切ったぞ十万円

体重計妻は乗らぬと決めている

物忘れとぎれて失せてゆく昭和

富士見市 中島 通則

カーナビが免許返納せよと言う

鈍感力を妻と娘に褒められる

デコポンのヘソに不思議な親近感

テーブルに妻のメガネが四種類

投句してポストに両手合わせます

横浜市 加藤 佳子

コロナ禍へ健闘託す第二期目

三桁の数字が怖い正念場

YouTube 退屈させぬお友達

おしゃべりがでなくなったディスタンス

有料のビニール袋でかい顔

江南市 脇田 雅美

国の威厳だんだん下がリポスト安倍

草抜きに背中を曲げて腰かばう

二度寝して前夜の不眠取り戻す

瘡蓋が自然に取れて完治した

スプレー散布ゴキブリころり裏返し

豊中市 西郷 紀美代

家庭不和嫁が始めた酒タバコ

離婚後に往き来の孫がいじらしい

宣告に覚悟はしても前を向く

どこでどう誤ったのか育て方

虹のうたみんな好きだと歌う孫

大阪市 近藤風羅

家内安全祈願のかえり口げんか
まどろみに浮かびし一句今いずこ
爪切つてすることもなしビール飲む
リモートで親しき友と再会す

大阪市 中村峰子

コロナ禍で全てのが上の空
止めてみるテレビ音楽世は静か
うきうきと不要不急で出かけます
メ切りに追われてふっと句が浮ぶ

大阪市 降幡弘美

GOTOと反比例する感染者
観戦に行こうかどうか迷う夏
緊張の夏だマスクが手放せぬ
シトシトがドシャールに変わる梅雨の雨

大阪市 前川善之

九十で僕の青春これからだ
神仏もコロナ退治も動きなし
人生も努力しだいで道開く
令和でも生き方搜す高齢者

大阪市 宮本千恵子

尾畠さんやはり被災地ボランティア
ステイホーム菓子食べ過ぎて歯科通い
料理に掃除でんやわんやの義母来る日
風の流れが止まっていたなこの三月

泉大津市 助川和美

捨てる本葉のページ読み返す
妻留守に酒飲み過ぎた鱧の皮
筆まめを褒めてメールはうとまれる
ハグ握手指切りさえも禁止され

茨木市 細田マキコ

夏マスクコロナ怖いし熱中症
みやげ店主も中国語忘れま
す卵の花の香り残して自粛開け
ばらばらと道に落ちてる安倍マスク

河内長野市 渡邊修

米中がコロナめぐって火花散る
東京の五輪百合子の花道に
お出かけの一日前は物さがし
マスクして微妙商談聞きとれん

堺市 古川光雄

妻所望ホホッと笑える句を作れ
釣銭の計算不用キヤッシュレス
出かけたがマスク忘れて引返す
おろかです高額マスク今余る

吹田市 岩口のぞみ

あと一年磨いて待とうおもてなし
マスク顔特徴隠れ見間違う
デイスタンスハグも握手もおあずけです
雨の音なぜか朝寝に最適で

高槻市 三谷白黒

河井さん天がちゃんと見てました
こわくてもクラブ行く人居るんだね
禁欲は破った途端中毒に
指導者に点数つけるコロナです

豊中市 荒木郁子

水田の鴨役目終え稲育つ
無造作に書類にサイン命取り
散歩の目住宅街で花探し
コロナ禍の収束願ひ写経する

豊中市 齋藤奈津子

梅雨寒に三日続きのおでん鍋
好きな酒断って体調悪くなる
マスク越し会釈で済ますごあいさつ
コマーシャルトイレタイムに丁度いい

豊中市 松田蟻日路

微笑みの仮面の下に夜叉の顔
人の世の早瀬ふらつく脚で行く
向き合えず杯を合わせるカウンター
街並み黄昏不協和音楽で

寝屋川市 坂本ミヨノ

木の雨粒花咲いたようぼつり落ち
歳月の梅酒自慢分け歩く
健康で祈る七夕年金も
海老天プラ尾の赤が好き先に食べ

寝屋川市 廣田和織

行く道を決めて空気が旨くなる
真つすぐを行けば険しい道になる
前触れもなく途切れてる僕の道
どの道もみんなで行けば怖くない

東大阪市 秀爷

父の日は今年も既読スルーされ
友情は女ができて終わります
わが余生パワハラ上司見返す日
認知症怖れて今日も本開く

枚方市 谷英也

幸せはゆつくり来るもすぐ逃げる
京の街しっとり濡れて蛇の目傘
巢籠り後続くコロナは人の業
終電車慌ててダッシュ千鳥足

八尾市 田邊浩三

アラートの解除祝いでもう一本
美人顔コロナマスクが隠してる
瞳だけに惚れてしまった看護師さん
コロナより三密禁止恐ろしい

大阪府 大浦福子

媚びはせず咲いて散りゆく野辺の花
ガンバレと今日も自分に旗を振る
触れないで意外とシャイなマイハート
それぞれをそれぞれ生きる精いっぱい

大阪府 高 木 道 子

ガラス戸の守宮に粗食を覗かれる
成る程と合いの手打って黙らせる
誰も来ず電話も鳴らずコロナ梅雨
免許更新老化度ためす三年間

神戸市 青 木 公 輔

人妻を恋う家系図を軋ませて
芸は身を助けず甘くない世間
鬼にした心がいつかずれていた
ぶらり立寄る見え見えの下心

神戸市 青 山 ひろし

いたずらで手配写真がマスク掛け
好きだった娘の旧姓はまだ覚え
黄門とボワロの午後でじしゅく中
おはようのお返し語尾を上げてやり

神戸市 興 水 弘

亡父の歳超えて叱咤がにじみ出る
気まま見せ教えを請いて生きる老い
鳥瞰図人生の最後にコロナ描く
分ったふりし生返事老い和み技

神戸市 近 藤 勝 正

大雨とコロナで孫はずっと家
食卓もテレビの前もディスタンス
これまでも今も縁ない贈収賄
一遍はもらってみたい袖の下

神戸市 斎 藤 隆 浩

紙上より元気もらえる句会場
新コロナ来る時せめてノックして
おばちゃんマスクやつぱりヒヨウの柄
父昭和母平成でボク令和

神戸市 田 本 古 鈴

紫陽花を梅雨の晴れ間に見てまわる
何程の事も無いよに夏が来る
無くすものなんにもなくて命あり
やさしくて強い人などどこにいる

神戸市 山 根 弘 華

弱いけど恩と情けはたとある
卒寿です今日も感謝のお経あげ
赤のれん小皿たたいたオケサ節
三密を守って今日も一日テレビ前

芦屋市 新 阜 義 明

サイクリスト何故か出腹はだれも居ず
袋持ち3円5円貯金する
小池さん日本語ソフト好感度
年と共に早起き今は4時目覚め

伊丹市 岡 村 風 琴

ケトル呼ぶ熱い熱いと鳴っている
アンニユイな時を食べてるボブ・デイルン
ジオラマを覗くぽつんと一軒家
幸せの欠片を貰う御裾分け

伊丹市 平井 富夫

今宵また月下美人の蕾咲く
頼み事言葉軽いが荷は重い
災害の地域復興どう立てる
病院の受付急ぐマスク列

三田市 生田 えい子

巡る季に身の丈変わり直す裾
多家族のメダカに元氣貰う老い
寝入るまで団扇の風をくれた亡母
過疎の村コロナが怖く皆自粛

三田市 木村 マユミ

ねじり花ねじれた姿自己主張
今世の災害コロナ天の声
テレワーク働き方が変わりゆく
コーヒにあんパン和洋のハーモニー

三田市 幸田 厚子

ステイホームピアノとダンス見える窓
会見知事都道府県の顔把握
車窓に息君の名書いて冬旅愁
私なりアマビエアート折り込め

三田市 辻 開子

会計時なぜかトイレに友は行く
波乱越え二人三脚五十年
自粛中ウエストのゴムきつくなる
亡母の味娘に告げられぬ料理べた

三田市 中山 昭美

マスク取りやっぱいいな生笑顔
若やいだ花柄マスクおばあちゃん
手足にもご機嫌とつてする日課
意地張って落しどころが見つからぬ

三田市 中山 寅男

たばこ止め家族が呉れたグランプリ
息切れる三途の川はまだ遠い
父越えるこの際目指せ百歳を
一強に暖簾腕押し野党勢

三田市 馬場 貴美江

街の中カラフルマスクファッションか
サングラスマスクの街は無表情
人生の階段ゆるり一歩ずつ
孫が来る論吉に羽が生えだした

丹波篠山市 澤 良子

必需品手作りマスク歩きだす
見栄張って背伸びしてたらくたびれた
精を出し体調良好親に恩
失敗が力となって顔を出す

西宮市 高瀬 昭枝

雨の朝花柄ドレス気分晴れ
退職日嬉しい言葉風浴びる
暮し向き夢を形に駆け上がる
コーラス部家事も忘れて弾む声

奈良市 尾 畑 なを江

お見舞の返しと届くお中元
人間も干魃に泣き雨に泣き
何もせぬ日増えてすぐに過ぎてゆく
上げ底の和菓子頂く午後三時

奈良市 仲 西 賛 郎

白い靴散歩に履いて弾んでる
浮き沈み越えて人生味なもの
弱点はみんな家内が押さえてる
前入歯10万円が飛んでった

生駒市 饗 庭 風 鈴

熱が出たまだできてない辞世の句
涙して笑ったことを忘れない
吸う前に吐かねばならぬ深呼吸
前進せよ二足歩行ができるうち

生駒市 児 玉 規 雄

脳味噌に徴が生えてる長い梅雨
くまもんも涙枯れ果て笑えない
被災地に足に向けては寝られない
鉢巻が光るスーパーパーランティア

奈良県 室 田 行 久

病室にやはり天使が住んでいる
今も持つ戴帽式の夢誓い
ありがとう今日も何遍言うたやら
歩行器の一步一步に湧く希望

和歌山市 定 松 宏 枝

我慢せずエアコンつけてと子のメール
カレンダー六枚剥いてもう夏だ
聞き返す返事大きくなる夫婦
ひらめきは忘れぬうちにメモをとる

和歌山市 鍋 嶋 澄 子

病む人の思い出ばかりぬけられぬ
手足のばす朝の体操上手くなり
体調がすぐれぬ友を待つランチ
梅雨に咲く花も疲れて生気なし

和歌山市 西 川 千 鶴

火気厳禁破裂寸前今朝の妻
喧嘩して三日続きの冷奴
駅裏の朝の鴉は事情通
古惚けた柱時計にある威厳

和歌山市 まつもと もとこ

幸せな気持をくれたボランティア
常識があつて吠えない夜の犬
少しでも太陽自粛してネ 夏
無理をして笑うそんなのあきません

鳥取市 上 山 一 平

大雨の起伏が早いつゆ末期
大砂丘渚素足にまといつく
大砂丘砂防のアカシア生きている
はまなすの砂丘彩る南限地

鳥取市 大前安子
子等の背へそもそなんてもう言えぬ
焦ったね走ったねもう歩こうよ

世の中に遅れまいぞとニュース聞く
グジグジするな蛙足元ピョンと跳び

倉吉市 伊藤嘉昭

目標ができたら顔が輝いて
がんばろうあと十年の朝歩き
歩けるけ伏せていたら陽は見えぬ
じいちゃんは僕に似てると孫三つ

倉吉市 大羽雄大

銀行へ帽子だけでも脱いで行く
コロナの名借りて終活始めてる
もしもから始まる話夢ばかり
自動に慣れ手動ドアに鼻打った

倉吉市 堀かずこ

役員を下りてひとまずほっとする
広島姉を案ずる遠すぎる
鈍行の線路のきしみ子守唄
暑いねと何度言ったらいいのやら

倉吉市 宮田風露

人並に生きて味噌汁上手なり
愛情のハンドル加減の難しさ
大災害自然破壊の罰かしら
失言も小さいマスクで漏れ易い

今八十路生れた昭和遠く去る
責任が空気みたいな安倍総理
福岡氏医学部トライそう決めた
青い空青い海船知り走る

境港市 中井虎尾

いつのまに備忘録だわ日記帳
人脈を誇って男中味ない
宝くじで買えない夢を追っている
炊煙が見えているのか政治家に

米子市 妹能令位子

三世代老いの柱と和の力
三世代ウィルス案じ今日も暮れ
幸せはあなたの顔が横にある
ゆつくりと私のペース暮れて行く

鳥取県 飯野菖子

気の乱れ字にも変化が見えている
胸の中喋ってみても策がない
考えて見れば一人がよかったね
不仲でも夫婦一緒が一番だ

鳥取県 下田茂登子

なすにマッチの足をつけ遊んだ幼少
ひまわりにわざと肥料せずかわいく咲いた
この梅雨が済んだらパーと暑くなるか
嫁が無い炊事の手抜き出来ません

鳥取県 西谷悦子

鳥取県 橋谷 静江

聞き上手おしゃべり下手で不可をとる

痛いところ我慢しながら畑仕事

雑草の畑で時に背伸びする

旬野菜食べて元気をとりもどす

松江市 相見 柳歩

新しいノートの香り隣りから

情熱でチョコなどかるく溶かします

存在感影までうすくしませんよ

輪の中に入っっていいよ天使さま

松江市 山根 邦代

カラスにはお手あげですと友の声

電話中忘れてたこと思い出す

断捨離で手にした服がさわぎ出す

悪いくせ半日たっても終らない

安来市 原 徳利

向日葵がお似合いですというフェイク

ぬるま湯にどっぷり浸かる政治論

美しい放物線のホームラン

警策で打たれるほどのちさい罪

広島市 田 桑 恵子

水水し我が家のきゅうり規格外

誕生日より次々メール来る

暑苦しコロナが笑う夏マスク

マスク忘れ居心地悪いお買物

広島市 常國 喜好

強気ですあなたがそばにいてくれる

いつか死ぬ星占いに嘘はない

悲しみをまるで分からね偉い人

挨拶が出来て危険がぐっと減る

尾道市 小畑 宣之

コロナ以後全て小事と思えます

乗り越えし幾星霜が宝物

花に見る栄枯盛衰人も又

白髪となりて鏡に母の顔

竹原市 若年 幸子

TVチャンネルマスクの要らぬ旅をする

入浴中浮かんだ名句湯気と消え

一姫強く二太郎少し柔らかい

断捨離へ揺れる恋文もうとまだ

竹原市 土井 輝恵

母親に責任があるビール腹

防災食あれから開けてないのです

中立を固持する息子動じない

防災の差配女に任せきり

三次市 伊藤 寿子

マスクせぬ人はいないよ過疎の村

0才児マスクも出来ず乳母車

空中散布でウイルスを殺せぬか

不景気を合い言葉にし店守る

松山市 大内 せつ子

宮崎県 黒木 栄子

さよならの文は小洒落て書かなくちや
告白へ今朝は濃い目のモカにする

おくやみもマスクのままの通夜の席
巢ごもりの吾子へ届ける里の味

まぼろしばかり追ってカスミソウになった
マイナーの僕へさくら貝の涙

母案じ面会するもガラス越し
青春の内緒心に畳み込む

松山市 郷田 みや

沖縄県 あら さくら

泥まみれ溜息だけのインタビュ
今年また水ナス届く頃です

口ほどに増して物言いマスクの日
同室でスマホで会話あじけない

読み切った芝さすがプロだと思ふ
氣にするとだんだん穴が深くなる

大太鼓かなたに響く祭りの夜
流れ星願いかなわす夢の夢

高知市 三谷 松太郎

沖縄県 禰 モモト

遠来の友もコロナかさぐり入れ
どんと来いマスク買い占め二波三波

机椅子消毒済の待つ句会
あの頃にペアルック着るはずだった

リタイヤー間のびしたのか句も間延び
ベーターベンさゆりになおみ みんないい

自肅して義父母回忌は家族だけ
三密で蟬のコーラス控え目に

福岡県 本田 さくら

沖縄県 宮 すみれ

ナツメロが語る私の青春譚
遠い日の君が心の襞にいる

有頂天ちよつとまてよとその言葉
いい風だ服も日傘もスピンする

沖繩を想う苛酷な過去と今
豊作できゅうりあちこちから貰う

かわいくて菊菜のつぼみたべちゃった
ふたりしてあまだこうだとバラの柵

唐津市 前田 廣幸

黒石市 石澤 はる子

満面の笑みで紫陽花梅雨晴れ間
早苗田の日毎絨毯織り上がり

エプロンで戦闘モードスイッチオン
不都合な真実暴く内視鏡

要らぬ世話大きな世話も糧として
責任は無いあくまでも評論家

軸足を浮き世の義理が脅かす
旅かばんまだかまだかと出番待つ

五所川原市　むらの　ひとり

草むしりこんなに庭が広がった

目覚ましの先に目覚める負の目覚め

何処までも出たところ勝負九十九折

白波を立てないように立ち泳ぎ

仙台市　月波　与生

最後の友とタイムカプセルを開ける

シャッフルします正論だけのオセロ

アマビエもネビエも密かにやってくる

ジョーカーが多い同窓会続く

栃木県　廣瀬　良磨

八月の予定がないとカレンダー

ドタバタとつまずきながら還暦に

夏祭り金魚すくいがあった

コロナにはしつこいくらい虐められ

東京都　高岡　弥生

付いてくる二匹の蝶々父母か

都知事選オリンピックとコロナ菌

岩の上葉っぱと石でお料理を

ニートなら自粛期間も変化なし

横浜市　巖田　かず枝

故郷の姿の消えた雨の後

ぜったいにぎゅっと握って子等の手を

リュックには詰めた物がたんとある

梅雨空に部屋干し客を招けない

横浜市　長島　亜希子

再放送名勝負だが又負ける

手洗いのし方を習うこの齡で

頑張ったねスマホに歩数ほめられる

数十年に一度の雨が今年又

神奈川県　小田　幸子

大あわて私が寝坊皆寝坊

人だかり輪の中心にスズメの子

価値観がコロナ自粛で浮き上がる

コロナ禍で人それぞれの不要不急

静岡県　渡辺　芳子

要支援2を頂いてやる気出す

知らぬ人に腕を組まれて道渡る

長い歳月生きのびて来た幸せよ

自然災害のがれて生きた九十歳

名古屋市　富田　末男

本心か問うてみてから答出す

それぞれの土地が持つる夢の跡

あるないの運を歴史が持つている

納得の考えだからなる自信

名古屋市　山本　三樹夫

大雨に人の英知が試される

満員の車内コロナでしんとする

経済が優先された温暖化

本山に母を納めて胸下ろす

（小松くみ子さん、武田悦寛さん、北野クニオさん、西谷悦子さんは39頁にあります）

英語 de Senryu ⑩

麻生路郎句集 『旅 人』

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

子よ 妻よ ばらばらになれば浄土なり

*my kids and my wife,
if we live separately,
we are in the Buddhist Pure land*

まああがれ 女房の風呂は 長いから

*I take it easy
while my wife has
a leisurely bath*

kid 子供 *live* 暮らす *separately* 離れて *the Buddhist Pure Land* 浄土
while ~の間 *I take it easy* 気楽にいられる *leisurely bath* ゆっくりと風呂にはいる

～リバーウィローのため息～世界の川柳・俳句④日本人が書く英語ハイク考

英語ハイク教室で「紫陽花」(*hydrangea*)を課題にして即興のハイク作りをしました。
hydrangea/chattering/flowers/are blooming (あじさいやおしゃべりの花咲いている
N.Y)。作者は小学5年生。球状の装飾花の様を瑞々しい感性で描きました。次はシ
ニア世代の参加者のハイクです。*in the rain/hydrangea enjoys/waltzing* (紫陽花の雨
に打たれてワルツかな T.A)。雨に打たれる紫陽花の姿を音楽的に表現しています。

参加者で意見を述べ合っているうちに魅力的なハイクが生まれます。この教室は小
学生からシニア世代までの参加者が、同じ空間を共有して創作するという珍しいクラ
スです。

また結成3年目のハイク会の参加者に、「句会のどこが面白いか」と聞いたところ、「ハ
イクを仲間と推敲して仕上げるのが面白い」「仲間と一緒に語彙を見つけ出すのが楽し
い」など寄せられました。つまり日本に居住して英語ハイクを書く日本人は、日本語
の俳句同様に、英語ハイクも座の文芸と認識しています。

この点は海外在住のハイキストの姿勢と異なります。海外の句会ではハイキストは
自分の作品に自立自尊の姿勢です。一方、句会に参加している日本在住の米国人は「仲
間と作品を討議しながら完成させていく過程が刺激的」だと言います。自由に討論で
きる場所と空間、つまり座の文芸としても成立する日本人の英語のハイク会は、エポッ
ク・メーカーとなりそうです。



ともだち (1)

次の句と寸評は、令和元年の川柳塔誌七月号(No.1106)の「愛染帖」に掲載されたものです

ここからは流れ解散だな友よ

高瀬 霜石

(評) 古稀を迎える頃から同級生の計報がポツポツ届くようになる。改めて挨拶を交わして別れたのではない。「流れ解散」だ。

この句は印象的だったのでよく覚えていました。それからちょうど一年、今年の川柳マガジン七月号を何気なく見ていましたら、次の句が出て来たのでビックリしました。

天国は現地集合だぞ友よ

月波 与生

作者が先の句を知っていて作ったのか？ まったくの偶然だったのか？「そのような詮索は無用」と思えるほど見事な連続性です。今後、この「流れ解散」と「現地集合」の二句は、セットで永く語り続けられる、そのような気がします。

飲めるかと一本さげて友が来る

奥澤洋次郎

酒さげて妻の嫌いな友がくる

藤原 一平

右二句も、作品が掲載された時期も冊子も異なりますので、互いに意識はしていない筈ですが、こうして並べてみると見事に呼応していて苦笑させられます。

悪友と呼べるうれしい友がいる

森松まつお

友達やないかと悪が寄ってくる

小西 明

悪友は未だに脂ぎっている

土橋はるお

悪友のおかげ楽しい後期です

緒方美津子

悪友も毒気が抜けてきて米寿

都倉 求芽

友達みんな出世をしていない
ろくでなしの戦友ばかり生きている

牧野 芳光
江原とみお

互いに「悪友」と呼び合う仲になるには欠点も許し合う程度の量が必要でしょう。いやそれ以上に「相性が良い」ということもあるでしょう。離婚の原因第一位が「性格の不一致」とのことですが、友人関係も「相性」があるようです。

右の「ろくでなし」に込められた想いは「気のいいヤツ」「やんちゃくれ」「出世など無縁」「情に脆い」「俺と一緒」等々、いわば無二の友に対する尊称とも思えます。

葬儀屋とまちがうぐらい動く友

高島 啓子

おおらかで鯨のような友がいる

柏原 夕胡

俺お前飲めば二十歳の雲が湧く

村上 直樹

心から笑える友と膝栗毛

広島 巴子

バッテリー切れそうだから友に逢う

細田 裕花

友の持つプラスをいただいて生きる

徳丸 浩二

友達が集いまつりになつてゆく

倉益 一瑤

「葬儀屋とまちがうぐらい」というのは葬儀場での観察でしょう。式場に遅れてきた人にあれこれ指示をしたり、何かにつけて「仕切る」のは善意のお節介で元氣者です。

朗らかな人と接していると、その明るさがこちらにも伝わってきて元氣になります。同じように、小さな事に拘らなく「いつも大らか」とか、「何事にもプラス思考で立ち向かう」という人は、周囲の人にもエネルギーをくれるようです。

できれば、バッテリーを充電してくれるエネルギーシユな人、集まると祭りになる元氣者を友だちにしたいものです。

誹風柳多留一二三篇研究 1

がまれにあります。
清 賛。

3 四五人の大屋をしかるいゝくらし

小栗 大屋（家主）は、地主の地面、貸家を管理し、地代及び借家人から集めた家賃を地主に収め、地主に代って公用町用を勤め自身番所に出動して非常に対処するを職とする町人（江）。

四五人もの大屋を集めて叱っている地主。まさに大地主に違いなく、いい暮らしなのである。

山田 賛。雨譚註「地主シ」。
清 賛。

4 けいせいハならいもせず書くつし

小栗 書き崩すは、①字画を省略して書く。②草体に書く。③途中まで書きかけてまとまらなかつたり書き損じたりする（日）。
万句合「せぬに」。

傾城は「習いもせずに」書き崩した字体で手紙を書く、という意であろうと思うが、句意が今一つはつきりしない。

①「習いもせずに」を「誰にも習うことなく

小栗 清 吾・細井 龍 夫
伊 吹 和 男・高野 範 雄
山 田 昭 夫
清 博 美

1 一ふくをひつはりにのむ女きやく

小栗 「引つ張り」を辞書で引くと諸義があるが、ここでは「一緒。共同。」（江）の意であらうかと思う。気心の知れた女性の客がやってきて、その家の女房と語らっているような場面を設定すればいいのだろう。女房が自分の煙草を吸い付けて女客に渡すと、「あら、いい煙草ね」などと女客が喫んで返すといった様子。

清博美「川柳江戸喫煙志」によれば、懐中煙草入れがない時代は、訪問先の煙草を頂戴する他ないので、やかましい作法もあったようであるが、主題句の場合は女同士で気楽に楽しんでるのが「引つ張り」という語感だろう。

引ッはりにきせるを遣ウ切落シ

宝八満

細井 賛。一服の煙草をスパスバとやって客に渡し、客もスパスバとやる。仲のよい訪問客だろう。
清 賛。

2 ちかぐと見へて大工やたゝみさし

小栗 大工や畳刺しが入っているところを見ると「近々」だろうというのであるが、「近々」なものは「婚礼」だろう。家の造作を直したり畳替えをしたりして、嫁を迎え入れる準備をするのである。

小生の田舎でも、嫁をもらう前に台所や便所を直す家が多かったのを思い出す。

伊吹 賛。今でも格子や板壁の洗いをする家

全くの独学で」の意とすると、傾城というものは、誰が教えるわけでもないのに、何だかみんな同じような崩した字を書くもんだ、ということになろうか。

②「習いもせずに」を、「きちんと手習いをせずに」の意とすると、本来楷書をきちんと習ってから崩し字に進むものなのに、そんなこともせずただ見よう見まねで崩すから、何だか読みにくい字だね、ということになろうか。

と理屈を付けてはみたものの、要は傾城独特の崩し字の手紙を詠んだだけの句であらうから、おおむね②のように解しておけばいいのだと思う。

細井 正式には習わず姉女郎からの見様見真似で覚えた字を我流に崩した、と解すれば如何。

江戸時代は行・草書を教えるのが普通で、楷書は特殊だったとか。

けいせい のふみハのぞくにか、わらず

七41

書クもんだなとすけんぶついらぬせわ

天二梅2

伊吹 傾城独特の崩し字の礎稿に賛。

高野 賛。②傾城独特の崩し字。傾城には相当の教養があったはずです。

山田 多分②だと思いますが、「傾城独特の崩し字」などあるのでしょうか。本句の元句(安四松1)の前句は「つらい事かなく」

ですから、基礎の無いのに、上辺をかざらなければならぬ傾城のつらい立場を詠んだものとしたら如何でしょうか。

清 単に、我流の崩し字と考えていました。

教養のある傾城というのは、時代をかなり遡った時代の極々一握りの傾城で、他は身体を売るだけの女郎に過ぎなかったと考えております。皆、貧乏の家の出身で、寺子屋などにも通えぬままに売られて来たものが多かったのではないのでしょうか。

5 後ぞへハこわくきつぬひなをし

小栗 後妻が先妻の残した着物を縫い直して着るというパターン句の一。先妻の執念が残っていて後妻に仇をするのではないかと、「怖々」の心境である。

後ぞへハうしろぐらくもぬひ直し

明二義2

まよふまひものか後妻着であるき

寛元宮1

清 賛。

6 敷そめの夜具天井へもふちつと

小栗 ここで「敷き初めの夜具」はいわゆる三蒲団のこと。三蒲団の嵩高いことを大仰に詠んだ類句多数の一で、贅説を要しまい。

文字面に忠実に解すれば、三蒲団新調時の「敷き初め」というセレモニの際に、披露のために畳で積み上げた夜具が、まるで天井まで届きそうだという光景を写生した句ということになろうが、そう厳密に考えることもないと思う。

三ツ布団天水桶に程かし

二〇29

清 賛。

7 琴箱へのひるを入れてしかられる

小栗 野蒜は、ユリ科の多年草。各地の山野に生える。全体にニラやネギに似た臭気がある。葉・鱗茎は食べられ、また鱗茎をおろして麦粉と練つたものを塗れば打撲傷に効くという(日)。

山野へ外出の際、採取した野蒜を琴箱に入れたので叱られたというのである。同行の男か下男あたりの仕業であらうか。臭気が強い植物だから、叱られて当然である。

清 賛。

愛染帖

新家 完司選

(投句291名)

目も耳も閉じて和筆筒処分する

尼崎市 藤田 雪菜

(評)母の声や仕草が染み付いている古びた和筆筒。何度も逡巡した上での決断は、残る者へ負担をかけたくないという想いだろう。

西宮市 福田 正彦

スマホには何時も苛苛させている

(評)イライラさせられているのではあるが、自分以上にスマホの方が「何とまあ不器用なご主人」と苛立っているだろう。

西予市 黒田 茂代

わたくしのこだわり石鹸は固形

(評)ポンプ式のボディソープより肌に優しくすぎが楽な気がする。小さくなると泡立ちが悪くなるのが欠点ではあるが…。

大阪市 磯島福貴子

よいしょって外人何て言うのやろ

(評)高齢になると思わず出る「よいしょ」とか「どっこいしょ」それぞれの国でもあ
るらしいが、日本人ほど言わないとのこと。

婆さんと爺さんになり家静か

大阪市 岩崎 公誠

(評)口喧嘩もなくなった。酔っぱらって帰って大声を出すこともなくなった。天国の蓮池の畔のように、穏やかで静かである。

岡山市 永見 心咲

免許返納しても翼はたたまない

(評)車を手放しても閉じ籠もりはしない。バスも電車もタクシイもある。そして、何より「こころの翼」が元氣浣刺である。

尼崎市 清水久美子

伸び切ったズロースを干す梅雨晴れ間

(評)シミーズもズロースも死語だと思っ
ていたが…。懐かしい言葉に出会ったと昭和の裏町風景がモノクロでよみがえってくる。

府中市 岸田 武

ドリンクのだんだん高いのにすぎる

(評)高麗人参エキスなど生薬20種類配合！
などと宣伝されている最高級ドリンクは一本
二千元！ そんなのに随って何をするの？

長岡京市 山田 葉子

命令が足の先まで届かない

(評)脳からの「足を上げよ」が届いたのは
踵いた後など、命令と行動に時間差が出てき
たのだ。命令を発しなくなるよりマシだが…。

松江市 梅瀬みちを

結局は不要不急のことばかり

(評)コロナ禍に対して「不要不急の外出は

控えよ」とのこと。確かに、急ぐ仕事などは
ないが、閉じ籠もってはやりもいられない。

弘前市 稲見 則彦

キッチン屋台風にと模様替え

大阪市 小野 雅美

かくれんぼすぐに見つかるデヴィ夫人

土佐清水市 辻内 次根

カップ麺食っているのに減る預金

大阪市 柴本ばつは

不思議なやお金無いけど陽気です

弘前市 高瀬 霜石

ギリ貧が続く父権も肉ジャガも

和歌山市 まつもととこ

怒られる才能だけは生まれつき

松江市 中筋 弘充

日焼け止め塗ってもらえぬ足の裏

大阪市 谷口 義

ジャニーズは小柄な中年になった

大阪市 江島谷勝弘

文春さん不倫なんかは放つとけよ

芦屋市 竹山千賀子

口に蓋これが一番むつかしい

唐津市 仁部 四郎

CMも時に金言吐いている

黒石市 石澤はる子

怒るのは猫だけにして和を保つ

高槻市 初代 正彦

風格にもじむ和服の聡太君

堺市 村上 玄也

羞恥心消えて乱れる身だしなみ

黒石市 北山まみどり

アイディアと実行力がミスマッチ

米子市 竹村紀の治

律儀です体重計に万歩計

岡山県 藤澤 照代

指鉄砲的を外したことがない

熊本市 杉野 羅天

降り注ぐ光が見える胸の隙間

鳥取市 田賀八千代

伸びすぎた髪もコロナのせいにする

今治市 永井 松柏

スイカ切る明日は生ゴミ収集日

佐賀県 真島久美子

三密は回避 壇蜜ならカモン

岡山県 真島久美子

別れ道おもしろそうな方へ行く

美作市 岡本 余光

六万の美容液へと手を出した

岡山県 岡本 余光

生きにくいですが啓発本の山

権原市 居谷真理子

ミリ以下の虫の命を潰す指

仙台市 月波 与生

運鈍根どれもいささか不足気味

仙台市 月波 与生

えらいこっちゃジーンズがもう似合わない

仙台市 月波 与生

今日もまたあきなおみの雨が降る

仙台市 月波 与生

加西市 山端なつみ

五十年に一度の雨が今年また

長野県 丸山 健三

昼寝した分だけ長く生きてみる

豊中市 きとうこみつ

香港に自由を 私に愛を

伊丹市 延寿庵野鶴

パイナップル芯まで食べて笑われる

生駒市 飛永ふりこ

久しぶりしゃべり足りない7時間

松江市 石橋 芳山

見た目には気ままな風と波と俺

大坂市 古今堂蕉子

あなたごめんね 私気楽に生きてます

横浜市 菊地 政勝

長生きは医療と妻のおかげです

越谷市 久保田千代

ワクチンを打ったからとて風邪はひく

倉吉市 牧野 芳光

転んだら認知症かとふとよぎる

西予市 西田美恵子

ボケてくるそろそろ遺影撮っておく

鳥取市 上山 一平

唸る機器腰痛撮りに悶々と

橋本市 石田 隆彦

終章はどんなかたちかアミダくじ

河内長野市 山岡富美子

すすいと行かない老いの阿弥陀籤

河内長野市 山岡富美子

堺市 奥 時雄

カネ太鼓鳴らぬとしけるタイガース

豊中市 上出 修

浪速っ子さすがおもしろいヤジ飛ばす

大阪府 平井美智子

エコロジーですとシャネルのエコバッグ

三原市 鴨田 昭紀

反比例する欲求と自制心

米子市 吉田 陽子

エチケツトぐらいで止めておく化粧

堺市 矢倉 五月

看護士に男女差つける服の色

京都市 清水 英旺

コロンブスを鞭うつアンチ差別主義

奈良県 渡辺 富子

横にいる夫の顔がばやけだす

寝屋川市 岡本 勲

体力は落ちたがついた忘却力

三田市 上田ひとみ

悪口の聞き役いつも夫です

三田市 丹羽 美恵

夫が居ない今日はぐうたら妻になる

河内長野市 辻村 ヒロ

老人会弾む昭和の歌謡曲

大阪府 高杉 千歩

終章を飾る言葉に欲が邪魔

鳥取市 前田 楓花

散骨が叶えば風の日本海

鳥取市 前田 楓花

豊中市 松尾美智代
ステイホーム鏡を見ない日が続く

東大阪市 北村 賢子

高槻市 片山かずお
紅くらい塗れと見かねている夫

米子市 野川 宣子
豪気だな六百億のマスク代

神戸市 能勢 利子
娘からの絹のマスクはお出掛け用

岩国市 上村 夢香
手作りのマスクに合わせ服選ぶ

塩竈市 木田比呂朗
久々の句会マスクを競い合う

松山市 郷田 みや
カラオケにマスクをさせるウィルス禍

札幌市 三浦 強一
あの人に会う日は花柄のマスク

京都市 都倉 求芽
使い捨て出来ぬマスクの戦中派

河内長野市 藤塚 克三
何処にも出かけぬ褒美十万円

岡山市 大石 洋子
給付金の口座僕でも妻所有

河内長野市 黒岩 靖博
給付十万家族の亀裂深くなる

島取市 山野すみれ
コロナ禍に趣味のカラオケ召し捕られ

日常の流れを止める難しさ

三田市 福田 好文
引き籠もりへそくりたんと出来ました

岡山市 高岡 茂子

明石市 桃谷 和郎
久し振り鍋ひからせるステイホーム

池田市 太田 省三
仕事とはなんだったのかテレワーク

箕面市 出口セツ子
背景は広いお庭のテレワーク

奈良市 米田 恭昌
オンラインも手話も今からできぬ歳

倉吉市 岡崎美知江
換気は充分我が家の隙間風

河内長野市 梶原 弘光
三密で逢えぬ息子の声を持つ

八幡市 今井万紗子
ケーザイかいノチかそれはどっちもや

宝塚市 太田としお
巣籠もりで終に脈拍乱れ気味

大阪市 内田志津子
空しさがこみあげてくる無観客

米子市 成田 雨奇
神様の試練が続く雨コロナ

神戸市 富永 恭子
病名はコロナ対策過敏症

堺市 内藤 憲彦
半年もジムを休んで絶好調

改札をダッシュするにもディスタンス

鳥取県 門村 幸子
コロナ禍に難民キャンプ雨期が来る

寝屋川市 川本 信子

鳥取市 副井ゆたか
共存でしょウィルスちよつと通り過ぎる

大阪市 栃尾 奏子
胃袋と手の消毒はアルコール

東京都 川本真理子
大丈夫ですとアマビエ様が来る

富田林市 山野 寿之
PCR 気になる綿棒の角度

西宮市 高橋千賀子
スーパでも梅雨の晴れ間は甲羅干す

箕面市 広島 巴子
コロナ太りシニアも着ますマタニティー

奈良県 長谷川崇明
三密も軒は許したツバメの巣

茨木市 細田マキコ
祇園さん疫病払い自粛中

丹波篠山市 長谷川善輔
病院玄関熱だけ計りに行つてみる

枚方市 谷 英也
巣ごもりの解けて飛び出し立ち眩み

鳥取市 岸本 孝子
六甲おろし聞けばコロナも退散だ

宝塚市 丸山 孔一
人の世に文明の火と災禍の火

神戸市 山根 弘華

一人身をなだめてくれる五七五
三田市 多田 雅尚

七夕に上達祈る五七五
神戸市 上田 和宏

川柳の作句が冴える風呂トイレ
倉吉市 山中 康子

人生の宝作句に花が咲く
大阪市 平賀 国和

五七五下手な考え時は飛ぶ
岡山市 丹下 凱夫

柳友と一緒にしたい生前葬
三田市 堀 正和

呑まないと生まれて来ないユーモア句
尼崎市 永田 紀恵

グラスよりお猪口の似合う君が好き
三田市 尾崎 一子

盃を持つ手にほれて以来なり
大阪市 田中ゆみ子

健康がどうかお酒を呑んでみる
和歌山市 古久保和子

泣き虫はビールの泡で追い払う
三田市 北野 哲男

一合で草書になれる楷書です
松山市 栗田 忠士

バスツアー今日のメインはワイナリー
沖繩県 禰 モモト

旅番組の肴旨そう呑みすぎる
朝霞市 前田 洋子

一万歩ビール二杯でチャラになる
富士見市 中島 通則

異議なしとみな二次会を急いでる
尼崎市 山田 耕治

赤提灯上司の愚痴でもう一杯
大阪市 岡田 恵子

良心を先に眠らせまた二合
河内長野市 村上 直樹

今宵また泣くためだけに飲むお酒
富田林市 中村 恵

メリットは計りしれない酒である
松原市 森松まつお

ノンアルで上手に酔って輪に溶ける
香芝市 大内 朝子

ノンアルを飲んで検問ややびびる
豊中市 齋藤奈津子

世間体もう気にしないナベとカマ
大阪市 藤田 武人

神様が休めと言っているカルテ
鳥取市 倉益 一瑤

とんがった現役終えて楕円形
八幡市 武田 悦寛

一步引く時機を逸した老いてきた
神戸市 山口 光久

沈んでもすぐ浮き上がる肝つ玉
岡山県 田中 恵

真夏日を背負って今日も出社する
宇都宮市 廣瀬 良磨

運転手に一目惚れしてデイクエア
大阪市 横山 里子

性格が丸見えとなる草むしり
福井市 伊藤 良一

膝痛の薬止めたたらシャンとした
鳥取市 田中 天翔

睨めっこしても逃げない雨蛙
三田市 村田 博

手洗いの水に困らぬありがたさ
米子市 池田 美穂

再放送画面の人はもう故人
高槻市 松岡 篤

挫折した時は寅さん思い出す
宝塚市 岸田 万彩

涙には癒しの素も入ってる
河内長野市 森田 旅人

必殺の主水になって蚊を叩く
安来市 原 徳利

菌ひとつ抜くとドミノ化悩ましい
豊橋市 小松くみ子

愚かさを貫いてきて私です
米子市 妹能令位子

鏡の中の私やつぱりいい女
河内長野市 大島ともこ

終活はととのいました気が弛む
鳥取市 夏目 一粋

共選欄

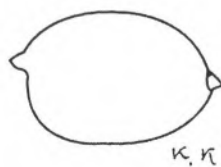
檸檬

檬

抄

(薰風書、カットとも)

(投句358名)



K, K

「起 伏」 石橋 芳山 選

さわやかな起伏に朝のレモンテイ
海風で二人になれる時を待つ
逆鱗にふれて出てくる裏の顔
泣き上戸笑い上戸を見てる酒
アップダウン覚悟で登る大砂丘
仏間には起伏を越えた笑みの顔
贅肉が起伏を埋めて寸胴に
感情の起伏へ鬼が顔を出す
稜線の起伏をうっとりとなぞる
脱皮して乙女ごろろが起伏する
感情の起伏を秘める能の面
思春期の起伏乏しい受け答え
でこばこの真ん中辺でつつましく
かみ合わせ話に笑いまた喧嘩

高砂市	松尾柳右子
西宮市	高橋千賀子
大阪市	内田志津子
河内長野市	中島 一彌
鳥取市	前田 楓花
岩国市	上村 夢香
米子市	後藤美恵子
和歌山市	古久保和子
藤井寺市	太田扶美代
寝屋川市	伊達 郁夫
大山市	関本かつ子
尼崎市	近兼 敦子
河内長野市	梶原 弘光
奈良県	長谷川崇明

「起 伏」 古今堂 蕉子 選

山と海地球に長い物語
昔から夜に頭が冴えてくる
蜜月も修羅場も超えて今がある
人生双六 棺は安いのでもいいよ
善人に起伏追い打ちするコロナ
山河を越えて寛ぐ施設の灯
能面の下に起伏の顔隠す
絶叫はお預けジェットコースター
没句つて起伏の果ての捨てどころ
山谷を均してくれる友がいる
朝ドラの起伏ハッピーエンドまで
ちようど良い起伏流れに乗ってみる
心電図の乱れはきつと恋だろう
高低の音が掴めぬ僕音痴

土佐清水市	辻内 次根
神戸市	櫻井 崇史
西宮市	高橋千賀子
弘前市	高瀬 霜石
大阪市	津村志華子
大阪市	高杉 千歩
東かがわ市	川崎ひかり
富士見市	中島 通則
鳥取市	夏目 一粹
海南市	小谷 小雪
三田市	北野 哲男
丹波篠山市	酒井 健二
今治市	永井 松柏
橋本市	石田 隆彦

ボクだって恋の起伏はありました
 浮き沈みときどき浮いてよしとする
 大胆な起伏神は素敵なアーチスト
 じゃじゃ馬の人生だった許せ君
 激情化の今をのり切るデイスタンス
 朝ドラの起伏ハッピーエンドまで
 大丈夫すぐに笑ってくれるから
 起伏あった体も今は筒状に
 起伏に富む人生なれど「エンヤコラ」
 ブラウスの起伏に春がやって来る
 感情の起伏のままか米のボス
 生き方を噛まれてたまるか 起伏
 生き様の起伏を握るコロナ菌
 叶姉妹見ると瞬きすら出来ぬ
 御先祖は起伏にポツン一軒家
 テッペンのは転がる外はなし
 乱高下どこに落ち着くのか見もの
 カーナビが知らない起伏歩いてる
 占いに頼りたくなる壺の日
 もっとも起伏があったマイボデイ
 感情の起伏に家族群れている
 心電図乱れはきつと恋だろう
 田園の起伏カリヨンどこまでも

阿南市	小畑 定弘
寝屋川市	岡本 勲
出雲市	伊藤 玲峰
横浜市	加藤 佳子
松山市	柳田かおる
三田市	北野 哲男
三田市	上田ひとみ
和歌山市	坂部紀久子
鳥取県	門村 幸子
大阪市	高杉 力
大阪市	岩崎 玲子
三原市	笹重 耕三
西宮市	福島 弘子
三田市	村田 博
河内長野市	藤塚 克三
西宮市	亀岡 哲子
倉吉市	牧野 芳光
和歌山市	まづともこ
神戸市	富永 恭子
神戸市	敏森 廣光
倉吉市	岡崎美知江
今治市	永井 松柏
大阪市	柴本ばつは

成りゆきの起伏にあった運不運
 自叙伝の少し嵩上げした起伏
 晴れた日の母は明るくよく笑う
 御先祖は起伏にポツン一軒家
 振幅が合って和音になりました
 ヴィーナスの起伏眩しい美術室
 断食をしても銃は放さない
 安寧を起伏激しくするコロナ
 どん底で拾った薬で立ち上がる
 パイオリズム不一致思いやるふたり
 凸凹の道で拾った肝っ玉
 大津波一氣に起伏平らげる
 生きてますと主張している心電図
 行間の起伏せつせつと胸を打つ
 逆鱗にふれて出てくる裏の顔
 田植歌響いた棚田草茂る
 ブラウスの起伏に春がやって来る
 子は武将牙を剥いたり笑ったり
 起伏に富んだ越し方語る寂聴尼
 緑めらめら大和三山夏模様
 上から目線僕の起伏に気付かない
 二度三度人間止めてみたかった
 巣籠りに情緒の起伏気にもなり

名古屋	富田 末男
大阪市	平井美智子
堺市	齋藤さくら
河内長野市	藤塚 克三
五所川原市	むらのひとり
川西市	大坪 一徳
奈良市	長谷川崇明
塩竈市	木田比呂朗
松山市	栗田 忠士
河内長野市	梶原 弘光
岡山市	田中 恵
鳥取市	中村 金祥
松江市	中筋 弘充
枚方市	藤村 亜成
大阪市	内田志津子
和歌山市	土屋起世子
大阪市	高杉 力
東大阪市	西村 哲夫
島根県	伊藤 寿美
河内長野市	村上 直樹
芦屋市	竹山千賀子
三田市	福田 好文
鳥取市	副井ゆたか

浮き沈み浮き沈みして沈みそう

あれそれで済ますたわいも無い話

あらずじは起伏の多い君の嘘

腰痛胃痛どうにか今日も乗り越える

隣国から響く殺伐たる起伏

年重ねよく怒ります笑います

表情を豊かにしてる腹の虫

我家の起伏知っているのはこの柱

絶頂を過ぎて気が付くパチンコ屋

心地良いワルツに起伏あるリズム

振幅が合って和音になりました

LPで聴くジャズ雨に溶けていく

良い時はすぐ優しい人なのに

胸から腹へ起伏なくなりあっぱっぱ

アンジュレーションまでは読めない老眼鏡

山と海地球に長い物語

私のスリーサイズは起伏ない

起伏ないから背中だと思ってた

人生の起伏挑まずカニ歩き

二上山でかい乳房が二つある

もう少し起伏が欲しい胸である

どんな起伏もなれば地球一個分

鳥取県 竹信 照彦

三田市 多田 雅尚

枚方市 山口弘委智

弘前市 高瀬 霜石

生駒市 飛永ふりこ

奈良市 加藤江里子

富山市 伴 よしお

香芝市 山下 純子

米子市 竹村紀の治

豊中市 藤井 則彦

五所川原市 むらのひとり

岡山県 藤澤 照代

大阪市 坂 裕之

岡山市 大石 洋子

堺市 澤井 敏治

土佐清水市 辻内 次根

黒石市 石澤はる子

大阪市 井丸 昌紀

大阪市 藤田 武人

大阪市 川端 一步

松原市 森松まつお

東京都 川本真理子

一喜一憂するのは毎度トラファン

愛憎の起伏は生きているかぎり

じゃじゃ馬の人生だった許せ君

山並みがぐるりと囲む京の街

山折りと谷折りあつて千羽鶴

名優は栄枯盛衰演じきる

指先で起伏読んでる点字本

ミーちゃんとヨガのポーズをとる自粛

爆笑と苦笑のはばで楽に生き

涅槃像胸の起伏を気にしだし

感情の揺れはただ今震度七

激論を血圧計になだめられ

感情の起伏へ深い一呼吸

オブラート包む余裕もない起伏

坂道を上る怒りのエネルギー

手に余る妻の起伏のボルテージ

凸凹がなんだとゴール目指す亀

心地良いワルツに起伏あるリズム

東の間を泣いた怒ったもうわろた

人生に光と影が絡みつく

感情の起伏を見せず指す将棋

遍路道起伏は修行数珠と鈴

尼崎市 清水久美子

和歌山県 森下よりこ

横浜市 加藤 佳子

堺市 坂上 淳司

愛媛県 玉井 勝順

弘前市 高森 一吞

伊丹市 延寿庵野鶴

西宮市 亀岡 哲子

羽曳野市 吉村久仁雄

熊本市 杉野 羅天

鳥取市 谷口回春子

奈良県 中原比呂志

香芝市 大内 朝子

尼崎市 近兼 敦子

大阪市 田中ゆみ子

和歌山市 定松 宏枝

大阪市 藤田 武人

豊中市 藤井 則彦

富田林市 中村 恵

大阪市 阪本 秀子

横浜市 菊地 政勝

加西市 山端なつみ

感情の揺れはただ今震度七

また伸びてきた感染の棒グラフ

バブルからリーマン有ってコロナ来て

薔薇一輪言いたい事を言う人だ

バカヤローと叫んで転んでは起きる

好き嫌いグレーゾーンはつくらない

競泳の女子は起伏が邪魔になる

妻の顔今日の機嫌はいかほどに

巡る四季勝者敗者を分けながら

片乳を取れば均整とれぬはず

アベさんもちよつと長居が過ぎまっせ

いち日の起伏を均すイチゴパフェ

夕陽からジュンと湯気立つ日本海

感情はここにスクランブルエッグ

プラスマイナス中間に立つヤジロベエ

起伏ない身体で和服向きである

良い事は運勢悪い事は運命

はげしい起伏やさしすぎるねあなたつて

秀句

私の方程式で起伏する

プラトンと同じ乳首を持て余す

がむしやらにドラマチックな未亡人

鳥取市

奈良市

高槻市

岡山市

岡山市

黒石市

川西市

倉吉市

高槻市

大阪府

三田市

安来市

鳥取県

佐賀県

和歌山市

豊中市

松山市

大内せつ子

大内せつ子

岡山市

仙台市

沖繩県

谷口回春子

大久保真澄

松岡 篤

工藤千代子

丹下 凱夫

北山まみどり

大坪 一徳

伊藤 嘉昭

原 洋志

金川 宣子

堀 正和

原 徳利

斉尾くにこ

真島久美子

松原 寿子

きとうこみつ

笠嶋 恵美

大内せつ子

大内せつ子

永見 心咲

月波 与生

宮 すみれ

船頭の權が知ってる川下り

来し方の起伏にあつたいい出会い

凸凹をものともしないモトクロス

良い事は運勢悪い事は運命

ウィルス禍令和早々ある起伏

巨人軍起伏重ねて六千勝

穏やかな千年杉に瘤の痕

自分史のうねつた箇所にある無念

薔薇一輪言いたい事を言う人だ

葛藤の起伏に堪えた日が活きる

百年の歴史を閉じるレナウンも

いち日の起伏を均すイチゴパフェ

でこぼこを繕いながら来た歩み

隣国から響く殺伐たる起伏

良い時はすぐく優しい人なのに

ただいまと山の起伏に言う帰省

法螺貝の音色嶺越え谷をこえ

モーグルでメダル取つたとまた自慢

秀句

感情の起伏へ鬼が顔を出す

滔滔と流れたわけでない夫婦

土地土地の起伏楽しむプラタモリ

三田市

寝屋川市

大阪府

大阪市

広島市

京都市

松山市

富山市

岡山市

和歌山市

三田市

安来市

大阪市

生駒市

大阪市

南あわじ市

唐津市

大阪市

岩崎 公誠

和歌山市

西宮市

大阪市

九村 義徳

森 茜

米澤 俣子

笠嶋 恵美

松尾 信彦

清水 英旺

柳田かおる

伴 よしお

工藤千代子

堀 富美子

堀 正和

原 徳利

川端 一步

飛永ふりこ

坂 裕之

萩原 狸月

山口 高明

岩崎 公誠

古久保和子

緒方美津子

江島谷勝弘

「まろやか」

(投句 246名)

山 口 光 久 選



まろやかに私を包む月の暈
まろやかに溶けてオンナの第二章
嘘少し混ぜてまーるい風にする
まろやかな口調で刺を抜きに来る
まろやかな仕草育ちの良さが見え
功成って威張らずいつも丸い人
なめらかな言い訳きつと嘘だろう
まろやかな頬つべにキッス七五三
まろやかな口調で家族包む母
喉元をつるんと通過する言葉
まろやかな味はあちゃんの匙加減
まろやかだった女で母であつた頃
まろやかな愛はあなたの海でした
まろやかな言葉の裏にある打算
まろやかに生きるコロコロ団子虫
まろやかなお言葉とすなあ京都人
まろやかな味に仕上げる愛ひとつ
まろやかになるまで晒す思い遣り
ひらがなで書くと言葉も丸くなる
まろやかになつてほしいなコロナさま

松山市 栗田 忠士
横浜市 川島 良子
芦屋市 竹山千賀子
弘前市 福士 慕情
堺市 村上 玄也
豊中市 水野 黒兎
奈良県 渡辺 富子
奈良県 中原比呂志
川西市 大坪 一徳
奈良市 大久保真澄
八幡市 鈴木いさお
笠岡市 今井万紗子
貝塚市 藤井 智史
鳥取市 石田ひろ子
豊中市 夏目 一粹
弘前市 きとつこみつ
奈良市 稲見 則彦
大阪府 岸田 昌代
岸田 宏章
江島谷勝弘

激流にもまれた石のまろやかさ
虚と実の話を和尚まろやかに
エスプレッソの香が私を朝にする
つらい時あなたの声は癒し水
まろやかな酒だ臓器が歓喜する
まろやかな香り漂う母の詩
長年の苦勞を重ねる石
口振りはまろやか自説曲げぬけど
やわらかく話す最低限の嘘
手術成功 眠る患者へ医者笑み
半世紀熟成された恋の味
人肌の酒はゆっくり沁み透る
佳 句
三番茶ですがやさしい味がする
なるようになると思えば穏やかに
いい感じあなたが側に居てくれる
まろやかな笑顔しあわせ倍にする
白すこし混ぜまろやかになりました
人 格
人格がまろやかになる電話口
地 帯
まろやかな味に仕上げてゆく月日
天 道
辛酸をなめて円やか人間味
軸 道
まろやかな笑顔で今日も共白髪

米子市 伊塚美枝子
鳥取市 大前 安子
大東市 小川賀世子
神戸市 富永 恭子
香南市 桑名 孝雄
三田市 九村 義徳
横浜市 菊地 政勝
大阪府 原田すみ子
佐賀県 真島久美子
羽曳野市 吉村久仁雄
海南市 小谷 小雪
橿原市 居谷真理子
大阪市 平井美智子
八王子市 川名 洋子
三田市 上田ひとみ
西予市 黒田 茂代
大阪市 若本 安代
弘前市 高瀬 霜石
藤井寺市 太田扶美代
和歌山市 土屋起世子

「サイン」

原 田 すみ子 選

(投句 235名)



阿吽の息仁王のサインぐつときた
書いてはないが独り暮らしの匂いする
ゴーサインプラス思考の風を切る
一球をまっすぐ投げるサイン待ち
母からのサインまだかと星を見る
少女期の私を載せたサイン帳
ハンコ文化サインに居場所とられるか
Vサインばかりに飽きているカメラ
ナマズよりスパコン富岳地震予知
老いのサイン五体五感の軋む音
晩酌のサイン夕日が美しい
プロポーズほほえみ合ったのが答え
幸せのサイン笑顔が零れてる
宅配をサインで受けた里の芋
怒ってる音たて茶碗洗ってる
幾千万の署名も無念横田さん
うらはらのシグサは愛の逆サイン
頑張った今日の私にVサイン
負けて泣く子がカメラにはVサイン
直球のサインを嫌ういぶし銀

大坂市	柴本ばつは	大坂市	伊藤のぶよし
男鹿市	山口ヨシエ	越谷市	久保田千代
三木市	小野 雅美	大坂市	藤原 大子
羽曳野市	古今堂蕉子	三田市	村田 博
三田市	平賀 国和	尾崎 一子	丹下 凱夫
三田市	渡辺 富子	大内 朝子	萩原 狸月
香芝市	穂口 正子	中島 通則	山野 寿之
富土見市	平井美智子	吉村久仁雄	富永 恭子
河内長野市	神戸市		

衰えの合図のように蹴躓き
OKのサインばかりで守る地位
もう出ると男風呂から咳払い
半音高い返事で嘘がばれる
沈黙が五分は妻の噴火前
ああうんのサイン築いた終の家
連名のサインはどこか楽しげな
ばあちゃんもカメラ向けるとVサイン
黙禱にお喋り一斉に止んだ
僕の机だんだん窓に近くなる
夏ばてのサインのこして老けていく
いい知らせですよと着信音が鳴る

佳 句

遠い日ヘタイムスリップサイン帳	箕面市	出口セツ子
指きりで済むことサインで済まぬこと	土佐清水市	辻内 次根
待ちぼうけそろそろ恋も黄信号	大東市	小川賀世子
老母のことを何やら夢の中の亡父	東京都	川本真理子
瞬間のサイン密度の濃さが出る	生駒市	飛永ふりこ
人		
白い紙サイン一つで重くなる	倉吉市	岡崎美知江
地		
今こでしっかり君を受けとめる	三田市	上田ひとみ
天		
ローソクが揺れてるきつとあのひとだ	弘前市	高瀬 霜石
軸		
青信号続き過ぎたらだすサイン		

初歩教室

題 — 洗 う

居 谷 真理子

「コロナのことしか浮かばない」との声がしきり。それならば意地を見せて独自の切り口で…と、それがなかなか難しい。

(原は原句 参は参考句)

原あの言葉大夕立が洗ったよ 千代

大夕立、俳句で見かける言葉ですね。この言葉に似合うのは「洗う」より「流す」。洗い流すの意味も含まれます。

参あの言葉大夕立が流したよ

原墓洗う妻は還ってこないけど 秀 爷

このままでもいいのですが、妻の生前は何もしなかった夫というニュアンスを添えて

参墓洗う妻は笑っているだろうか

原せつけんは固形じゃないと気が済まぬ 勝 正

参せつけんは固形に限る父の風呂

原新緑に目も鼻こころ洗われる 一 弥

参新緑に僕を丸ごと洗われる

原嫁くれた無洗米でも洗いたい (櫻) 良 子

参嫁がくれた無洗米だが洗いたい

原心の洗濯ステイホームで出来たかも 眞智子

参ステイホーム心洗って乾かして

原解除後は心洗たく酒すすむ 弘

参解除後は心を洗うために飲む

原雨雲や洗え心ももろともに 風 羅

雨雲では弱いです。

参雨よ降れ洗え心ももろともに

原洗い浚いを吐いてコップの水旨い (菊) 廣 子

「旨い」とまで言わない方がいいかも

原洗い浚い話したあとの水の味 風 鈴

参泥んこ人生今すすいでる夢の中

「夢の中」が分かりにくいです。

参泥んこの私をすすぐための夢

参人生の泥をすすいでいます今 (圓) 恵 子

原洗ってもまだ残ってる恋心

恋の句です、ドラマチックに。

参洗っても洗ってもなお恋心 道 子

原本当の手洗い知ったウイルス菌

ウイルスと菌は別のものなので

参本当の手洗い知った新型コロナ 也

原フェイクでは洗い壁としが難しい

正しくは「洗い落とし」ですね。

参洗ってもフェイクがこびりついている

原夕立は暑さ洗い流して爽快に ゆ き

十七音に整えましょう

参夕立が洗い流していく猛暑

原たつぷりと手洗いうがいタダですよ 行 久

タダではないと思いますが…

参たつぷりと手洗いうがいできる国

原墓洗いい心洗われ晴れ晴れと 奈津子

参墓洗う心も洗う空の下

参墓洗う心も洗われていった

原手の平へ季節知らせる皿洗い 崇 史

参両の手へ季節知らせる皿洗い

参手の平に夏ほとばしる皿洗い 睦 子

原堀汚れ洗う位の雨を待つ

面白い着想です。

参待つてます堀の汚れを洗う雨

原手を洗うまた手を洗う手が荒れた マキコ

前半はいけれどオチが当たり前になりました。

参今はこんな状態でしょいか。

参手を洗うまた手を洗う手を洗う

原洗い物今も人力これから 義 明

参皿洗い機械にさせてなるものか

原心洗われる若葉色花五月晴れ 厚 子

参花若葉五月に心洗われる

原米手洗い炊飯自動の食文化 光雄

参手で洗う米を自動で炊く文化

原髪洗い抜け落ちた髪いとおしく マユミ

「髪」が二度出てきてくどくなりました。

参シャンプーにいとしい髪が抜け落ちる

原水貫い庭の植物生き返る 照枝

情景はよく分かります。

参洗われて庭の草木が生き返る

原生き方を洗いはじめてコロナ 令位子

あれ、2音字足りません。

参生き方を洗いなおせと新コロナ

原ゴシゴシと洗った結果今の顔 くみ子

勢いがあっていいですね。

参ゴシゴシと洗い続けて今の顔

参ゴシゴシと洗った顔をお見せる

原洗いざらい吐けと女房の眼が迫る 蟻日路

怖い……。

参洗いざらい吐けと女房の眼が笑う

参妻の眼が洗いざらいを吐けと言う

原洗髪でさわやかわたし厚化粧 ミヨノ

参さわやかに髪を洗って厚化粧

原夏日ですつ洗濯しすぎ疲れ気味 開子

参夏日ですつ洗濯をしてしまふ

参洗濯機も私も過労です夏日

原雑巾を洗い今日の掃除終える

リズムを整えましょう。

参雑巾を洗い清めて掃除終え

原古民家の歴史を刻む垢落とし (あ)さくら

参古民家の歴史息づく垢落とし

原月冴える心洗うて朝を待つ 貴美江

美しい句です。

参月光に心洗って明日を待つ

原洗濯機ティッシュ暴れて大騒動 貴美江

参洗濯機の中はティッシュの猛吹雪

原アベノマスク洗濯しても使いたい ひでお

皮肉もちよつぱり入れましょか。

参ちぢんでもアベノマスクをまた使う

原此の際に洗い流して知らん顔 (澤)良子

参此の際に洗い流して知らん顔

原老い独り残りし者が墓洗う 由紀子

参残された独りが墓を洗う役

原洗われた靴がこちらを見えています 厚江

「面白いところに目を付けられました」

参洗われた靴が散歩に行こと言う

原犯人の洗い出しには先ずカメラ (加)佳子

参目撃者よりもカメラで洗い出す

原洗つてもとれたか不安コロナ菌 (川)信子

「コロナ菌」、よく使われていますが前述のように新型コロナウイルスは菌ではありません。

参洗つても不安が残る手を見つめ

原感情も出来たらいいな水洗い 弥生

参水洗いしたい心のあれやこれ

原ちよつとでも着たら洗つてきれいい好き 紀美代

参ちよつと着てすぐにほりこむ洗濯機

「佳句」

お昼寝をブザーが起こす洗濯機 通則

確執を洗い流して父見舞う 正美

花粉症全部外して洗えたら のぞみ

曾祖母の洗濯板は文化財 一平

無洗米ひと手間なしが味気ない 不二夫

「今月の推せん句」

忘れよと砂浜の字を洗つ波 山中 閑

今日もまた朝風呂でできるテレワーク

洗い浚いぶちまけてみたハグされた 生田えい子

貝塚 正子

.....

8月号78頁下段「コロナ菌パチンコ店へ

人の波 アキコ」はマキコです。

お詫びして訂正します。

川柳塔鑑賞

同人吟 久保田 千代

—8月号から

覇氣のない毎日ゴロンゴロンゴロン

古今堂蕉子

帽子にマスクサングラス一般人です

谷口 義

アルコールで臓器消毒する夫

大久保眞澄

コロナ収束祈る花火が空に咲く

中村 伸子

コロナ対策仰山買うて無駄にして

笠嶋 恵美

コロナ籠り行き処ない虎ファン

上田 和宏

コロナ禍のお陰で逢えるチャップリン

竹村紀の治

板についた自肅の紐を緩めまい

初代 正彦

今のご時世だから仕方ありませんが、
コロナウィルス関係の句が多かったです
ね。その中、佳句だと思う句を選ばせて
頂きました。どの句も興味深い句。

一瞬のとろりに亡妻が笑ってる

山田 耕治

向き合って食べてるだけの仲ですね

安土 理恵

春めいた温い日差しにとろりとした一

瞬、亡妻の笑みを想われた耕治さん。ま

た現在、ご健勝のお二人は向き合って食

べるだけと、ご謙遜の理恵さん。どちら

の句も、お幸せな夫婦の形、姿だと思

います。

未熟さを初々しいとほめられる

水野 黒兎

ウフフと微笑まじさを感じます。未

熟とご謙遜なさり、探求心を極められる

作者を尊敬しています。

踏み締めた大地信じていいだろう

岩佐ダン吉

そうです。ご自分の足で歩いて来られ

た大地です。色々ありましたでしょう

が、信じていいんです。

放物線のピークは過ぎてから分かり

高杉 力

山あり谷ありの人生、その当座には最

高の幸せも、最悪の苦勞も案外、分かっ

てないもの。振り返り思い出として、し

みじみ分るもの。だから生きて行ける

でしょう。

当たり前の事など何もない平和

柏原 夕胡

平凡なことが、当たり前だったのは古

き良き時代だった頃のこと。昭和、平成、

令和と生き永らえるに従って平和と感じ

ることは段々難しい。

口で絵を天才でない血の努力

川端 一步

本当にそうだと思います。口に筆を銜

えて素敵な字を書かれる書道家を知って

います。下五に力強さを感じます。

カルメンの紅で薔薇の美極まれり

杉野 羅天

オペラ「カルメン」の口許にある一輪

の薔薇。きりりとして、とつても魅力的

で印象的です。その薔薇の美が、カルメ

ンの紅で一層美しいと言うのです。細や

かな見付けに納得しました。

後期です不要不急の用ばかり

堀 正和

本当ですね。後期としての筆者も図星で笑っちゃいました。

ねぶた囃子聞こえぬ夏のもどかしさ

稲見 則彦

青森の方々の今年の夏のもどかしさ、何年か以前に弘前にお邪魔して、ねぶたの山車の出来上がるまでの工程を見学した筆者にも良い思い出があるので、気の抜けたような思い、お察しします。

でもどうぞ元氣を出してください。

人の波絶えて新鮮戎橋

村上 直樹

関西を離れてしまった筆者、幼い頃から賑やかな戎橋が自慢だったのに、今は人が、途絶えて新鮮だと作者はおっしゃる。これも世の流れでしょうか？

諦めていないあたりへ貼る湿布

平井美智子

こういう句を鑑賞させて頂くと、上手いなあと思います。力まず何気ない雰囲気です。引き込まれてしまっています。川柳らしいユーモアあり、素晴らしい佳句だと思いました。

躊躇している間に茶柱が沈む

鴨田 昭紀

世の中何事もタイミング。想定外のコロナ禍で苦しむ世界、茶柱が沈まぬ内の終息を願います。

願いが叶うエレベーターに乗る如く

藤村 亜成

どんな願いが叶ったのでしょうか？それもエレベーターに乗る如く軽やかに叶って良かったですね。お幸せです。

花は咲き鳥鳴き人は閉じこもる

藤原 大子

コロナの変のことですね。花も鳥も変化のない日常なのに、何故、人間だけが考えさせられます。

感動のころがいっまでも若い

遠山 唯教

そうですね。物事に素直に感動できると、自身でも若いと感じます。

いつまでも若さは保ちたいものです。

右往左往乱れる心生きている

福田 正彦

忙しくて右往左往、あれこれ迷い心乱れ、でも命あるから生きている。有り難いことなんです。

控え目がいい館こもオバチャンも

藤井 宏造

大阪のオバチャンだけでなく全国どこのおバチャンも控え目がよろしい。そして濃厚な甘さも歳とると駄目です。

開け放つみどりの風が抜けていく

辻内 次根

明るい気持ちの良い句。コロナ禍も早く収束の日を迎え、こんな日常が来ると良いのですが……

独りだけのシーソー いっまでも浮けぬ

永見 心咲

そうです。たった一人で乗ったシーソーは、楽しくありません。人間社会の生き方を的確に詠まれました。

観客のいない舞台のわが人生

小河 柳女

コロナ禍の今でこそ無観客の野球や相撲がありますが、詠まれているように人は一人ひとりが、人生という舞台を堂々と、この仮の世を演じ渡っているのかと思います。

大器晩成柩はゆとりあるものに

小沢 淳

しっかり生きてゆとりの柩を楽しみに。

水煙抄鑑賞

— 8月号から

片山 かずお

いつからか生きてることが趣味特技

饗庭 風鈴

自己紹介のとき「趣味は生きていること。特技は長生きです」と、堂々と言えたら素晴らしい。

胸の奥ぐらりと揺らす笑みに逢う

上山 堅坊

心をグイと驚づかみにされて揺さぶられるほどの笑顔とは、どなたのどんな素敵な笑顔なのだろうか…。

中国のマスクが偉そうに並ぶ

笹重 耕三

「新型コロナウイルス感染症防止のためマスクを…」となつて、いざ蓋を開けてみたら八割以上が中国産だと聞き、びっくり。コストを下げるために、人件費などが安い外国で作るのは仕方がないことなのだろうが、本当にこれでもいいのだろうか。

清みません頭につけて頼み事

巖田かず枝

最近、混雑したバスや電車の中で「すみません。ちょっと通してください」と口で言う代わりに、無言で体を押しのけられることが多くなった気がする。私だけ「すみません」が聞えてないのかな。

聴力も視力も落ちて風いでくる

吉道あかね

「もうあまり聞くな、見るな」と聴力視力が落ちてくるのは、神の思し召しだろう。おかげで、余計なものが聞えたり見えたりしないので、心穏やかに暮らせる。「ありがたい」と感謝しよう。

比べると不足ばかりが見えてくる

廣田 和織

昔祖母が「人にはみな分限がある。何でも他人と比べて、ああだこうだと暮らしている」と、気持ち荒んで侘しいぞ」と言っていたことを思い出した。

節くれた指喜怒哀楽をしっている

田中 重忠

節くれ立って、お世辞にもキレイとは言えない指だろう。でも何十年も働き抜いた、太くて男らしい指に違いない。

二番手にいて隠せない獣臭

真島久美子

二番手とは、獲物を狙っている獣に似て、常に、折あればとトップの座を窺っているもの。その生息は、どんなに繕っても隠しようがない。

さよならか またねか今日の終わり方

月波 与生

「さよなら」は、そこから先に何も無い気がする。「またね」は、その先に何かいいことがありそうな気がする。なろうことなら、毎日「またね」と笑顔で終わりたい。朝食が美味しくてまた肥りそう

三枝眞智子

快食、快便、快眠は健康の素。食事が美味しいとは、嬉しいこと。肥ることなど心配しないで、しっかり食べて元気に過ごそう。

怠慢に罪悪感のない老後

岸田 万彩

「老後の人生は、それまでの頑張りに対するご褒美だ」と聞いたことがある。ならば、少々怠慢なら罪悪感を持たなくても、許してもらえるのでは…。

二〇二〇年（令和二年）

路郎忌誌上句会

投句者二九〇人

兼題「懐」

村上 直樹 選

路郎忌へ親という字を懐へ
手厳しい師の懐は温かい
10万円スルツと妻の懐へ
懐にネコの寝息の家ごもり
皮肉にも懐さえも密避ける
懐のお金この際全部寄付
コロナ自粛しきりに友が懐かしい
ステイホーム言っても論吉家出する
巣籠りも懐だけは明と暗
自粛あけ懐かしみ合う顔と顔
コロナをよそに山懐の灯の安堵
懐手懲りぬ総理の徳俵
「人種差別」懐潜む米の闇
懐に差別ない世の夢秘める
めぐみちゃんへの思いを抱いて逝った父
懐刀みたいにスマホ離さない

鳥取 大前 安子
大阪 松尾美智代
大阪 内藤 憲彦
大阪 中山 春代
大阪 中井 萌
大阪 古今堂蕉子
兵庫 藤岡 りこ
兵庫 山端なつみ
大阪 初代 正彦
鳥取 吉田 陽子
和歌山 村中 悦男
大阪 井丸 昌紀
大阪 大浦 福子
鳥取 加藤 慎一
大阪 坂上 淳司
大阪 美馬りゆうこ

懐が深呼吸する年金日
ふところに焼き芋抱いた昭和の灯
懐へ夜討ち朝駆け命懸け
虚心坦懐まだまだ捨てたものでない
懐メロを歌えば合唱になった
握り締めじつと我慢の懐手
信じてても何処かに芽吹く懷疑心
奥の手を温めている懐手
懐炉のようなあなた失い寒い部屋
懐の隅で生き抜く片思い
出る幕がないと悟った懐手
俺はウンだけど懐首横に
懐に入った鳥は守り抜く
懐柔にボトル一本では足らぬ
色眼鏡はずせば透ける胸の内
懐かしさ故に断捨離はかどらず
小出ししている懐の愚痴不満
懐に聞き分けのない酒の虫
懐は寒いが義理は果したい
懐石の老舗横目に京ぶらり
懐に切り札抱いている強気
本懐を遂げる決心四股を踏む
懐の深い男だ影がある
三軒目懐叩き見栄を張り
懐の毒矢ときどきぞめき出す

兵庫 緒方美津子
兵庫 相元 世津
大阪 中島 一彌
大阪 丹後屋 肇
兵庫 山田 耕治
奈良 中堀 優
大阪 森 廣子
大阪 西出 楓楽
大阪 木見谷孝代
鳥取 奥田 由美
兵庫 山崎 武彦
兵庫 太田としお
大阪 奥野健一郎
兵庫 村田 博
大阪 阪本 秀子
山口 平田 実男
鳥取 前田 楓花
鳥取 竹村紀の治
神奈川 菊地 政勝
奈良 柴田 園江
鳥取 倉益 一瑤
愛媛 黒田 茂代
神奈川 加藤 佳子
大阪 岩崎 公誠
兵庫 みぎわはな

袋菓子懐紙の上で畏まる

ふる里の山懐にある時

本懐はあなたわたしのキューピッド

眼の中も懐にでも入れたい子

懐中時計そつと触つて亡父を聴く

懐に弥陀を抱いてる母の笑み

懐柔は締めずゆるめず妻の知恵

不世出の懐刀だらう妻

懷疑心とれた言葉が丸くなる

懐に躊躇い傷の跡がある

視野広げ懐深い語彙の森

住

きこの雲懐にして平和論

脚色も少し混じえて懐古録

懐の藁一本がよりどころ

虚心坦懐やる気湧き立つ正念場

青春の懐揺りたつ野心

人

懐に貪瞋痴抱く人の業

地

懐に飛び込んで来いその気なら

天

母の懐大地の匂い陽の匂い

軸

懐の妻の写真と風の盆

兼題「ひんやり」

平井 美智子 選

素麺がつるりと喉に雨季あける

打ち水の風が素肌に心地良い

きれいなねと言ひ合う美魔女対美魔女

マリリンをヒロインにした地下の風

言い訳をよーく冷やしておきました

ウィルスの街ひんやりと擦れ違ふ

マスクして離れて座り押し黙り

目の前で鳥肌が立つ大くしゃみ

外出をせずとも家でけつまずく

冷蔵庫に定位置がある布マスク

ミルクボーイも観客席もデイスタンス

浜風もどこかひんやり無観客

肅の字を氣にして夜桜が縮む

梅雨寒に思ふ人類の未来図

ひんやりの政權維持に錆がでる

改憲をして堂々と核兵器

菓子箱の底にひんやり放射能

ひんやりと項に降りてきた侮蔑

頂点に立てば冷たい風に遭う

宇宙人もヘビの化身も夜行性

家計簿の冷媒ガスがきいている

大阪 山岡富美子

奈良 木嶋 盛隆

奈良 大久保眞澄

広島 常國 喜好

和歌山 木本 朱夏

大阪 内田志津子

大阪 樋口 眞

大阪 澤井 敏治

奈良 加門 萌子

大阪 中山 春代

大阪 内藤 憲彦

大阪 中井 萌

大阪 関 よしみ

東京 川本真理子

愛知 山本三樹夫

兵庫 岸田 万彩

大阪 水野 黒兎

鳥取 森山 盛桜

兵庫 谷口 修平

高知 辻内 次根

奈良 西澤 知子

兼題「不可」

水野 黒兎 選

大声は不可小声では聞こえない
 これ以上肥えたらズボン入らない
 迷子札つけてばあちゃんパチンコ屋
 返品不可鍋釜持って来たわたし
 不可あつて僕の人生よくなつた
 不可のない人生なんてつまらない
 カルガモが赤信号を渡つてる
 オンライン大あくびする聴診器
 不可思議な菌で地球が揺るがされ
 カナリヤの口を縛っているコロナ
 不可と言う文字が目につく春の鬱
 不可侵の領域子にもある砦
 ステイホーム娘の部屋は覗けない
 体育苦手アヒル並んだ通信簿
 さいいた話に尾鰭つけてはいけません
 非が無いと言ひ張り合つて和解せず
 国と国不可侵なんてすぐ破れ
 付度の書類は全てコピー不可
 軍隊の顔は出来ない自衛隊
 不可能へ挑む璃花子の目が熱い
 裸の王様を笑つてはならぬ

鳥取 前田 楓花
 兵庫 櫻井 崇史
 大阪 川端 一步
 大阪 吉村久仁雄
 大阪 江島谷勝弘
 大阪 高杉 力
 富山 伴 よしお
 静岡 中田 尚
 佐賀 前田 廣幸
 大阪 中山 春代
 大阪 佐々木満作
 大阪 出口セツ子
 兵庫 みぎわはな
 大阪 北村 賢子
 京都 山田 葉子
 兵庫 福田 正彦
 大阪 本田 智彦
 大阪 上出 修
 兵庫 永田 紀恵
 大阪 中島 一彌
 大阪 中村 恵

足し算可引き算不可の調味料
 見ぬ振りをして不可思議を追つてみる
 空腹を知らぬ子どもふしあわせ
 酒は不可また病院を変えました
 はしご酒止まらぬ僕は回遊魚
 原点に戻るだけだと不可と組む
 不可じゃ無くやつてみなはれこそ進歩
 子育てをやり直したい母である
 暗黙の不可侵あなたとの垣根
 不可侵条約妻の部屋からいい匂い
 コピー不可私の愛も人生も
 不可能に挑む十八退く半寿
 都合良く不可を可にする妻の知恵
 イノベーションに不可という字は無いらしい
 不可能を若い翼がぶつ飛ばす
 所詮無理言われて燃えた青春期
 不可の字にやる気出てくる天の邪鬼
 反抗期入室不可と貼つてある
 可と不可が反転をして老い深む
 半夏生 道ならぬ恋解けぬまま
 親ごころ知るべくもなく人の親
 展開図不可です綻びがばれる
 情熱が咲かせてみせた青い薔薇

埼玉 中島 通則
 島根 川本 畔
 奈良 饗庭 風鈴
 奈良 木村 利春
 兵庫 村田 博
 和歌山 堀 富美子
 大阪 松岡 篤
 兵庫 藤岡 りこ
 大阪 徳山みつこ
 大阪 宮崎シマ子
 大阪 小野 雅美
 大阪 澤井 敏治
 岡山 折鶴 翔
 奈良 柴田 園江
 和歌山 小谷 小雪
 大阪 西澤行兵衛
 兵庫 能勢 利子
 大阪 柿花 和夫
 大阪 山岡富美子
 大阪 小川賀世子
 大阪 長高 俊雄
 鳥取 森山 盛桜
 大阪 栃尾 奏子

バラ園のバラに不可などありません
暗黒をのぞき込みたい好奇心

奈良 植野美津江
大阪 阪本 秀子

兼題「欲しい」

古今堂 蕉子 選

永遠の真ん中不可の文字がない

長野 丸山 健三

最低限不可欠に吸う良い空気

兵庫 亀岡 哲子

可も不可も無くて昨日のつづきかな

大阪 高田美代子

前を向くことしか今は合歓の花

京都 前中 知栄

可も不可もなしの夫婦のおみおつけ

大阪 油谷 克己

あれも駄目これも駄目です血糖値

兵庫 谷口 修平

佳

旨そうだしと身体に不可なんだ

大阪 伊達 郁夫

SFへとびこむ少年の瞳

奈良 阪本 高士

老人はゼロ歳不可能は知らず

奈良 阪本 高士

澄んだ空不可能なんて言わせない

鳥取 吉田 陽子

とろろ汁 可もなく不可もない暮し

兵庫 山崎 武彦

人

無いものを探し続けてもう日暮れ

大阪 平井美智子

地

Uターン禁止私の道続く

広島 小島 蘭幸

天

いくら歩いても青山からは出ず

兵庫 長川 哲夫

軸

コンパスで四角を書いちゃいけません

大阪 水野 黒兎

人間を洗うと欲の泡が浮く

愛媛 栗田 忠士

びつたりの言葉すんなり出て欲しい

愛媛 黒田 茂代

娑婆っ気が抜けずに伸びる欲の爪

大阪 長高 俊雄

もう一人藤井聡太のような孫

大阪 中井 萌

正か邪か直ちに見抜く目が欲しい

広島 小畑 宣之

チコちゃんに叱って欲しい安倍首相

兵庫 堀 正和

欲のない顔で狙っていたポスト

徳島 小畑 定弘

通常の句会開くという知らせ

大阪 樋口 眞

おまけだと夕日がくれたロスタイム

大阪 桑原すゝ代

出来るならスベアが欲しい脳回路

岡山 高橋由紀女

貯まる程欲得尽くになる不思議

大阪 坂上 淳司

生きてる実感欲しいのは感動

大阪 藤村 亜成

夕暮れになればもそもぞ酒の虫

大阪 村上 直樹

特ダネが欲しくカケ麻雀に入る

大阪 油谷 克己

黄泉路までワンメーターで行ってくれ

大阪 原 洋志

助手席に薔薇もカンナも乗れたがる

岡山 永見 心咲

最後まで目だけ欲しいがるバイキング

鳥取 池田 美穂

ねえあなた覚えていてね私の名

大阪 澤井 敏治

買えるから欲しい買えないから欲しい

大阪 枋尾 奏子

目指すのは知性も顔も小百合様

大阪 小野 雅美

冷奴まだまだやる気あるのです

京都 前中 知栄

欲を言うとなたしも期限あるのです
 コロナ終息欲しい全世界の笑顔
 忘れたことボンと消し去る削除キー
 一あれば二二あれば三が欲しくなり
 まだ翔びたくて魔女のホウキが欲しい
 欲しいのは出会った頃のピュアな愛
 もういいかいランチ仲間と会いたいな
 欲しい物無いと言いつつ服が増え
 倦怠期虫コナズを買いました
 辛口の中にも欲しいやさしい眼
 お茶よりも酒が欲しいという位牌
 ダイヤは欲しいが豚まんかて欲しい
 寅さんのウィット明日の糧となる
 オンライン繋げて欲しい天の国
 叶うまで泣き喚いても負けぬ母
 お金より一緒に歩きたいずっと
 欲しい物すぐ買って来るすぐ飽きる
 エピローグまだ物欲は達者です
 挑戦のころへ欲しい朝の水
 蟠りとかして欲しい空の青
 切実に野党が欲しい議席増
 肩書が欲しくてアリがひた走る
 愉しみはふき味噌さざえよもぎ餅

京都	今井万紗子	京都	西澤 知子	鳥取	岡崎美知江	大阪	矢倉 五月	大阪	原田すみ子	大阪	大島ともこ	大阪	池田 純子	大阪	両澤行兵衛	大阪	徳山みつこ	兵庫	熊谷 勉	宮城	木田比呂朗	鳥取	大前 安子	大阪	阪本 秀子	愛知	山本三樹夫	広島	田中 敬子	奈良	饗庭 風鈴
----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------

香港も台湾もという強欲さ
 あとがない拉致解決へ欲しい術
 目が欲しい達磨に背なを叩かれる
 人生の余白に欲しい生きる価値
 マザーテレサの愛欲しかっただけレイエム
 易しい答欲しくて花を買ってくる
 利他主義の平和な世界あらまほし
 生ぬるい午後ジョーカーが欲しくなる

住

一生になん度か欲しい非常口
 失明の告知に欲しい目の光
 逸早くコロナ撲滅する薬
 点滅に気付いて欲しい恋ごころ
 欲しかった自由が僕を困らせる

人

欲求不満あるのかロダン立ち上がる

地

リーダーシップここできっぱり句読点

天

輪廻転生モトメルモノガオオスギル

軸

終るまでわたしは私でいたいもの

京都	清水 英旺	奈良	長谷川崇明	兵庫	尾崎 一子	奈良	飛永ふりこ	広島	鴨田 昭紀	奈良	仲村 周子	奈良	細田 貴子	大阪	美馬りゅうこ	奈良	柳本 恵子	大阪	古今堂蕉子
----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	--------	----	-------	----	-------

兼題「たわむ」

阪本 きりり 選

マリ子を偲ぶたわなに咲いたネムノハナ
 梅の実はたわわ狂わず梅雨に入る
 今はもう採る人もなく柿たわわ
 マンゴーがたわむ 落下の胸騒ぎ
 初恋はるかにゆすらうめ鈴生り
 散歩道味見がしたい枇杷たわわ
 ご免ねのポーズでたわむネコヤナギ
 るり柳咲いてはたわむ小糠雨
 お隣の老いはホームへ柿たわむ
 やがて散る枝もたわわな花ざかり
 たわむ程みかんが出来た七回忌
 廃屋に夕日集めた柿たわわ
 テレワークの窓七夕の笹しなる
 たわませた枝がびしりと反抗す
 重過ぎる愛は憎しみに変わる
 鬼が出たあれからたわみ闇の中
 信念がたわむ付度しとかねば
 こころまで撓みマスクが手放せぬ
 仰向けに肢体がしなうカメラアイ
 年輪をバネにやんちゃの二つ三つ
 お互いに本音を出さぬまた撓む

島根 伊藤 寿美
 大阪 樋口 眞
 鳥取 竹村紀の治
 鳥取 前田 楓花
 広島 小島 蘭幸
 大阪 大島ともこ
 大阪 初代 正彦
 岡山 高橋由紀女
 徳島 小畑 定弘
 大阪 吉岡 修
 兵庫 能勢 利子
 岡山 藤澤 照代
 大阪 山本希久子
 兵庫 山本希久子
 大阪 田中ゆみ子
 岡山 小野美那子
 大阪 西村 哲夫
 鳥取 新家 完司
 大阪 阿澤行兵衛
 兵庫 上田 和宏
 大阪 柿花 和夫

たわみたい時もあるのさ傘寿越え
 ふいにバネとなるくの字になった腰
 大地にも生む苦しみのある地殻
 たわんではいけない桃色のハート
 クリムトの愛弓なりにたわみゆく
 マスクの中でたわんでる言葉数
 愛のかたちにシーソーがたわみ出す
 棚板のたわむ論語に手が出ない
 第二幕たわむ心に街明かり
 背のたわむほどの重荷を後継ぎに
 折れるまで本音は言わぬ竹たわむ
 無作法を乗せると天秤がたわむ
 リベンジへ今はたわんでいるのです
 少ししたわんで降圧剤を飲んでいる
 やわやわとたわむ妖しい薬指
 鈴なりのボエムでたわむ夏の雲
 人生はしなり乍らも百寿かな
 人間がたわむと悪の匂いする
 熟年はたわむにまかせ想定外
 たわまない男はきのう捨てました
 たわませて使い切ります昭和の子
 やわらかくたわむ二度とは折れぬよう
 宛先不明十萬円のたわむ先

神奈川 加藤 佳子
 大阪 徳山みつこ
 高知 辻内 次根
 島根 藤井 寿代
 奈良 安土 理恵
 大阪 宇都満知子
 大阪 森中恵美子
 兵庫 松本ゆかり
 奈良 木村 利春
 大阪 原 洋志
 奈良 柳本 恵子
 鳥取 森山 盛桜
 大阪 鈴木いさお
 大阪 西出 楓楽
 奈良 細田 貴子
 奈良 渡辺 富子
 大阪 高田美代子
 鳥取 倉益 一瑤
 奈良 田中 乗子
 大阪 井丸 昌紀
 兵庫 山内 迪
 大阪 桑原すゝ代
 奈良 柴田 園江

金曜日はたわむスーダラ節である
たわんでいるところから心漏れている

強くなんかないいたわんでいる心

物の無い時より心病んでいる

四捨五入思わず老いが反り返る

コロナには無関心です果実

狼の影に追われる解除明け

ハンガーが弱音吐いてる作業服

佳

満開の千年桜千の杖

一日を終えてたわんだ身を投げる

うねらせてたわませてまだ許せない

ぐにやりぐにやりウィルスの街だ

少したわむと皆の首が楽になる

人

曲げるためるこの手が作る花の舞

地

炎天にたわむ14時からの空

天

枝先をたわませて月ゆつくりと

軸

たわませてゆらす憎悪の二メートル

兼題「階段」

階段と坂の町です元氣です

百段先の野望に歩み止めません

階段の手摺りに亡母の跡がある

歴史ある宿の階段黒光り

山寺の石段洗う通り雨

階段の途中でひよいと句が生れ

昇格の階段が無いパート職

階段を昇れるうちは家に住む

螺旋階段ここはステキな喫茶店

悠悠と階段おりてくる勝者

十五階非常階段覗き見る

タラップを降りる笑顔のVサイン

階段の下から呼んでいるお昼

人生の一段ごとのヒストリー

二階へもエレベーターの前にいる

天国へ縄梯子ならあります

階段を上ると雲の上に出た

昇れば降りる楽しみのある階段

階段に古い鱗が落ちている

卒業試験階段はつづきます
梯子車の届かぬ階に住む勇氣

小島 蘭幸 選

兵庫 龜岡 哲子

静岡 中田 尚

広島 松田 栄香

兵庫 熊谷 勉

岐阜 喜多村正儀

大阪 川端 一步

鳥取 奥田 由美

兵庫 丸山 孔一

大阪 鴨谷瑠美子

大阪 奥野健一郎

兵庫 北野 哲男

大阪 原 洋志

広島 岩本 笑子

大阪 中井 萌

佐賀 坂本 蜂朗

奈良 大久保眞澄

鳥取 竹信 照彦

大阪 宮崎シマ子

愛媛 栗田 忠士

奈良 西澤 知子
兵庫 大坪 一徳

七階に住み階段でダイエツト
 階段のむこうは滑り台でした
 三食に階段降りて来る夫
 アナログのまままで階段見上げてる
 まだ続く 世は階段で出来ている
 あの世への階段登る手をつなぐ
 エレベーター欲しいとみんな言うてはる
 石段をグーチヨキパーで駆け上がる
 ハルカスの階段いつか登ったる
 階段を先に譲ってまだこの世
 修行だと悟り階段上り下り
 一息入れるまだ踊り場という卒寿
 ワルツでもいかが階段の踊り場
 踊り場で聞く終電の発車ベル
 終章の階段を行く月あかり
 月つかもうと階段で落っこちた
 青の階段棚田を渡る風さやか
 五階なんですエレベーターが無いのです
 階段を上る身軽になりながら
 石段の途中だったわプロポーズ
 階段で今日もコロナとすれ違う
 踊り場で大きな息をするマスク
 一段づつ昇るはるかなる宇宙

大 阪 松尾美智代
 岡 山 永見 心咲
 大 阪 伊達 郁夫
 京 都 山田 葉子
 大 阪 森田 旅人
 奈 良 渡辺 富子
 大 阪 太田扶美代
 大 阪 金川 宣子
 大 阪 森松まつお
 鳥 取 池田 美穂
 大 阪 樋口 眞
 兵 庫 緒方美津子
 愛 媛 花岡 順子
 鳥 取 竹村紀の治
 奈 良 阪本 高士
 三 重 小河 柳女
 大 阪 大浦 福子
 兵 庫 太田としお
 大 阪 平賀 国和
 奈 良 安土 理恵
 兵 庫 岸田 万彩
 大 阪 中山 春代
 兵 庫 尾崎 一子

エスカレーターノーベル賞を贈ります
 二階には魔女が暮しているのです
 縁切寺の石段登る泣きながら
 階段を一つ上がった令和婚
 階段の凹みは愛の物語
 階段は猫の昼寝で通りゃんせ
 あなたとの距離階段の上と下
 飛ぶことを忘れエスカレーターの鳩
 佳
 音もなく階段下りてきたコロナ
 タカラヅカ大階段は花ばたけ
 スキャンダルひとつ階段ころげ落つ
 居場所なら裏階段の六段目
 象さんを唄って階段をあそぶ
 人
 雲の階段登って路郎師に会いに
 地
 階段がある日サスペンスになった
 天
 ちちよははよ雲の階段降りて来よ
 軸
 地獄巡りの階段ひとつずつ下りる

大 阪 井丸 昌紀
 兵 庫 上田ひとみ
 兵 庫 野口真桜子
 岡 山 藤井 智史
 広 島 笹重 耕三
 大 阪 森 廣子
 大 阪 古今堂蕉子
 奈 良 吉井テイ子
 奈 良 阪本きりり
 奈 良 居谷真理子
 大 阪 長高 俊雄
 青 森 稲見 則彦
 大 阪 森中恵美子
 愛 媛 黒田 茂代
 鳥 取 森山 盛桜
 和歌山 木本 朱夏
 広 島 小島 蘭幸



(投句213名)

暑い暑い夏にマスクを付けていなければならぬなんて殺生な、熱中症注意なんて言われてもねえ。

ぼつぼつ句会も再開出来るかと思えばまた第二波とやらが押し寄せて、コロナもなかなか先が見えません。

誌上句会などで皆様方のお元氣な様子を想像するばかり、句会場も人数を半分になんて言われたりして、やりにくい事この上なしです。

グチよりナビですね。

手に入れてみれば小石が光らない

(評) 自分のものでなかった時はすごく魅力的に思えたあれこれ、いざ手に入れたとアレレ、なんちゃって。

どっちにしようかな思索しています

(評) 行くか行かないか、するかしない



か、人生、とかく迷うことばかり。でもそれが生きているってことも。

顔のない切符どこでもドアなのね

(評) 顔のない切符って、何でも言うことを聞いてくれるんですか、ドラえもののどこでもドアみたいに。

遠回り見知らぬ花が道端に

(評) 遠回したおかげで可憐な花と出会えた。オマケのように頂けた思いがけないものは宝物のようですね。

人生を振り返るにはいいチャンス

(評) 自粛やら巣ごもりやら、マイナスと思えばしんどいけど、ゆっくりと物事を考えるにはまたとないチャンスかも。

県人に限定ですかボランテイア

(評) 駆け付けたい気持ちで邪魔するコロナウイルス、県を跨いでは行けないなんてどこかしさが募ります。

断捨離が終われば妻も消えていた

(評) 断捨離に夫を何とかしたい、というのはよくありますが、妻が消えていたというのは想定外でありました。

責任は私にあるがとりません

(評) 国会答弁の総理が大臣の本音のよ

うです。本当にこの国の政治家は責任というコトバを知らない人ばかり。

行きますか本当に今行きますか

(評) エッ、ホントに今行くの、この時期に、GO TOトラベルなんて大丈夫かあ、人命一番と違うんかい。

寅さんが霜石さんに出会う旅

(評) あらら、固有名詞が二つも入っちゃって、でも、このお二人、出会えば何かが起こりそう。

風の声聴きたくなくて途中下車

脱出をしたい気持ちはよく分かる

ブランコに乗って地球を飛び出した

幕じまいすこうし心痛みつ

初恋の君はヒロサキサクランボ

雨雲を連れてきたなと言われそう

東北弁上野駅から滑り出す

戦争と平和比べて月見する

上尾市 中村 伸子

豊中市 水野 黒兎

池田市 上山 堅坊

松江市 相見 柳歩

大阪市 岡田 恵子

大山市 金子美千代

米子市 八木 千代

東京都 川本真理子

唐津市 坂本 蜂朗

倉吉市 山中 康子

弘前市 高瀬 霜石

山形市 山形 霜石

山形市 山形 霜石

山形市 山形 霜石

山形市 山形 霜石

山形市 山形 霜石

山形市 山形 霜石

山形市 山形 霜石

山形市 山形 霜石

山形市 山形 霜石

山形市 山形 霜石

山形市 山形 霜石

山形市 山形 霜石

山形市 山形 霜石

山形市 山形 霜石

寝屋川市 廣田 和織

軽い愛です荷物にはなりません

横浜市 菊地 政勝

生き方に惚れて太宰の里に行く

大阪市 小野 雅美

忠告はあなたのためと言われても

仙台市 月波 与生

かき捨てた恥が実家に舞い戻る

鳥取県 門村 幸子

鈍行で行こう景色を楽しもう

大阪市 森 廣子

旅よりもいつそ引越しましうか

大洲市 花岡 順子

廃線のキップ古里遠くなる

和歌山市 土屋起世子

約束のベルが鳴っても来ぬ彼女

高槻市 富田 保子

スキップの足もいつしか一人旅

大阪市 古今堂蕉子

お宝になると神棚に供えた

松江市 石橋 芳山

右回りか左回りかどっちだい

米子市 池田 美穂

寅さんの次のマドンナ私です

箕面市 出口セツ子

風誘うままに自由に行ける幸

松山市 柳田かおる

ふる里へ何かあっても帰れない

五所川原市 むらのひとり

古希迄と言った覚えはありません

乗りましたブルートレインカシオペア
大阪市 江島谷勝弘

一人旅ぱつと五感を解き放す
箕面市 広島 巴子

ふるさとへ素顔をとりに戻ろうか
橿原市 居谷真理子

幸福切符持っているけどまだ一人
大阪市 石橋 直子

宇宙船の切符へ豚の貯金箱
唐津市 仁部 四郎

踏んばって故郷へ帰らなかつた日
堺市 内藤 憲彦

ふたりして津軽慕情の雪のなか
箕面市 酒井 紀華

天国か地獄か閻魔切る切符
香芝市 大内 朝子

いざ出発左遷でないで故郷だ
大阪市 柴本ばつは

昔むかし金の卵と囃される
弘前市 福士 慕情

つちのこを捜しに出掛け帰らない
西宮市 亀岡 哲子

「はやぶさ」に乗る東京はもういの
松山市 大内せつ子

リモートじゃ野菜一本つくれまい
熊本市 杉野 羅天

弁当も傘も忘れず山陰路
鳥取市 前田 楓花

東北の寡黙な宿の鯉御膳
豊中市 きとうこみつ

楽園へ行くチケットはいかがです
大阪市 栃尾 奏子

姉妹の会話は尽きぬ旅の宿
尼崎市 藤田 雪菜

桃太郎コロナ退治もしてほしい
大阪市 奥村 五月

さあ行こうリング海鮮ひとつぶろ
羽曳野市 徳山みつこ

東京を闊歩啄木にはならぬ
松山市 宮尾みのり

秀才に育て遠のく子との距離
横浜市 川島 良子

唐草の風呂敷つれて旅に出る
西宮市 福田 正彦

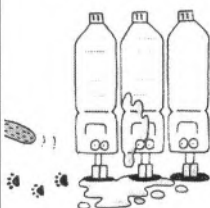
来年は花もねぶたも見に行こう
大阪市 樋口 眞

流れ行く景色肴にワンカップ
豊中市 松田蟻日路

とりあえずアマビエ様を神棚に
米子市 妹能令位子

ひよいと乗る銀河鉄道フルムーン
西宮市 緒方美津子

11月号発表 (9月15日締切)



(平本 霧石人 画)
柳箋に2句

子に抜かれ孫にも抜かれ柱傷愛情を入れすぎ鍋を噴きこぼす赤ワイン足して足してのウチのシチュウ出る杭も背伸びもいつか叩かれる封を切る手が震えますラブレター隠し味カレーにチャツネ必須だよ手が触れただけでどきどきした昭和追伸にスマイルひとつ添えておく肩凝りに憑いていますか背後霊親切な人が何かありそうだ眉尻をやんわり足して細で出掛け亡母に似ていつかは僕も丸背中愛情を加えてみたがまずかった

竹原川柳会(広島)

古田比呂子報

野苺の甘さお日様の優しさブランコよ私の過去へなぜ揺れるしなやかに揺れる柳の処世術まだ着かぬビント外れのアベマスク増殖中煩惱いまだ留まらず新聞の音読して元気ですいま生きる此の瞬間がいとoshiiお尻くりくり0才児がもう自己主張アラームより早く目覚めてまた眠る手作りマスク端切れの布が蘇るテレワーク息子の仕事垣間見る青空をかけたぐりた何だろうそうだったバカ殿様はもういない早起きへ朝一番の風を入れ一枚の切手が夢の旅に出るやつと来たアベノマスクが話題なりしつとりと紫陽花色に染まる雨

一 吞 風来坊 和香子 慕情 美鈴 規子 ひとし 吹喜 ちづ子 龍馬 ひろ 吞舟 英子

記念樹二本天を支えるごとと聳え風見鶏になれず不器用に生きているラッキョむく夫が意固地になっているおむつでもおしやれがしたい二歳です待ってたよ日々の活力カーブ観る物欲が消えた術後の弟よかにもはちにもちくつとさされるよ

はびきの市民川柳会(大阪)徳山みつこ報

嫁姑火花押さえて日日好日火花バチバチ想定外の空元氣ああ無念松の廊下で火花見るトランプ氏喋れば辺り散る火花溶接現場火花散らして匠技国民の火花を総理見えて無い同じ服着ている人とすれ違う火花散る村の鍛冶屋はもう見ない0秒差火花を散らすアスリート君の目からは感電死しそう半島の火花日本へ飛び火する老いの喧嘩火花散らす別室に会うたびに火花散らした人が妻昭和史の火花ひを振り返る問われても終息不明医学界つまらない問答無用前を向け民主主義あるか問いたい皆さんに長生きは悪い事かと国に問う

敬子 千代美 笑枝 史子 蘭幸 二歳 三歳 ちか 五歳 五歳 ひろむ

川端一步選

レタス剥ぐ若い自分が見えるまでお美しいなんて言われてとろけちゃう銃声はまだ聞こえます世界地図もう決まり今年の漢字自肅だね雨上がり音符の様な葉のしずく再手術向かう列車に一人乗る母になるよろこびレモン丸齧り牛歩でも前に進めば未来ある宿題を遺して逝った横田さん我慢したことが肥やしになっている(書)さくら

佳句地十選

(8月号から)

籠島恵子選

うつかりとゴール見逃しふたまり違和感無くばあちゃんになっている大切なのは何かとコロナ突き付ける迷ったら薬は飲んだ事にする(山)妙子神さまは少し私に手厳しい気づいて忘れ気づき直して生きてきたきつと幻想僕がトップに立っているマスクして岬の虹に会いに行く天国の門がすんなり開くかなあ頼む方も断る方も嘘を吐く

孝子 みどり ともこ (山) 妙子 敦子 和宏 かずお 宣子 萩江 洋志

国会の問答集が笑いネタ
何気ない幼児の問いにはつとずる

我が人生悔いはないのか我に問う
花に問えば野に咲く花になれと言う

問う前に君の思いを言うてくれ
ユニセフが飽食の世を問うてくる

問わずとも流れる汗が物語る
問われたら上り坂だと答えよう

新コロナ夫婦の絆問うている
独り居て問わず語りの仏間の灯

川柳やがわ(大阪) 籠島 恵子報

オーロラの神秘魔の終夜
愛してる落書きだけど本音です

熟成を考えている樽の泡
雑言にも黙って耐えている拳

満開の下で引退決めている
素晴らしい弔辞拍手をしなくなる

落日の中で燃えてる四コマ目
スカスカのレモン昔を語りだす

押し黙りぐつと堪えて正念場
終章に向かって堪える事ばかり

最後には妻の案へとなつてゆく
果ごもりいへかに楽しく過ごそうか

茶柱が早い決断急ぎ立てる
逆噴射男は意地で堪えている

生きているこのひとときがすばらしい
大空に落書きしたい五月晴れ

七千歩毎日同じで無い所
コロナ旋風口ダンの悩み深くなる

考えずぐに走つてまた転ぶ
落書きに本音チョッピリ書き添える

専 平 ひとみ 正義 理恵 ダン吉 宏造 ゆみ子 扶美代 冬のト 楓 楽 恵子報 欣之 西 博 賀世子 堅坊 郁夫 惠 秀雄 麗 修 寿子 賢子 仁 星雨 祥昭 尚世 武彦 高鷲

怖いけど頑張っているお医者さん
年金の点滴だけで生きている

堪えてます口がうるさい山の神
限りある命を抱き堪えている

考える人生だった開かぬ蓋
考えるロダン肩は凝つてしま

コロナ禍の下サクサ狙い悪政治
人生の余白に落書きしてみよう

グランドショントと雲のコンチエルト
緞帳が余韻引きずるアンコール

頭からゆるんだネジが落ちてきた
自粛下で知った女房の底力

テレワーク靴み始めた夫婦仲
外出がままならぬ今花が友

考える人のポーズで昼寝する
和歌山三幸川柳会 西川 千鶴報

少しだけ身繕いして書く日記
一歩先行く友のメールは読み辛い

二人だけ分かることばのメール便
メール打つ指がドリブルしてエラ

コロナ禍が気付かす動く幸せ
働いて知った追い風向い風

生かされて顔を洗ってまだこの世
貝のよう口を閉ざした反抗期

不器用な指がメールとよく遊ぶ
幾年の波の音聞くさくら貝

心労を小脇に下ろし深呼吸吸
とありえず不便はないと子にメール

断りに先にメールで露払い
懸命に働き余生報われる

にんげんの籠りをよそに風若葉

高 志 薰 勝弘 博委 智 銀杏 亜成 信子 千賀 和織 壽峰 かずお あさ子 弘一 菜摘 かず子 准一 まき 敏照 八重子 昭枝 起世子 美枝子 当代 富香 宏枝 智三 一雄 理恵

雄弁にアンモナイトが解く進化
働いた背に咲きほこる多年草

無字だが俺の取り柄は力瘤
アナログの脳には負荷のテレワーク

文箱の螺鈿月夜の海を恋しがる
汚れてはいるが光っている野良着

やどかりや君も賃貸住宅か
新緑を背負う手作りのマスク

顔のないメールを嫌う頑固者
メールでは君の笑顔が見えませ

何もかも承知で言になつてい
貝だつてはしゃいでいた時あるだ

働き方とんだウイルス左右する
未送信メールにわたくしの本音

つるバラが咲いたと写メールが眩し
立った歩いた祖母へメールが忙しい

今日の灯を消して明日へのスケジュール
今日の働きうれしティータイム

法螺貝を吹いてコロナと長期戦
テレワーク猫が邪魔して捗らず

川柳塔唐津(佐賀) 仁部 四郎報

ありったけ児の泣き声や歯科医院
せわしなく働く振りの蟻もいる

下請けの下請けですと低い腰
三次会贈のルーツたどりつき

山中にも海抜ゼロの雲の海
川柳同友会みらい(鳥取)吉田 陽子報

知らんふりしやすいコロナマスクなり
綿毛飛ぶ網戸に止まり悔しそう

さりげなく干支で訊ねる生まれ年

日出男 幹子 昇 純子 保州 和子 ひろ子 よしこ ダン吉 美羽 彦弘 知香 明子 あき子 眞智子 悦男 義泰 千鶴 蜂朗 高明 四郎 廣幸 陽子報 節子 和代 悠奈

クラス会さすが素顔を晒せない
マスクしているとしれだつたのに
3密自粛の祭りを夢に見る
赤い羽根知人の会釈無視できぬ
哀しみに汚した枕日に晒す
無印ですがやる気なら持つて
ああ痛いこの傷よりなくす金
コウノトリ褒美のように入れる
登山靴出番はまだか手入れする
欲張って収穫時期を見失う
幸せに気づく雀の遊ぶ庭
団地にとも谷間小さな灯をとす
春の雲はわーん時間くれまいた
水平線空と海のしのびあ
手探りの道振り返ることはない
吠えている未だ負け犬自覚せず

わかやま吟社

小谷

小雪報

命の灯ホタルも自己を主張する
ベランダに灰皿のあるホタル族
懐かしい竹ぼうし持ちホタル狩り
哀しくも美しく舞う恋螢
薔薇育てそのブライトを棘で知る
点滅のホタルひと夜の相聞歌
蚊帳を吊りホタル飛ばした里の夜
夫の一言を着る勇気出る
旅の宿還暦祝う赤甚平
家訓が詰まる育つ子供ランドセル
亡妻の初盆へ赤いTシャツ着る男
ホタル好き走りまわった夜の道
迷う日は心のホタル追ってゆく
東京もアラート赤で映し出す

美恵子 章子 洋子 清春 八重 華蓮 和郎 真帆 游子 七絵 陽子 安子 観洋 丹吉 公弘

青春に赤信号という媚薬
迷つてもいいレールは敷いておく
赤紙がたった一つの遺品なり
今はもう図鑑でホタル見てるだけ
遠い日の下駄の感触螢狩り
イベントが済んでホタルのお見送り
あなへの赤い心を見て欲しい
後継者育て引き際考える
保育器に目をはなせないナースたち
入場券買って入った螢狩り
血が赤いうちは真つ直ぐ歩くだけ

川柳ささやま(兵庫)

北澤

桐民報

毒クスリ意見無用の旨い酒
癒される土に本音も愚痴も吐き
熱中するものも無いのに熱中症
ビールでは水分補給だめですか
年重ね三食昼寝板につき
授業再開窓開放にホーホケキョ
四方八方畑に芽づる戯れる
青空に雲の芸術楽しめる
吠えぬ虎頼むは浜の風ばかり
卒寿まで体調このまま今の夢

富柳会(大阪)

山野

寿之報

陽に焼けた顔にマスク跡がある
端正な横顔見せるとき他人
グーグルのマップ表札まで見える
千の月くつきり写す千枚田
ビルの上街を動かす鳩時計
サギやがな黒いカラスを白という
一筆を心に込めたおもてなし

八茶 知香 保州 寿子 紀子 明子 准一 徑子 日輪 大輪 善輔 剛男 喜弘 良子 照代 哲夫 美智子 和子 恵子 武人 寿之 よしみ 新鷺 高鷺

三蜜で封鎖余儀なくしたコロナ
出世には縁遠い顔おでん酒
未来から借りてる森にチェインソー
登ろうとする新人の目の光
白内障手術くつきり妻の顔
封はもうホツチキスしてさようなら
スーパームーン夢の続きがみたくなる
他人の輪そっと夢でから深呼吸
大黒柱から母へ変った日
黒雲がたれ込めている地球上
サイホンとお喋り弾む梅雨真中
河豚ちようちん消えて今年には寒い冬
何気ない日常それが宝物
ペディキュアでお洒落に見せる夏の街

南大阪川柳会

松岡

久しぶり集うマスクの登下校
クラス会早く集おう先がない
葬式へそくくりな顔顔集い
髪染めてチョクリン派手着てクラス会
あるところばかりへお金寄りがたがる
七十トン巨石二つの石舞台
落ちるなよ屋根が舞台のだんじりだ
石舞台謎はそのまま謎で良い
団十郎にもありました初舞台
ゆつくりと皆の顔見てる披露
コロナ禍に表舞台を去る老舗
一期一会今日の舞台は二度とない
国病むも四季の舞台は移りゆく
舞台裏借金取りが待ち受ける
発車ベル鳴ると杖ついても走る
夫急変急がねばただ走る

壽峰 伸雄 田鶴子 欣之 清 かり 常男 由夏 正義 隆允 章子 安希子 篤報 柳右子 純紀 志華子 楓楽 勝弘 ばつは 直子 いさお ルイ子 千鶴子 亜成 妙子 克己 東風 ひさ乃

私とペンギン同じ様な走り方
走る気をなだめるように深呼吸
香ゆるぎ通夜明けの朝風走る
逢いに行く愛小走りのピンヒール
完走で自分に贈る金メダル
この道を走るといつか見えてくる
まだ走らな大きな虹を見るまでは
空やカン火にかけ鳴るワ音するワ
ハイハイの孫二人来るすさまじい
散らかしてやつとマスクが一つでき
目の前に置いてあるのに鍵がない
階段で広げてしまったゴミ袋
ハクションに視線を浴びる電車内
労りの言葉の代りビール注ぐ
二波三波忘れ解除の机上論
泣き顔が笑顔になった球児たち
梅ラッキョ底をつきます三回忌
花の寺あじさい色の傘の海
戯言を知らんふりして聞くグラス

川柳茶ばしら(愛知)

関本かつ子報

病院へ症状言うも歳だから
戦争でしか還らない島がある
塩油たっぷり食べて今がある
本山へ母を送って休ませる
年金が一息ついた家籠り
安心を貰える人のいい笑顔

岩美川柳会(鳥取)

山下 節子報

中元が届いた頃が絶頂期
ハンドルを持てば前だけ睨むこと
蒸し焼きにしても抜けない僕の灰汁

シマ子 大子 弘子 寿之 俊雄 ダン吉 郁江 通夫 峰子 よしみ あや子 満作 弘委智 敏治 一步 柳伸 歌留多 柳博

蒸し芋で腹を満たした昭和の子
人間を睨み采配ふる時計
カラスには私の睨み通じない
上出来のナスやトマトでお中元
本物のビールが飲めるお中元
要らない言いがた待つお中元
オリンピック目指す児童の輝く目
オリンピック見えない敵が遠ざける
オリンピック済むまで辞めぬ総理知事
中元は何時ものそばを頼みます
ハイハイと睨みをかわす尻の向き
聖火リレー二メートル開け歓迎さ
オリンピック皆が浮かされ踊らさ
しつかりせい鏡の俺と睨めっこ
中元はいつもの通り妻まかせ

倉吉川柳会(鳥取)

竹信 照彦報

生きた証治めた家族これで良い
コロナ菌治めたら即ノーベル賞
治まるかコロナ油断は未だ出来ぬ
蔵の中治めてみたががらくただ
今の世を必死に治め政治家よ
人生を何とか治め八十路来る
赤ん坊以外何でも作ります
後ろから虚偽の文書を大臣に
雷神の子分が作る黒い雲
権力者法律作り身を守る
核兵器作ってならぬ神の国
人間が作りすぎ自然に勝てぬ
農作業作る喜び腰は泣く
若い頃弁当作り老いて買う
表面は紳士ちよくちよく出来心

凱柳 美恵子 たぬ 昌子 幸安 敏子 茶理子 眞理子 振作 雅代 千平 弘六 蟹郎 節子

出来心で履いた神主の木靴
出来心実行するは恐ろしや
出来心浮気がばれて大目玉
出来心他人の傘をちよつと借り
魔がさしたのか不要品を買わされた
出来心それは理由になりません
ぎやあぎやあ文句ばかりで何もせぬ
ぎやあぎやあもクスクスも生きるため
ぎやあぎやあ鳴く静かな朝のカラス二羽
ぎやあぎやあと姑が言えは波が立つ
ぎやあぎやあと豊を叩くカルタ取り
人はみなおぎやあおぎやあと生まれ出た
みんな無し都合の悪い出来心

川柳ふももん吟社(鳥取)山下

凱柳報

古里の山河が招くUターン
ゆつたりと入母屋造り住みたいな
二人に二畳ゆつたり手足伸ばされぬ
ゆつたりと揺れる裸足の大砂丘
アルバムを開きゆつたり暇つぶす
子が招く都会の水は苦すぎる
ゆつたりと時は流れて共白髪
年ですすねことばすんなり入ります
ゆつたりと暮らすボツンと一軒家
飲みすぎで本音喋って鼻つまみ
亡母の風ルーツたどりて戸を叩く
外出を自粛ゆつたり老い二人
サッカーのルーツ手繰れば蹴毬宴
書き終えた遺書をゆつたり読み直す
ゆつたりと流れる川が牙をむく
そちらではゆつたりですかお亡母さん

重忠 玲子 智恵子 茂夫 康子 大鯰 由起子 萩江 龍枝 風露 祐子 醉美彦 照彦 幸二 勲章 蟹平 金祥 幸子 敏夫 善平 義徳 振作 とも湖 節子 昌鼓 稲佐 楓花 眞理子

福招く笑う練習しています

コップ酒招く相手は消えた夢

夢までもみんな苦勞の夢になる

シベリアにルーツ訪ねて千の風

ゆつたりの時をコロナがブレゼント

これを見よ部屋に遺影の額並ぶ

招待を受けて思案の颯斗袋

困りごとと神様招きだす

来て欲しい来ないでくれと旅の宿

ゆつたりと鎌を休めた五月晴れ

ルーツ知る墓に詫びつつ墓終う

夢を追う男へ通帳を見せる

招いても縁がないのか来ぬお金

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西

遺伝子は要らぬところもコビーする

権力を全て一人が持つ危険

全てまだこれからだった妻は逝く

受話器から呪文かけられ騙される

一軒に何台あるか過疎の村

大丈夫呪文のようなダイジョウブ

呪文など迷わされなく生きてゆく

踏み台になった足腰がたが来た

オレのボツ誰かが呪文かけている

悲しみの渦巻きがある流し台

我が家でママの笑顔が呪文です

呪文だよ野党の抗議わかんない

恐ろしいや呪文の寝言妻が言う

妖怪に脳味噌すべて奪われた

種蒔きに呪文唱えている小鳥

女房の愚痴の詰まった台所

土台石僕に似ていて笑えない

天翔

りんこ

鐘

回春子

蠅

みつこ

三千代

一粋

加代子

菖子

紫陽

みゆき

凱柳

茶子報

ゆり子

ゆたか

慎一

正昭

実満

すみれ

かおる

弘子

好幸

盛桜

草文

よしあき

文道

茶子

孔美子

小鹿

宏章

全ての知恵だしてコロナに立ち向かい

コビー機は誤字も脱字も忠実に

縁台の将棋なつかし昭和の子

虫食いの野菜だいに食べている

君想う呪文が脳を占めるほど

他人は他人自分は自分ケリつける

僕の部屋ゴミまで全て隠しもの

手の内を全て見せずして隣の

私よりコビーのほうが上手い芸

呪文が効いてやっとな匹鯛が釣れ

ササユリの写真コビーし柳友へ

てっぺんの表彰台はまだ遠い

八十の太台になり恋してる

近代化謄写版からコビー機へ

今無縁溜めたコビーは役立たず

する度に多少違ってくるコビー

コビーして平たくなった山や川

きやらぼく川柳会(鳥取)後藤

草取りのリズムの中で五七五

水をはり田植えそろそろ始まった

亡き友が浮かぶ笑顔の青い空

今日の雨田畑潤す恵雨

まだ若い制御不能の好奇心

赤い灯が手招きするが我慢する

四ヶたに老いるため仏間ぐるぐると

おいおいに老いてく身には酷な夏

今頃になって届いた安倍マスク

ドクダミの根性地下を掘り下ろす

となりとの畑の草はいつも刈る

服選び長く着るのも今八十路

いい事もあつて一日笑顔出る

孝子

みゆき

一平

美千

宣子

大鯰

完司

楓花

照彦

蟹郎

重忠

弘六

恒

快似子

ボール

ちかし

英子

宏之報

博毅

宏之

多美子

汪

令位子

久直

雨奇

日枝子

紀の治

恵子

美草

治代

宣子

先生もデイでは生徒点呼され

そこいてスマホ割り込むコンセント

西部劇観ながら二人老いてゆく

伯耆富士緑いっぱい凜として

不要不急の用に追い回されている

入店時QRコードお出迎え

ブラザ川柳(大阪)

穂口

正子報

ホーリンラブとはどわたし若返る

新婚は向き合ってたね今は無理

向き合ってた物言う瞳マスク越し

まっすぐな早苗と子らが背負う国

直言に小さじ一杯ユーモアを

まっすぐに子の顔を見て叱る母

コロナ頼りの友がかくれんぼ

まっすぐな意見チクチク耳を刺す

自分史に愚直に生きた証し載せ

まっすぐな人と付き合い肩がこる

向き合えば喧嘩している老夫婦

川柳塔さかい(大阪)

八十を過ぎたら意地悪はやめる

冷めた目でジツと観察しますよ

止んでますよと相合傘に声かける

陽やけした子供は意地悪はしない

私の意地悪目覚めが五歳

意地悪を覚え面白がる五歳

暑かった玉音聞いて泣いた空

暑い日は温めの風呂で暑氣払い

お題目唱え滝行やつてみる

暑い夏川の氾濫痛まし

美穂

俊枝

瑞々

菜々

千代

美緒

正子

景子

政夫

清乃

弘彌

和一

淳司

克三

悦夫

五月

園子

憲彦報

いさお

勝弘

敏治

瑠美子

みつ江

玄也

ひろ子

雅明

憲子

廣子

Tシャツに短パンこれ以上脱げぬ

暑氣払い清水坂で七味買う

ブラゴミが流れる海で泣く人魚

ふるさとの川の流るに安堵する

水茎の流れ楽しむ書道展

流暢な字で八十のラブレター

悠悠と大河流れて還らない

苦勞人ひとの情に流される

西方へ命流れてゆく定め

天の川流れて父のかたぐるま

暑いねと言ったが妻が数えてる

暑い時は動かないことです昼寝

暑い暑いと言ひ合ひながら人を恋う

人間をやつてられない四十度

炎天下行く水点下の懐

風鈴の音に苛立つ日の暑さ

ジョークみな使い果たしてから暑い

憶測で焼きもち焼かれ参つたな

男らしくやるだけやつた負けつぶり

大きくてやさしいパパはまじめです

拝むだけで病は癒えずまなならず

音程をやんわりはずすマイペース

女とは優しい怖い摩訶不思議

老いて知る野草に学ぶマイウェイ

恩讐もやがて月日が暮を引く

川柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報

リモート飲みあなたの顔がきこえない

事故現場車の破片集めてる

先ずマスクしたら何かをよく忘れ

まてまてと湯上りの孫追いかける

まるまるとコロナ肥えして夏むかえ

厚 雄 修 新 録

江 次 平 香

満知子

ばっは

五月

舞夢

美津子

蕉夫

和子

唯教

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

朝子

おんな心高く見せたいハイヒール

ジグソーのパズルが一つ空いたまま

百歳になつてはきたいスニーカー

靴音で出迎えたかの違うポチ

門を掃く元の日常願いつつ

ジム通い五輪有つても無かつても

ほかほかのコロナニュースが今日もまた

飢餓のかのコロナニュースが今日もまた

人生の欠片の中に光る恋

アルプスの石のかけらが宝物

温暖化丸い地球があいそ

花マルを背負い輝くランドセル

ほかほかの便座に五体癒される

ボケたふり上手にできぬほどにボケ

性格が丸く詐欺にも笑い勝つ

定年後自粛してます馴れてます

ステイホームCMたとと見えました

足あげて歩くと靴に叱られる

三輪車押すあたまたかいパパの息

かあさんが笑うとみんなホッとする

認知症記憶のかけら探す母

トランプに丸め込まれて武器を買う

砂風呂に埋まり薩摩の芋となる

こんなにも小さな母の喉仏

西宮北口川柳会(兵庫) 緒方美津子報

咲きはこる父が残した君子蘭

全力で駆けてはいても歳は歳

孫が聞く誰の家かと姫路城

今更に家庭料理があたたかい

私のファンはやつぱり私です

楽しんで来いと選手の背中押す

恭 子

求 子

野 子

い 子

一 子

德 子

柳 明

和 子

初 音

菊 江

孝 治

健 二

千 賀

正 彦

純 彦

こ 子

良 枝

真 枝

萬 枝

久 枝

勝 弘

耕 治

美 龍

宏 造

盛 夫

紀 恵

英 坊

砂 坊

谷 修

平 子

薄物で眩しくなった衣更

コロナ後もきつと楽しい事はある

ガタガタと家も一緒に年をとり

ローン完済やつと我が家の気分する

ブランコの錆びた匂いと待ち惚け

父の日の宅配便が楽しみた

父の日に父生業の野良に出る

三密に弾む会話をもう一度

紫陽花の彩風に乗る通学路

楽しげな顔で歩くと風が言う

ナ醬が現れそうな武家屋敷

核家族大テーブルが淋しそう

ひと紙の雫大河となるドラマ

絵手紙の紫陽花の花よく喋る

自粛をよそに諭吉の密は好まれる

コロナ禍が責めて来ようが米を研ぐ

挫けまい通過点だよ現在地

願いた小石は福の神だった

男の美学は寡黙でありたいな

ぼつりぼつり昔を語る沙羅の花

亡き夫を夕焼雲に重ね見る

戦争悲話父がぼつりと語った夜

鎮守の森庭にしている家に住む

昭和史に父と祖父いる固い骨

コービーが冷めてぼつりと別れよか

帰る家あるのに今日も遠まわり

無観客カメラがぼつりオープン戦

書の道の理想追求果てしなく

ほたる川柳同好会(大畠) 水野 黒免報

哲 弘 子 男

敦 子

敏 子

正 夫

修 和

宣 子

真 子

哲 子

千 子

正 彦

武 彦

野 彦

弘 彦

千 彦

和 彦

光 彦

勝 彦

利 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

宏 彦

— 101 —

飼い主に似たブルドッグよく吠える
ぐい呑みの不出来二つと似ていない
人間の光と影は相似形
年輪の母へ母へと声かたち
裕次郎に間違えられたその昔

川柳やがわ(大阪) 籠島 恵子報

積んでつんで黒字という日の目
雲行きを睨み舐を締め直す
登っても登ってもまだ折り道
母の指思い起こしてマスク縫う
ドクターストップ養命酒なら許される
笑顔こそたまに効く良い薬
コロナ菌退治の薬いつになる
平均寿命越えて人生黒字だな
大阪弁もうかりまへん赤字だす
黒字になったらほんの少しの義捐金
終章で人生収支埋め合わせ
負けゲーム私の出番有りそうナ
水を張り畑に雲を走らせる
おだやかでない雲ゆき案じ痛む胸
唐突に膝笑い出す下り坂
坂道を登り切ったか孫寿
転がって角がとれたか八十路坂
目標はあの坂道の上の城
坂道をプラス思考が駆け上がる
男坂正論通し今がある
尾道の坂を思い出しました
自転車に老いをおしえる坂がある
息切れの坂にもこころ和む花
煮え切らぬ男と登る長い坂
生きる楽しみ自分のリズム抱いている

富子 薫 かこ 欣之 盛隆 朝子 星雨 信子 高志 一歩 堅坊 彰一 西 弘委智 鈍甲 ルイ子 壽峰 義広 清 弘一 一 文 銀杏 賢子 仁子

歳だらう國太くなってきた私
ご苦労さん妻のひと言疲れ飛ぶ
ユーマアが足りず絆が緩みだす
八回目此処から先はけもの道
オンラインコロナウイルス老いの道
人影のない公園で深呼吸吸
赤トンボ囀いたのは風の私語
雲行きを母が告げ口してくれる
モーニングティー昨夜の嘘が甘く溶け
コロナ禍に逆にアマゾン出す黒字

六甲川柳会(兵庫) 糞谷 和郎報

花火師が火花散らして夜飾る
花開き後から音が追いかける
死に際は仕掛け花火で逝きたいな
不意打ちの花火静かな空で鳴る
医療者にエールを送る青花火
漆黒の夜空に描く万華鏡
手火花に幼なじみの貌が浮く
前向きのチャンスをもらう大花火
花火師の空にエールの万華鏡
鯉が出て冷酒を頼む羽目になり
フルコースお皿ばかりとお婆ちゃん
大皿にでっかい夢を盛りつける
目を皿に探す句報に無い名前
ちっばけな屋台が僕の息抜きの場
ちっばけな自惚れだけが老いの杖
ちっばけな意地を張らずにすぐゴメン
小銭入れ四つ折りされた論吉居る
ちっばけな夢が明日の戸を叩く
ちっばけな記事芯が有る芯がある
ちっばけな部品一つで動かない
川柳します五分の魂あるかぎり

勝弘 武彦 祥昭 賀世 尚世 高賀 千賀 亜成 郁夫 千賀 義明 忠志 洋一 利彦 武彦 千賀子 千賀子 哲男 順子 礼甫 弘史 光久 芳輔 和宏

たのんまず安心できるワクチンを
ふり返りまた歩むそのくり返し
どんでん返しあると信じて歩く道
好奇心進む老化に待つたかけ
目標な老化ですねと太鼓判
正道へ進むあなたの背がまぶし
正道を抜け道さけて突き進む
欲しいものなくなつてゆく味気なさ
咳・微熱自問自答の眠れぬ夜
古いハガキ貼る一円の存在感
古粛して今日も朝から五七五
老眼やけどあなたの心見えてます
やとと出た一句にはつと茶を啜る
大雨とコロナにテレビ奪われる

豊中もくせい川柳会大阪初代 正彦報

威嚇するだけの軍備に予算組む
長生きの定義しつかり根をおろす
女子会の肴男の棚卸し
断捨離の時間たっぷりありますが
次世代の種にたっぷり金をやる
つよい時代の種にたっぷり金をやる
人の世の根幹揺るがせコロナビ
根回しをした箸挙手で裏切られ
コロナなんてなにさど緑萌えている
歴史上棚上げできぬ新コロナ
網棚へ忘れた帽子よく喋る
浴衣着て帯競い合う姉いもと
音速で棋界を駆け上がる龍児
百歳までまだたつぷりとある時間
ライバルと競うことさえ消すコロナ
仕付系嫁いだ時のまま眠る
根っこから直すに歳をとりすぎた

勝郎 和郎 真桜子 狸月 ひとみ 洋次郎 正彦 克美 盛夫 道夫 弘華 廣光 美恵子 美穂 健二 時子 歌留多 多美子 英三 くらり 武彦 多津子 玲子 野坊 弘智 満作 英子 玲子 忠子 見清

網棚にのせてホラまた忘れ物
今日の福忘れない様日記帳
アルバムにたつぷり黒い髪がある
久々の句会に競ういい笑顔
来し方を棚卸しする八十路坂
人の良さ素直に見せる八の眉
競い合った人みな鬼籍ひとりばち
手の届く夢を並べる老いの棚
駄目ダメが通じぬ孫の好奇心
好奇心たつぷり抱いて古都をゆく

川柳藤井寺(大阪)

太田扶美代報

付度の果てに異議なしまで叫ぶ
女一匹男なんかに媚びないぞ
媚びたら一億五千万もくれた
母さんはいつもつかえ棒の役
役割りを果たしたあとはそととる
乾杯の役に徹して旨い酒
一と夏を支えてくれる夏野菜
訳ありな媚びに父さん引かかる
媚びる拗ねるオンナ演じる孫娘
役割りを受けて命の幅ひろげ
父さんは悪役だけど優しいよ
役割りを果たして白い骨になる
耳は聞く目は見る口は喋る役
風呂掃除小六がする決まり事
よこれ役買った無口の玉の汗
日に三度妻笑わせるボクの役
銀行のお役目として腹巻だ
媚びたとしてびくしない田の案山子
幸せを運ぶ役割花の種
媚びた日の後ろめたさよ舌下錠
聞き役の生涯でしたお母さん

かずお 美智代 耕治 黒兎 則彦 美龍 真理子 公子 正彦 ヨシエ
ダン吉 シマ子 勝弘 六文 一歩 喜代子 典子 久仁雄 ひろ子 ひさお みつこ かずお ちづる 倅子 まつお ゆみ子 瑠美子 美代子 扶美代

川柳塔なら

大久保眞澄報

美人には鳥肌がたつDNA
「奥さま」と呼ばれ身体がむず痒い
咳くしゃみ派手で認知の新社員
アレルギーで騒ぐ男のアレルギー
猫アレルギーなのに猫だけ寄ってくる
花見会参加不能の花粉症
万れを見ると身体が痒くなる
じんま疹苦手な人がやって来る
避けるのに便利な言葉アレルギー
隅っこに追いやられたね花粉症
声を聞くただそれだけで嫌になる
火の音水の音荒れた女のアレルギー
一生涯持つて消せないアレルギー
出る杭を打たれてからのアレルギー
もう一度弾けてみよう生きている
婆ちゃんだつてマニキュアの指弾けます
殻破り未知に挑戦返る
弾ける笑い恋は順調らんらら
熟れてきた丁度私の弾けどき
コロナ菌爆ぜて令和の多事多難
世の垢を知らぬ笑顔の浮きよう
トランポリンだった私の弾き沈み
五時からを弾ける人だ従いて行く
逆風に耐えて一氣に咲かす花
月仰ぐどう生きようか思案する
来ませんかと夏冬ごとに間魔さん
いかげんか三途の川で水遊び
いかげんか笑いが買いうまで離さない
応用の広いいかがという言葉
この遅れ総理のメンツいかがした
おかわりはいかがと吸った甘い汁

寿之 恭昌 萌子 弘子 義子 壽峰 美智子 江里子 弘美 光堂 弥生 甚之市 恵美子 常男 華蓮 行久 すみ子 万紗子 満作 俊雄 保州 國治 征子 富子 理恵 敬子 志華子 雅美

丁重な氣遣い染みて抜ける闇
燃え尽きるサンバのリズムこいっしょに
ネットから世界の動き手に取れる
ふりこ

川柳塔打吹(鳥取)

齊尾くにこ報

夫婦喧嘩暑い暑いとやかましい
右や素麺五分で食べて来る句会
右向いて左向いても出る暑い
被災地は縁の下から暑くなる
汗しどきのどきがビールを恋しがる
首長待つバラバラ使い年金日
同じ親からバラバラな子が生まれ出た
握つても握つてもチャイハンバラバラに
部屋はバラバラ僕流の秩序
バラバラをつなぐと見えた青い空
酒が出る頃に全会一致する
バラバラになつても慕う血の絆
叱られてふとんに潜り泣き寝入り
磯笛は海女の凱歌だ豊漁の
へそくりはどこに潜るか思案する
日に当てた布団に潜り溶けてゆく
王室に潜つてデイナー夢の中
あの人のかくに潜り聞いてみる
合格はすれすれで良い潜り込め
海軍は南の海に潜つとる
板張り廊下鶯のよう鳴きだした
カマコりの板表札にハエ止まる
板仕切り女湯の声よく聞こえ
立て板に流してみたが愚痴一つ
胸板を叩いてみたが腰砕け
天国がある板塀の節の穴
黒板にピン押したまま夏休み

紀美恵 照彦 龍枝 三津子 公恵 悦子 富隆 野舘 美知江 紀の治 宣子 節子 久芽代 玲清 重利 紀子 陽之助 石花菜 重忠 貴恵 義人 たけ代 芳光 くにこ

句会名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
西宮北口 川 柳 会	14日(月) 14時締切 打つ・お互い・早い・自由吟	西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「ブレラにのみや」 〒663-8141 西宮市高須町2-1-31-830 福田正彦
川 柳 さ ん だ	15日(火) 13時30分締切 議論・なんで・コメント・配る 自由吟	キッピーモール 6F (JR三田駅前) 〒669-1545 三田市狭間が丘5-10-19 谷 祐康
川 柳 たちばな	16日(水) 13時45分締切 印象吟・味 (互選)・つかむ 自由吟	立花北生涯学習プラザ(尼崎市塚口町3-39-7) 06-6422-6741 阪急塚口駅北へ10分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
岸 和 田 川 柳 会	19日(土) 14時締切 心・乗る・渋い・ドライ	岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-13-19 中岡香代
川 柳 塔 みちのく	19日(土) 17時締切 菊・重い・後悔	弘前市御幸町13-1「大成小学校地域交流室」TEL0172-32-2591 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川 柳 ねやがわ	20日(日) 14時締切 席題・嵐・銀行・いたずら 自由吟	寝屋川市立市民会館 京阪寝屋川市駅から徒歩15分 または京阪バス市民会館前下車 〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉
川 柳 藤 井 寺	20日(日) 14時締切 とほける・挽回・席題共選	藤井寺市生涯学習センター・しゅらホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
南 大 阪 川 柳 会	投句句会に変更 点・席・揃う・すんなり・雑詠	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1124 高槻市南芥川町9-28-901 松岡 篤
豊 中 もくせい 川 柳 会	21日(月) 13時50分締切 ヒント・拾う・らしい・自由吟	豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川 柳 塔 すみよし	26日(土) 14時15分締切 脳・舞う・気まぐれ	住吉区役所内 住吉公民館 2F 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
和 歌 山 三 幸 会 川 柳	26日(土) 13時15分締切 甘い・苦い・匂い	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの 市 民 会 川 柳	27日(日) 14時締切 活路・痛い・モデル・席題	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川 柳 ふうもん 吟 社	27日(日) 13時から 自由吟・手伝う・問う・てっきり 席題	県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町 21 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥

★上記は年初計画です。諸般の事情上、詳細は各柳社にお問い合わせください。

9 月 各 地 句 会 案 内

(開催日順)

句 会 名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
川 柳 塔 な ら	投句句会 8月31日締切ました	奈良市立中部公民館 4F 奈良市上三条23-4 近鉄「奈良」駅④番出口 徒歩5分 〒633-0054 桜井市阿部787 安土理恵
城 北 川 柳 会	5日(土) 14時締切 弱い・バランス・頑固・自由吟	旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口 〒536-0001 大阪府城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川 柳 とんだばやし 富 柳 会	5日(土) 14時締切 黄・すんなり・自由吟	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0064 富田林市不動ヶ丘8-31 山野寿之
倉 吉 川 柳 会	5日(土) 14時締切 べとべと・鼻・怖い・席題	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男
川 柳 塔 ま つ え 吟 社	5日(土) 13時30分締切 複雑・いそいそ・ペケ 「法螺・ホラ」	松江市雑賀公民館 〒690-1223 松江市美保関町笠浦222-1 相見柳歩
ほ た る 川 柳 同 好 会	8日(火) 13時30分締切 野球・化ける・しばらく	豊中市立蛭池公民館 阪急・モノレール蛭池 蛭池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曽根2-4-1 水野黒兎
川 柳 あまがさき	8日(火) 14時締切 正直・根・オノマトペで・自由吟	尼崎市女性センター・トレビエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川 柳 塔 さ か い	9日(水)投句締切 備える・踊る・生活 折句:か・し・ま	投句句会に変更
あかつき 川 柳 会	11日(金) 14時締切 オアシス・波・月光・時事吟	大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
川柳大阪	12日(土) 14時締切 栗・日暮れ・時計	メトロ・長堀鶴見緑地線 京橋駅「研修室」 〒534-0021 大阪府都島区都島本通4-11-6 山崎珠生
六 甲 川 柳 会	12日(土) 投句会 台風・旅・若い・知る 自由吟	六甲道勤労市民センター 5階 E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-11-11 上田和宏
川 柳 塔 打 吹	12日(土) 13時30分締切 紙・配る・くるくる・席題	倉吉市上灘町9 上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
八尾市民 川 柳 会	13日(日) 14時締切 名月・すいすい・盗む・雑詠	八尾市安中町3-5-1 洪川・安中集会所 JR「八尾」駅から徒歩5分 〒581-0083 八尾市永畑町2-1-7 土田欣之
川 柳 塔 わかやま 吟 社	13日(日) 14時10分締切 兼 題=いよいよ・畑・パンダ 課題吟=小	和歌山商工会議所 4階 和歌山市西汀丁36 兼 題 〒649-6253 岩出市紀泉台366 藤原ほか 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 楽原道夫

柳界展望

▽ご芳志△

○故中川ひろ介さんご遺族から金一封拝受しました。

○藤田武人さん（同人・大阪市）、
栃尾奏子さん（同人・大阪市）より金一封拝受しました。

▽新誌友紹介△

尼崎市 田中 雅子

紹介者 藤井 宏造

尼崎市 羽奈 和子

紹介者 藤井 宏造

羽曳野市 黒木ひとみ

紹介者 吉村久仁雄

岡山県 椎葉 勉

紹介者 小島 蘭幸

次回常任理事会

近日開催予定。

今年の高野山合祀は中止いたします

諸般の事情により、今年の高野山合祀は中止いたします。なお、来年以降は隔年ごとに実施することに変更いたします。各位、ご了承くださいますよう、お願い申し上げます。

川 柳 塔 社

第51回川柳中村誌上大会

宿 題

（共選）各題2句

「大 河」	小笠原 望	瀬戸れい子
「メッセージ」	平尾 正人	平井美智子
「 鏡 」	片岡 加代	木本 朱夏
「 道 」	菱木 誠	矢沢 和女

投 句 料 1000円（発表誌呈）

用 紙 自由

投句締切 10月3日必着

投 句 先 〒787-0665 四万十市森沢2703
遠近 哲代 宛（TEL 0880-37-4364）

主 催 若鮎川柳会

後 援 帆傘川柳社 四万十市

’ 20きょうと川柳大会

<事前作品発表>

- 課 題 「雑詠」未発表作 2句
- 投句要領 原稿用紙など一枚の用紙に雑詠2句縦書き列記。郵便番号・住所氏名(ふりがな)・電話番号を明記
- 投句料および発表誌代 2000円(定額小為替・現金)を下記あて郵送
- 送 り 先 〒606-8306 京都市左京区吉田中阿達町18 シオン6
中野 六助宛 京都川柳作家協会あて
TEL 075-752-8030
- 締 切 9月12日(土) 必着
- 選 者 清水すみれ・徳永 政二・森 茂俊・木本 朱夏
※入選句は11月3日(文化の日)の川柳大会にて発表

<川 柳 大 会>

- 日 時 11月3日(火・文化の日)午前9時半会場(投句締切 11時)
- 会 場 京都労働者総合会館 ラポール京都2階 大ホール
〒604-8854京都市中京区壬生仙念町30-2
- 投句締切 午前11時
- 披 講 雑詠(事前投句作品入選句)午前11時から12時15分まで
- 宿 題 各題2句(席題なし) 午後1時40分から開始
- | | |
|-----------------|---------|
| 「記 号」 | 高橋 レニ 選 |
| 「若 い」 | 石田 和雄 選 |
| 「太 っ 腹」(読み込み不可) | 田口 和代 選 |
| 「 跡 」 | 佐藤 正昭 選 |
| 「椅 子」 | 内田真理子 選 |
- 参 加 費 2000円 ただし、事前投句参加者は不要。
- 欠席投句 投句料 2000円
- 送 り 先 事前作品 投句先に同じ。
- 締 切 10月10日(土) 必着
- 欠席投句要領 5題計10句を1枚に縦書きで列記

主催 京都川柳作家協会

編集後記

★地図と一緒に夢を畳め

り 薫風

★もはや新型コロナウイルスは誰が感染してもおかしくない状況にある。以前にも書いたが大阪には行きたくない。行きたくないが二賞選考のため八月某日事務所へ。例年なら主幹・理事長・副主幹が一堂に会するのだが今回は私と楓葉さんで応募句全部をまずチェックして大輪副主幹へ郵送。副主幹から完司理事長へ郵送、理事長から蘭幸主幹へ郵送、主幹が最終の15句を選んで事務所へ返送。それをコピーして地方の選考委員に郵送。

★各選考委員から返送された結果を事務所で集計、という煩雑な作業を経て路郎賞・川柳塔賞が決定する。例年なら10月号発表だが、各地へ郵送しながらの手続きを経るため、時間がかかる。発表は11月号。ご了承ください。

★オンライン句会に参加する機会があった。パソコン屋さんにズーム機能をつけてもらい、いろいろと準備して当日を迎えたのだが、不手際で私の映像は出ず。(その方が良かったんじゃないのとは影の声(参加者は台湾・北海道・青森・宮城・秋田・東京・大阪・岡山・佐賀、その他、総勢17名。お世話役の藤田めぐみさん、月波与生さんのお陰で私も無事に声のみだに参加できた。

★句会終了後の懇親会は各自飲み物やおつまみを用意。缶ビールを開けるプチつという音が臨場感を誘う。私はカルピスと柿の種(なんという取り合わせ!)で参加。クセになりそうな楽しいひと時を過ごすことができ

た。少人数の句会などは開かれつつあるようだが、以前のように自由に句会、大会が開催されることは当分の間望めないだろう。塔まつりの煌めき、毎月の句会の熱気、三密だったあの日、あの時が懐かしい。運命の歯車はどこで逆転したのだろう。

(朱夏)

○4月から蟄居の身となリ、編集も大方がレターパックでの在宅勤務となった。川柳塔ならの句会を見ると、ウン!?あの方

も当分望めない休止が続く、初めての誌上句会の世話をする側にもなつて右往左往する始末。暇で忙しい毎日である。そんな中、テレビ好き、ミステリー好きの私は再放送にもめげず、ながらテレビ暮らしを続けている。

○三〇年代前の作品かと思えるミステリーを見ていた時のこと、俳句の句会の場面なのでミステリーとは違ふ興味でよく見ると、ウン!?あの方

はウチの主幹によう似たはるけど...まさかね、選んだ句の評をした後は句会の一員として座ったはる。ウーン気になる...

○番組終了前のキャスト紹介の中に「竹原川柳会」の名を見つけた。もう間違いない、絶対主幹だ、若き日の主幹だ!

○柳歴の浅い私が知らなかっただけで、皆さんご存知かも知れないことだが、蟄居で唯一味わった得した気分です。(眞澄)

ひとこと

ほろ酔うと珍説

ほろ酔うと珍説を言う癖がありまして近々は、人類ホモサピエンスの三大発明。地球で進化を遂げた人類が、人間と称し自分で自分を押し上げ、地球を支配し、今や地球を踏み台にして広大な宇宙に進出する。この原動力はいったい何だろう、とほろ酔いの入口。それが三大発明なのだ酔う程に無責任発言。酔いが覚めると恥

ずかしいけれど。
1声を出して笑う技術(多分人間だけ)
2神様を発明した(畏れ多いです...)
3ロマンを造りロマンを持っている。
声を出して笑い霊長類から一歩抜け出し、神様と相合傘で寿命を延ばし、未来を拓くロマンを忘れない。これが人類の過去現在未来と思うのですけれど。

(上田 和弘)

川柳塔誌新規購読申込書

きりとりせん

年 月 日

フリガナ	氏名	住所	電話	紹介者	☐ ☐
		〒			年 年 月 月 から から 一 半 年 年 9 5 8 0 0 0 0 円 } 該当の方に○をつけて下さい (無記入でも可)

〒543-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201
川柳塔社 (電話 06-6779-3490)

振替 00980-4-298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい

川柳塔のホームページアドレス

<https://senryutou.net>

作品募集

11月号発表(9月15日締切)

川柳塔(8句)	小島蘭幸選
水煙抄(8句)	西出楓楽選
愛染帖(2句)	新家完司選
檸檬抄「したたか」(2句)	石橋芳山共選
インスピレーションナビ(2句)	古今堂蕉子選
一路集「幅」(2句)	大西泰世選
一路集「追う」(2句)	成田雨奇選
初歩教室「都合」(3句)	黒田茂代選
初歩教室「都合」(3句)	居谷真理子担当

12月号

檸檬抄「太い」

一路集「渋い」「あーあ」

初歩教室「星」

川柳塔柳箋

3冊 送料共 1,000円

事務所あてお申し込み下さい。

〒543-0052
大阪市天王寺区大道一丁目一七
花野ビル201号室

定価 八百円(送料100円)

半年分 五千円(送料共)

一年分 九千八百円(同)

二〇二〇年(令和二年)九月一日発行

発行人 小島和幸

編集人 木本朱夏

印刷所 美研アート

発行所 川柳塔社

電話(〇六六七九一三四九〇番)
振替 〇〇九八〇四二九八四七九番

お知らせ

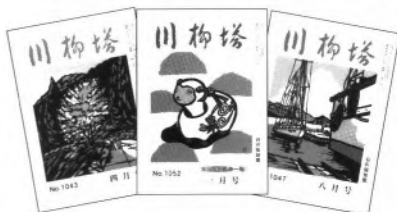
本社9月号会は誌上句会として開催、8月31日締切りしました。11月号発表。

新型コロナウイルス感染症拡大の収束の見込みは立っておりませんが、イギリスでワクチンが開発されたとの明るいニュースが報じられました。マスク、手洗い、ソーシャルディスタンスを守り、皆さまご安全にお過ごしください。

第26回 川柳塔まつりは誌上大会です
詳細は川柳塔8月号表紙裏ご参照
投句締切日9月30日、発表12月号
兼題「ブライド」「しっかり」「織る」
「元氣」「混ぜる」「扉」

川柳・俳句・エッセイ・小説
新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



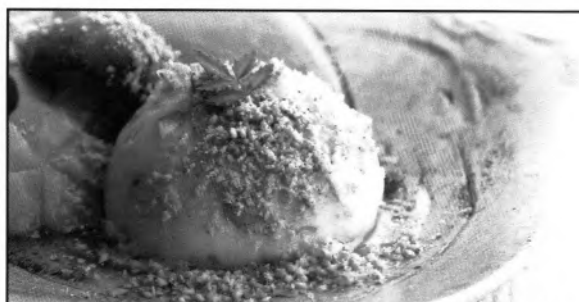
美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10
TEL (06) 4800-3018
FAX (06) 4800-3028
E-mail: bikenart@ea.mbn.or.jp

オニザキのプレミアムロースト

つぎま

杵つき製法の「すりごま」



袋を開けた瞬間に広がる、
香ばしい薫り。舌と記憶に
しっかりと残る、深いコク。
料理をより美味しくする
ゴマを作りたい、真つすぐな
想いから生まれた逸品。
それが「プレミアムロースト」。
素材本来の良さを余すこと
無く引き出した、オニザキの
自信作をお届けします。

株式会社 オニザキコーポレーション
〒862-0951 熊本市中央区上水前寺1-6-41 OCOビルディング

TEL 0120-30-5050

自費出版

川柳・俳句・エッセイ・小説

新聞・チラシ・ポスター・伝票等

あなたの思いを かたちにします

具体的なアイデアがある方はもちろん、「こんな出版物をつくりたい」という漠然とした思いだけでも結構です。まずはあなたの「思い」をお聞かせください。じっくりと丁寧にお話を伺いながら、それをかたちにしてお手伝いをいたします。

美 研 ア ー ト

TEL 06-4800-3018 FAX 06-4800-3028

〒531-0061 大阪市北区長柄西 1-1-10

ホームページ <https://www.bikenart.com> Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp

営業時間 平日 10:00~17:00 定休日：土 / 日 / 祝